

東北地区大学図書館協議会誌

第 64 号
平成 25 年 4 月



短時間PCワークエリア



長時間PCワークエリア



グループボックスエリア



フレキシブルワークエリア

東北大附属図書館ラーニング・コモンズ

加盟館一覧	表紙裏面
寄稿（目録のこれからについて～情報・コミュニティ・テクスト～）	1
第 67 回東北地区大学図書館協議会総会	10
日程	10
総会資料	11
総会議事メモ	25
出席者名簿	27
大学教育部会平成 24 年度アンケート調査の集計結果報告	31
図書館統計年報	40
協議会総会当番地区・当番大学	43
東北地区大学図書館協議会役員館一覧	44
東北地区大学図書館協議会大学教育部会委員名簿	45
東北地区大学図書館協議会会則等	46
加盟館職員名簿	57

東北地区大学図書館協議会加盟館一覧

(国 立 15 館)			
弘 前 大 学 附 属 図 書 館	036-8560	弘前市文京町 1	(0172)39-3155
岩手大学情報メディアセンター図書館	020-8550	盛岡市上田 3 - 18 - 8	(019)621-6082
東北大学附属図書館	980-8576	仙台市青葉区川内 27 - 1	(022)795-5911
同 医学分館	980-8575	仙台市青葉区星陵町 1 - 1	(022)717-7973
同 北青葉山分館	980-8578	仙台市青葉区荒巻字青葉 6 - 3	(022)795-6368
同 工学分館	980-8579	仙台市青葉区荒巻字青葉 6 - 6 - 03	(022)795-5892
同 農学分館	981-8555	仙台市青葉区堤通雨宮町 1 - 1	(022)717-8882
宮 城 教 育 大 学 附 属 図 書 館	980-0845	仙台市青葉区荒巻字青葉 149	(022)214-3348
秋田大学附属図書館	010-8502	秋田市手形学園町 1 - 1	(018)889-2273
同 医学部分館	010-8543	秋田市本道 1 - 1 - 1	(018)884-6052
山 形 大 学 小 白 川 図 書 館	990-8560	山形市小白川町 1 - 4 - 12	(023)628-4904
同 医学部図書館	990-9585	山形市飯田西 2 - 2 - 2	(023)628-5054
同 工学部図書館	992-8510	米沢市城南 4 - 3 - 16	(0238)26-3019
同 農学部図書館	997-0037	鶴岡市若葉町 1 - 23	(0235)28-2810
福 島 大 学 附 属 図 書 館	960-1293	福島市金谷川 1	(024)548-8083
(公 立 12 館)			
青 森 公 立 大 学 図 書 館	030-0196	青森市合子沢字山崎 153 - 4	(017)764-1551
青森県立保健大学附属図書館	030-8505	青森市大字浜館字間瀬 58 - 1	(017)765-2011
岩手県立大学メディアセンター	020-0193	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152 - 52	(019)694-2070
宮城大学総合情報センター	981-3298	宮城県黒川郡大和町学苑 1-1	(022)377-8313
秋田県立大学図書・情報センター	010-0195	秋田市下新城中野字街道端西 241 - 438	(018)872-1561
秋田公立美術大学附属図書館	010-1632	秋田市新屋大川町 12 - 3	(018)886-8106
国際教養大学図書館	010-1292	秋田市雄和椿川字奥椿岱 193 - 2	(018)886-5907
山形県立保健医療大学附属図書館	990-2212	山形市上柳 260	(023)686-6671
山形県立米沢女子短期大学附属図書館	992-0025	米沢市通町 6 - 15 - 1	(0238)22-7334
会津大学情報センター附属図書館	965-8580	会津若松市一箕町鶴賀	(0242)37-2545
会津大学短期大学部附属図書館	965-8570	会津若松市一箕町大字八幡字門田 1 - 1	(0242)37-2458
福島県立医科大学附属学術情報センター	960-1297	福島市光が丘 1	(024)547-1687
(私 立 38 館)			
青 森 大 学 附 属 図 書 館	030-0943	青森市幸畑 2 - 3 - 1	(017)738-2001
東 北 女 子 大 学 附 属 図 書 館	036-8530	弘前市大字清原 1 - 1 - 16	(0172)33-2289
八戸学院大学・八戸学院短期大学図書館	031-8588	八戸市美保野 13 - 98	(0178)30-1695
八 戸 工 業 大 学 図 書 館	031-8501	八戸市大字妙字大開 88 - 1	(0178)25-8032
弘 前 学 院 大 学 附 属 図 書 館	036-8577	弘前市稔町 13 - 1	(0172)34-5211
青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター	030-0132	青森市横内字神田 12	(017)728-0131
岩 手 医 科 大 学 附 属 図 書 館	020-8505	盛岡市内丸 19 - 1	(019)651-5111
富 士 大 学 図 書 館	025-8501	花巻市下根子 450 - 3	(0198)22-4986
盛 岡 大 学 図 書 館	020-0183	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込 808	(019)688-5561
修 紅 短 期 大 学 図 書 館	021-0902	一関市萩荘字竹際 49 - 1	(0191)24-2211
岩 手 看 护 短 期 大 学 図 書 館	020-0151	岩手県岩手郡滝沢村大金字千が窪 14-1	(019)687-3864
仙 台 大 学 附 属 図 書 館	989-1693	宮城県柴田郡柴田町船岡南 2 - 2 - 18	(0224)55-1399
仙 台 白 百 合 女 子 大 学 図 書 館	981-3107	仙台市泉区本田町 6 - 1	(022)374-5090
石 卷 専 修 大 学 図 書 館	986-8580	石巻市南境新水戸 1	(0225)22-7718
東 北 学 院 大 学 中 央 図 書 館	980-8511	仙台市青葉区土樋 1 - 3 - 1	(022)264-6491
同 多賀城キャンパス図書館	985-8537	多賀城市中央 1 - 13 - 1	(022)368-1206
同 泉キャンパス図書館	981-3193	仙台市泉区天神沢 2 - 1 - 1	(022)375-1174
東 北 工 業 大 学 附 属 図 書 館	982-8577	仙台市太白区八木山香澄町 35 - 1	(022)305-3178
東 北 福 祉 大 学 図 書 館	981-8522	仙台市青葉区国見 1 - 8 - 1	(022)717-3319
東北文化学園大学総合情報センター図書館	981-8551	仙台市青葉区国見 6 - 45 - 1	(022)233-3878
東 北 薬 科 大 学 附 属 図 書 館	981-8558	仙台市青葉区小松島 4 - 4 - 1	(022)727-0061
宮 城 学 院 女 子 大 学 図 書 館	981-8557	仙台市青葉区桜が丘 9 - 1 - 1	(022)279-5658
尚 紗 学 院 大 学 図 書 館	981-1295	名取市ゆりが丘 4 - 10 - 1	(022)381-3440
聖 和 学 園 短 期 大 学 図 書 館	981-3213	仙台市泉区南中山 5 - 5 - 2	(022)376-8257
仙 台 青 葉 学 院 短 期 大 学 図 書 館	984-0022	仙台市若林区五橋 3 - 5 - 75	(022)369-8003
東北生活文化大学・同短期大学部附属図書館	981-8585	仙台市泉区虹の丘 1 - 18 - 2	(022)272-7518
ノースアジア大学附属図書館	010-8515	秋田市下北手桜守沢 46 - 1	(018)836-2406
東 北 芸 術 工 科 大 学 図 書 館	990-9530	山形市上桜田 3 - 4 - 5	(023)627-2044
羽 阳 学 園 短 期 大 学 附 属 図 書 館	994-0065	天童市大字清池 1559	(023)655-2385
東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館	990-2316	山形市片谷地 515	(023)688-7544
東北公益文科大学メディアセンター	998-8580	酒田市飯森山 3 - 5 - 1	(0234)41-1177
い わ き 明 星 大 学 図 書 館	970-8551	いわき市中央台飯野 5 - 5 - 1	(0246)29-7121
奥 羽 大 学 図 書 館	963-8611	郡山市富田町字三角堂 31 - 1	(024)932-8931
郡 山 女 子 大 学 図 書 館	963-8503	郡山市開成 3 - 25 - 2	(024)932-4848
東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館	970-8567	いわき市平鎌田字寿金沢 37	(0246)35-0416
日 本 大 学 工 学 部 図 書 館	963-8642	郡山市田村町徳定字中河原 1	(024)956-8639
桜の聖母短期大学図書館情報センター	960-8585	福島市花園町 3 - 6	(024)534-7137
福島学院大学図書館情報センター	960-0181	福島市宮代乳児池 1 - 1	(024)553-2087

第67回東北地区大学図書館協議会総会



東北大學 植木図書館長



総会風景



表彰式



講演会講師 和歌山大学 渡部図書館長



講演会風景



国立大学部会風景



公立大学部会風景



私立大学部会風景

寄 稿

目録のこれからについて ～情報・コミュニティ・テクスト～

山形大学農学部図書館図書担当係長 土屋 直之
(現文部科学省 大臣官房政策課 情報化推進室
情報化振興第一係長(併)データベース企画係長)

はじめに

米 EDUCAUSE review 誌の 2012 年 11・12 月号に、OCLC 副会長ローカン・デンプシー (Lorcan Dempsey) 氏の執筆した「図書館・ディスカバリー・目録のこれからについて考える 13 の視点」(原題: Thirteen Ways of Looking at Libraries, Discovery, and the Catalog: Scale, Workflow, Attention) と題する記事が掲載された。同記事では、図書館、ディスカバリーサービス、目録という領域における今後のトレンドについて解説している。

同記事によると目録は今後大きな変容を遂げるとされている。本稿は同記事の概要を紹介することで読者の理解の一助としつつ、後段では同氏の提案に代表される図書館や目録を取り巻くトレンドについて、やや俯瞰的な視点から批判的検討を試みるものである。なお、引用部分の訳は筆者による。

1. 「図書館・ディスカバリー・目録のこれからについて考える 13 の視点」解題

デンプシーはまず序文において、ネットワーク環境のもとではサービスは利便性と満足度の基準にさらされて淘汰されるのであり、目録はさまざまなサービスと結合して生き残ってゆくものの、それ単独としては消滅していくだろうと述べる。

目録と書誌情報には興味深い革新がある。しかし、目録それ自身が変容するにつれて、図書館サービスの中で個別の資料の同定コンポーネントとしてのそれ自身が消滅する結果となるかもしれない。目録は大図書館のディスカバリー環境に包含され、書誌情報は他のシステムやサービスに流入する。(中略)

目録は情報資源が乏しく、情報への注目があふれていた時期に一気に出現した。それらは冊子として発行され、図書館に集められ、その地域に限って(ローカルに)利用可能であったため、個別の文書や研究資料のような情報資源は比較的僅かであり、それゆえの乏しさであった。もし、図書や雑誌、研究レポート、地図、政府刊行物を調べたければ、あなたは図書館へ行った。しかしながら、この状況は今や逆転した。情報資源があふれ、一方でそれへの注目は乏しい。

ネットユーザーは利用可能な大量の情報資源をネットワーク上に持っている。研究・学習資料はさまざまなサービスを通じて利用可能であることがあり、物理的な近さは必要としない。さらには、ネットユーザーはしばしば第一に、ネット全体を横断する可視的なアクセスの供給が測定される(例えばグーグル、ウィキペディア、アマゾン、PubMedCentralといった)巨大ネットワークレベルでの中心地に向かう。自然なこととして、彼らの興味は部分的に増えていくように見えるローカルな選択肢ではなく、より完全な情報源に引き寄せられるようになる。研究が示すのは、利便性の高い価値と満足度の重要性である。ネットユーザーは、情報資源を探すために長い時間を費やしたくないのである。

2 つめの傾向は関連している。情報資源が乏しい、物理的アクセス環境のもとでは、利用者は図書館の周りに彼らのワークフローを作り上げる。この中心的な役割は、キャンパスや自治体の中で図書館の建物

がその中心にあることによって、可視化されている。しかしながら、ネット上では、我々はだんだんと自らのワークフローの周りにサービスが立ち上がる 것을期待する。そしてこのことは、情報資源が我々に複数の方法で提供されるようにデザインされることを招來した。(中略)

知識編成システムは、ネットワークによるアプローチによって変容させられるかもしれない。皮肉にもそのとき目録にまつわる問題の一群が明瞭になり、それが緩和されるにつれて、古典的な目録それ自体は視界から後退してしまう。その機能性や手段は消滅しないかもしれないが、それらは目録それ自体から切り離され、ネットワークディスカバリー やワークフロー環境の変化の中で再結合させられるかもしれない。

次いで、第3節「コミュニティは新しいコンテンツ」において、著者は人々がSNSの利用に慣れ親しんでいることを述べ、アマゾンレビュー や読書SNSなどでレーティングやレビューに参加する人々は、それ自体が情報資源なのだと説く。また、利用データを分析してリコメンドに使うことや、最適なキュレーション(取捨選択；価値判断)を行うためにそういった資源を利用し、データを機関横断的に統合するべきだと示唆する。

議論やリコメンド(推薦)、レビュー、格付け等々の観点から見た、コミュニティと情報資源の間の相乗効果は私たちの使う主なネットサービスのほとんどの形式の中に明示されている。実際、この体験のできないサイトが、フルカラーの世界の中の白黒テレビのように、どうにかして色あせてしまったように見えるのが今の我々の体験の大きな一部分である。(中略)

例えば、ソーシャルブックマークやアマゾンレビュー、読書SNSを想起してほしい。この方法で参加する人々は少数派かもしれないが、彼らの貢献はサイトの総体的な体験の中では重要である。そういう人々はネット上の情報資源であり、また、他への媒介者ともなったのである。(中略)

情報資源が大量にあり注目が乏しい場所で、ソーシャルなアプローチや分析論の成果を用いてフィルタリングすることは、より価値を高める。意図してタグやレビューなどの形で残すもの、あるいは意図せずに利用データや更新の様態の形で残すもの、およびその他のユーザーが残したデータは、情報資源に相乗効果をもたらす。それらは、より効果的なランキング、関連商品の紹介やリコメンドといったサービスをユーザーに与える。

この文脈において、目録には何があるだろうか？いくつかの目録は集合タグとレビューを実験しているが、目録が中心的な役割や広がりを持ったり、それ自体にソーシャルな活動を結晶化する個人のつながりを持つとは思われない。(中略) 目録は一般的に集合化された利用データによるランキング、関連書の紹介、リコメンド機能を持たないし、改めて、これが統合レベルやローカルな組織化において実現できるベストだと思われる。

目録が使い慣れたいいくつかの場所があるー例えば読書リストやリソースガイドといったものーそれらはそういう注目に対し、特に適切だと思われる。このキュレーションという新興階層に含まれる選択肢は、より有用な知識を提供するために統合され得る。(中略)

私たちのウェブ体験は、今、ソーシャルデータや利用データに基づくランキングやレーティング、リコメンドによって活発に形成されている。おそらく、汎機関的な(機関を横断する)アプローチは、適合するスケールを生み出すために必要であることから、図書館サービスにとってこれは大きく組織的な課題である。

第6節「事物のメタデータの4つの情報源」において、著者は目録情報源が従来のタイプのものから4つに拡張されるべきことを説き、それぞれに解説を述べる。

メタデータへの関心の性質もまた変わるかもしれない。図書館資料の4つのメタデータの情報源について考えるために有用なものを以下に記す。

専門職によるもの：特定の業務の目的を支援するためにスタッフ職によって生み出されたもの。（中略）これは、図書館での検討によって統制されたタイプのメタデータである。このアプローチが物理的出版物の環境のもとで合理的に働いていた間、作業そのものや、作業のコストは図書館間で分散して負担されてきたので、我々はそれが電子資料に広がり、特殊資料やアーカイブ資料の問題が主張されるとは見ていない。

クラウドソース：システムの利用者によって作られたもの。商用サイトにおけるタグやレビュー、レーティング（順位付け）を想起してほしい。このタイプのメタデータは、上記した理由により図書館サイト上ではあまり広く使われてこなかった。図書館は社会的組織であるけれども、おそらく図書館ウェブサイトや目録は、活動を結晶化することにおいては低水準にある。（中略）

機械的生成によるもの：デジタルファイルからのメタデータの自動抽出、自動分類、自動存在同定、その他により作られたもの。これはより一般的になるだろうが、もっと拡散するにはツールと実践が必要だろう。（中略）

利用者の意思または取引によるもの：選好と取引に関するデータから生まれたもの。このデータは分析やビジネスインテリジェンスサービスを支援する。商用サイトにおける集計された取引データに基づくランキング、関連商品紹介、リコменド（例えば、「これを買っている人はこちらも買っています」）を想起してほしい。この種のデータについて先に検討したのを再度述べると、それは非常に有用なので機関のレベルを超えてを集められ、図書館で利用可能になる必要があるだろう。

第9節「新興のディスカバリー階層：全コレクションディスカバリーから全図書館ディスカバリーへ」においては、著者は図書館のもつ全てのコレクションを検索する新しいサービスとしてディスカバリー階層の製品の登場を紹介する。また、全コレクションを発見できるようにするだけではなく、全図書館を発見できるようすべきだと説く。全図書館ディスカバリーには、読書リスト、読書SNSなどのキュレーション環境も結び付けられるべきだと説き、併せて、図書館職員のプロフィールや専門分野をもディスカバリーの対象として全図書館ディスカバリーを実現させるべきことを示唆する。それによって図書館は中立・匿名の立場から抜け出て、自らの専門性をアピールするよう求める。

最近の大きなトレンドは資料すべてを網羅した統合ディスカバリー環境を提供することであり、新しいシステムカテゴリーであるディスカバリー階層はこれを可能とするために出現した。これはその一部として目録情報を包摂する。そして、目録は個別に利用可能なものとして残るかどうかというのが、明らかになった疑問である。（中略）

現在、そのモデルはまだリゾルバ／ナレッジベースとローカル目録作成機関を通じて、ローカル環境にリンクされ、各図書館はデータに関する自らの見解を持っている。しかしながら、おそらく時間とともにこのモデルはシフトするだろう。そして、図書館は1つ以上の中央サービスのもとで所蔵を登録し、利用者が中央サービスのどの部分にアクセスするかを決定するための認証／認可の枠組みを管理するようになるだろう。（中略）

これらのシステムの焦点はコレクションの検索にあった。（しかし、）あるものは別の可能性の方向を見ている。

私は先に機関や個人におけるキュレーション環境について検討した。リソースガイド、読書リスト、読書SNS、引用管理ソフト、学部案内等である。これが研究／学習の課題や個人の／職業上の関心事、ま

たは他の何かである場合、これらは、書誌情報に特定の文脈を加える。ディスカバリーの重要な側面となるそれは書誌情報を構成しうる。それらに書誌情報を提供することができ、それらにリンクされるのは有益であるにもかかわらず、図書館資料は目下、これらの片方に座っている。

2つめに、図書館利用者は蔵書よりも他のことに関心をもっている。例えば図書館サービスや図書館の専門分野である。私たちは今、図書館のディスカバリーの目標がサービス、職員のプロフィールや専攻、その他の図書館提供物をすぐそばで発見できるようにし、そして、同じ検索環境で蔵書についても同様にする「フルライブラリー」のディスカバリーに拡張されるのに立ち会っている。

ミシガン大学のウェブサイトは良い例である。（中略）分割型の結果表示ペイン（「弁当箱」）に表示される、検索式に適合した関係する主題専門家の応答はとりわけ興味深い。図書館ウェブサイトは、多少匿名ないし中立の傾向があった。しかしながら、もし図書館が専門家と見なされたいと望むなら、専門性は見えるようにしなければならない。

2. 「図書館の自由」とコミュニティとの関わり

前節ではデンプシーの提案の概要を紹介した。その骨子を述べれば、現代のネットワーク環境における「情報資源はあふれ、一方で個別の資料への注目は乏しい」という現状認識と、それへのソリューションとしてのディスカバリー階層の製品やリコメンドのような機械的キュレーションを提案するものであった。同氏の提案に筆者も基本的には賛同する。おそらくこのまま「情報の氾濫」が続いていった場合、シンプルな情報検索ではあまりにも多くの情報がヒットしすぎてしまい、人力で仕分けることができなくなるだろう。同氏の提案のようなソリューションが登場した背景はまさにそういったニーズに答えるためであった。

ただここで筆者が述べたいのは、「情報」の検索や選別のあり方としては同氏の提案に全面的に賛同するものであるが、図書館あるいは書物の役割は、果たして「情報を届ける」ことだけであろうか、という視点である。その視点で見た時、同氏の提案にそったソリューションを導入すると捨象されてしまうものがあるのではないか。また、それは図書館の本質に関わるものではないか。そういう観点で、以下同氏の提案への批判的な検討を試みたい。

同氏の提案の中で、すでに批判がなされている点として「図書館の自由」との関わりがある。利用履歴データの蓄積や汎機関的統合、リコメンドへの利用といった仕組みは「図書館の自由」の観点から問題があるとの見方である。

管見のかぎりでは我が国の図書館界で、利用履歴データの蓄積とリコメンドへの利用について明確に反対意見を表明したものとして、村岡ら（2010）がある。これは「討議『図書館の自由に関する宣言』改訂から30年 その今日的展開」の題のとおり、「図書館の自由に関する宣言」（以下自由宣言という）に依拠しつつ、主に利用データにもとづくリコメンドサービスへの賛否を検討したものであり、討議者の全員が反対を表明したわけではないが、全体の論調としては、図書館は利用者の読書の秘密を守るために利用履歴の削除を行なってきたのであり、それへの懸念が払拭されない限り、単に有用性と引き換えに理念を捨て去ることはできない、というものであった。

それに対し、例えば岡部（2012）のように、そういう消極的姿勢をやんわりと批判する論者もいる。

利用者に自動的に本のオススメをしてくれるシステムをウェブサイトに実装した公共図書館に対し、自由宣言にある「読者の秘密を守る」を遵守していないと脊髄反射で批判が行われたことがある。その図書館は二重三重で個人情報保護の配慮をしているにもかかわらずである。そののち、そのシステムを実装した仕掛け人のライブラリアンが、自由宣言はもはや時代的文脈にそぐわないと適宜改訂を行なってもいいのではないか、という提言を行なっているが、実際のところ、その発言は黙殺に近いところがある。

「自由宣言はもはや時代的文脈にそぐわない」点に筆者もある面では同意するが、その内実はいさか異なる。それを説明するため、ここでは自由宣言の内、「読者の秘密を守る」を一旦離れ、「資料収集や提供の自由」の観点から見てみたい。例えば、山本（2008）は船橋市立図書館蔵書廃棄事件の最高裁判所第一小法廷判決に言及しつつ、以下のように述べている。

「独断的な評価や個人的な好みにとらわれることなく、公正に図書館資料を取り扱う」とあるが、図書館資料の取り扱いということになれば（中略）一連の所蔵資料のライフサイクルを意味する。この事件では「除籍基準」が問題となつたが、実務的にはそれぞれの段階に基準がある。それらの基準が適切に適用されれば「特定職員の独断的な評価や個人的な好み」が混入する余地はないということになるのであろう。

（中略）しかし、（中略）現実にはこの事件で問題とされた「新しい歴史教科書をつくる会」の良く知られたメンバーの方たちの著作物が図書館資料として数多く所蔵されているということはない。

船橋事件の最高裁判決が指摘するように、自由宣言が担保しようとする資料収集や提供の自由は予算や配架スペースという物理的制約によって、"完全な"実現が不可能であることは自明である。世の中のすべての資料の収集ができない以上、「価値中立的」に資料を収集することとなるが、仮に図書Aを選ばずに図書Bを選んだとして、その理由を合理的に説明できるケースはかなり限られることは、実務を担当した職員であれば誰でも実感できることであろう。結果として図書館の蔵書の現状が現実には価値中立的とは言えないことは、山本の指摘に見るとおりである。

それでは、図書館は何によって資料を選択するのであろうか。福井（2011）は、船橋事件の最高裁判決が言及した「公的な場」という概念と、米国のパブリック・フォーラム概念との関係を検討する中で、米国の類似事件の判例を引いている。すなわち「公立図書館は学習と文化肥沃化を促進するという価値ある使命を追求している」のであり、「公立図書館はどのような資料を利用者に提供するかを決定する幅広い裁量権を持たねばならない」。「図書館は必要なものまたは適切な質を持つと思われる資料のみを収集してきた」「図書館員の責任はがらくたと黄金を区別することであり、すべてのものを保存することではない」…以上のような言説である。

選書理論には、大きく価値論と要求論の2つがある。上記判例の述べることは、価値論と同義と解されよう。筆者はこれらの判例の主張に同意する。すなわち、自由宣言が掲げる理念の弱点は、コミュニティを良くするためになされるべき図書館の積極的な役割を後退させる含意をはらまざるをえなかつた点であり、ICTの著しい進化に伴うパラダイムシフト（価値体系の転換）という現実に鑑みて、図書館はコミュニティ（国家や大学、自治体などの共同体）の利益を守るために存在するという自らの立場をより積極的に明らかにしつつ、業務を遂行することが求められるというのが筆者の考え方である。

コミュニティの利益を積極的に増進しようとする立場からは、デンプシーの提案は批判の対象となる。すなわち、利用履歴データに基づくリコメンドや、ユーザーレビュー、ユーザータグといった主体としての図書館の意思が介在しない、無作為で「集合知」的な情報に基づく機械的キュレーションは、図書館の本来の役割と合致しないということである。

あるいは「資料収集・提供の自由」とリコメンドのような機械的キュレーションは無関係であるという反論もありえよう。選書という図書館のコレクションを形成するプロセスと、図書館のコレクションの中で利用者が何を読むべきかを推薦することとは別であるという考え方である。しかし、それは適当な考え方だろうか。情報（図書館資料）が増えていく中で、読者がどれを読むべきかについて図書館が主体的に関与するという意味では、選書であれキュレーションであれ、同じことである。図書館におけるキュレーションは、デンプシーの挙げる例で言えば、リソースガイドや読書リストのような形で図書館の主体性の元に提供されるべきではないか。

ところで、デンプシーの提案がなされる時代的文脈は「情報の氾濫」ということであった。すなわち、図書館がコミュニティの利益を増進するために主体的に資料の取捨選択をしようにも、ネット上の情報であれ、出版物であれ、世の中に流通する絶対量が多すぎて、事実上、デンプシーの述べるような機械的な解決方法に頼らざるをえないということである。別の側面から見れば、「情報の氾濫」こそが取捨選択の必要性を生じさせ、機械的なキュレーションを登場させたということでもある。

しかし、踏み込んで述べるなら、まさにそのことこそが筆者が機械的な解決方法を批判する理由である。

その点を指摘するために、ここで視点を変えて現代の公共哲学との関連について述べる。よく知られているように、現代の公共哲学はサンデルらの主張するコミュニタリアニズム（共同体主義）とノージックらの主張するリバタリアニズム（自由至上主義）とが相克する状況となっている。

サンデル（2010）は「大学入学における積極的差別是正措置（アファーマティブ・アクション）」の是非や「同性婚の是非」などにコミュニタリアニズムとリバタリアニズムの対立の例を見出している。すなわち、コミュニタリアニズムの立場では、共同体における美德や名誉を増進するためにマイノリティの学生を積極的に受け入れたり、同性婚を許可（または禁止）したりといった、共通善に基づく一定程度の恣意性の発揮が認められると説き、一方、リバタリアニズムにおいては、自己所有権を価値観の中心に置き、一見不道徳・不公正に見える選択であっても自由意思でなされた決定は尊重されるべきと説く。すなわちリバタリアニズムでは、例えば臓器売買や代理出産といった事例についても当事者の自由意思の元に同意がなされたならば、それらは許容されねばならないと説くのである。

さて、近代図書館は歴史的に見て、共同体（都市内の「兄弟団」や大学等）の利益を増進するために生まれたことは明らかであろう。一方で、自由宣言に見られるように自由と民主主義というイデオロギーの浸透に伴い、カント的自由を担保する機関としても機能してきた。

しかし、「情報の氾濫」すなわち情報の量的な増加は、それがあまりに圧倒的なために人の手でそれを仕分けることを事実上許さなくなり、人類がそれを処理する方法の質的な変化までをももたらしたと言える。それによって、カント的自由という理念を踏み越えて、機械的キュレーションという、人の意思が介在しないリバタリアニズム的な手法を図書館に半ば強要しようとしているのではないか、というのが筆者の理解である。

リバタリアニズムの特徴は自己決定権（自己所有権）を価値観の中心に置くことで、取りうる選択肢の自由を最大化することである。機械的キュレーションによって自己決定をサポートしようという考え方からは、コミュニティやそれを代理する図書館の意志を介在させずに、情報の取捨選択を完全に一個人に委ねることである。こういった自由を最大化させ、共同体の役割を後退させるやり方はリバタリアニズムに親和的な手法ということができる。

図書館（および書物）はこのように目に見えないパラダイムシフトによって、大きく変質させられようとしている。ここにおいて図書館は当初の理念に立ち返り、コミュニティの利益を守り、構成員の幸福を増進するために主体的に活動すべきであるというのが筆者の立場である。

誤解の無いように強調しなければならないが、このことは決して自由宣言やカント的自由の否定を意味するものではない。カント的自由は人類に多大な恩恵を与えたが、「情報の氾濫」などの現代を取り巻く環境は、そのステージを越えてリバタリアニズムかコミュニタリアニズムかの選択を迫っている。その意味で言うと、先述したように「自由宣言はもはや時代的文脈にそぐわない」のであるが、自由宣言が果たしてきた歴史的役割は、今も現状を構成する重要な土台の一つであり、背景に後退してしまったわけではない。

ところで、資料選択において自由ということが言われるとき、理念の面では「思想善導機関となった反省」からのカント的自由への希求というものがあるにせよ、それが実務に落とし込まれたときに、選書を行う図書館職員がすべての本の内容を理解した上で判断することはそもそもできないという前提がある以上、結果として現実には恣意性が発揮されることを「自由」の名の下に黙認してきた（自由ということは A を選んでも B

を選んでも良いということである）、そういった「自由の負の側面」も予想されるのではないだろうか（現実の蔵書が「価値中立的」ではないことを想起されたい）。

もし、そうであるならば、実態上恣意性が發揮されることは、コミュニケーション主義の立場を取ろうと、自由宣言の立場をとろうと同様であることになる。前述のように、図書Aを選ばずに図書Bを選んだ時、そこに恣意性が全くないという主張はおそらく成り立たない。

コミュニケーション主義の立場をとると、具体的にどのような共通善を設定し、それによってどのように選択をするのかを少なくともある程度明確にする必要が生じるであろう。「自由」状態にある方が実務的には「楽」である。しかし、それによって招来するものは、リバタリアニズムであり、すなわち「書物の死」ではないか。

スローターダイク（2000）は90年代に「書物の死」を言明した。すなわち、書物を読むという行為は受取人の定かで無い手紙を受け取ることであり、その繰り返される友愛の振る舞いによって、人々は教養を身につけ、「人間性」を保ってきた。しかし、ネットを含むマスコミュニケーションの発達は、人々に多量の情報を送りつけ続けることで、テレコミュニケーション（遠隔地との情報交換）を一変させ、書物による人間性の涵養という手段を死滅させた。

すなわち情報の氾濫が「書物の死」を招來したことを指摘した。この指摘は的を射ているであろう。カント的自由は人々に幸福をもたらしたが、技術の進展（パラダイムシフト）がもたらしたリバタリアニズムによる無制限の自由は「書物の死」を招き、「人間性」を奪い、人々を共同体の構成員から孤立した個々人へと変えた。図書館は本来、もっと早く書物の復権に取り組まなければならなかつたと考えられるのである。

3. 「情報過多」とテクストの関わりについて

前節では図書館の自由とコミュニティの関係について概観したが、仮に情報の量的な増加が図書館や書物を不幸に追いやっているという現実を認めるとても、それに対しどう対処すべきであろうか。

これに関しては、書物のもたらす役割について初心に返り、図書館職員の直観に基づいて素直に、素朴に考えればよいのではないかというのが筆者の提案である。それはこういうことである。図書館職員のワーキングプアということが言われて久しい。これは、一面ではどうしても図書館で働きたい人が多いということの裏返しでもある。そういった人々のモチベーションを支えるものは何だろうか。陳腐な言い方となってしまうが、それは「本が好き」すなわち、書物への愛ということに尽きるであろう。

図書館職員を目指した人ならば誰しも、寝食を忘れて本のページをめくった経験があるのではないか。そこで感じ取ったものは単に「役に立つ情報」だろうか。それとも別の何かであろうか。そのことを真摯に見つめたときに「役に立つ情報」を与え続けることが、利用者の利益に合致するという見立ての誤りに気づくのではないかだろうか。スローターダイクが、書物の役割は人間性の涵養にあると述べたことを想起すべきだろう。

とは言え、図書館職員としての直観に頼れというのみでは、業務において適用するには観念的に過ぎよう。ここでは、最近のテクスト学の成果から情報とテクストの関係性について紹介し、それをもって上に述べたことを理論的に補強することとしたい。

まず、「情報過多」の現状を確認するために、カー（2010）を引いてみよう。

ネットにあてられる時間は、テレビの視聴に費やされていたはずの時間から都合されていると考えられることがしばしばである。だが、統計が示唆するのはその仮定とは別のことだ。（中略）ネット使用が増えつつ確実に減少していると思われるのが、印刷物を読むのに使われている時間だ。（中略）マイペースやフェイスブック、ツイッターといったSNSの隆盛により、近年、加速は最大限に達している。

（中略）SNSは人々に対し、強迫的な社交形態を新たに提供した。またそれは、即時性をまったく新しく強調するものでもあった。（中略）最新の状態にいつも追いついているためには、メッセージ到着の知

らせをつねに見張っていなければならない。

ネットにあてられる時間は、書物を読む時間から捻出され、タイムラインの発明とともに人々は強迫的にいつも情報に追い立てられている。こういった情報過多の現実と、書物が人類にもたらしてきたものの豊かさとの隔離をこそ思料すべきだろう。情報が捌き切れないほど多いから、それをシステムティックに一機械的キュレーションによって一仕分けるという発想は、人々をより多忙にする手助けをするだけで、必ずしも幸福に導くとは言えないし、少なくとも「図書館的」な手法とは言いがたい。

どうしても、有用な情報を送り続けることこそが図書館の使命であるとの考えを捨てられない人には、例えればニーチェの「あらゆる出来事に言及しようとする名譽心に苦しめられている人々のもとに、懷妊の深い寡黙は決して訪れない」という言葉や、ドゥルーズの「堕落した情報があるのではなく、情報それ自体が堕落なのだ」という言葉を引いて答えに代えれば十分ではないだろうか。

書物に書かれているものはテクストー「書かれたもの」である。「有用な情報」とテクストからもたらされる靈感との境界はどこにあるのだろうか。スローター・ダイクが述べたようにそれを復権させることはもはや不可能なのか。

ここで、歴史的にテクストが「情報的なもの」になっていった過程を見ることでその示唆を得られることを紹介する。例えば宮下（2002）はテクストがなかった時代には話し言葉がテクストとしての役割を果たしていたことを述べている。

そもそも中世前期までは「声」が、「記憶」が決定的だったことを忘れちゃいけない。たとえば土地の所有権争いの場合だって、共同体の古老の「記憶」による証言が決め手になっていた。こうした「記憶」と、財産や権力を示す「象徴物」が正当性の根拠とされたんだ。土地を与えたり、権力をゆだねる時には、「声」、剣のような「象徴物」、そして「証人」という三点セットによる儀礼がとりおこなわれていたのだからね。

「記憶」は「儀礼」と表裏一体のものだった。口頭による証言ではなく、証書などのエクリが法的効力を有するのは、もう少し後のことだからね。

そして、佐々木（2010）は、宗教史家ルジャンドルの業績を引きつつ、テクストが情報となっていった事象である「中世解釈者革命」を紹介している。古代ローマ法の再発見とその法体系に基づく当時の法規のテクスト化の過程、また、それから派生した主権や法人といった概念が「近代」を生む母体となっていったことを説く。その過程で「声」「記憶」「象徴物」や話し言葉—「神話」「音楽」「踊り」などを含む—はテクストとしての役割を失い、テクスト（書かれたもの）はただの情報となっていった。

「中世解釈者革命によってもたらされた断絶は、ここに関わるものです。テクストが文書になる。テクストは情報の器になる。情報だけが法や統治、そして規範にかかわるものになる。（中略）客観的で合理的で中立的で普遍的で記号化できる、つまりデータ化される世界、データベース化できる世界」（佐々木（2010））

佐々木はこのような情報のあり方を批判する。そして、テクスト本来の役割の復権を唱える。

「すべて」が情報である、だなんて、もう 800 年も延々やっているわけですね。それがみんな新しいと思っているわけでしょう。滑稽です。もうデータベースなんてうんざりなんですよ。そんなもの面白くも何ともない。800 年前の革命に縋りつけようだなんて、一体反動なのはどちらなのか。この情報と暴力のなかで藻搔く世界が歴史の終わりにあって、ここから何も変化はなく、ここから脱出する術はない、と。そんなことは無い。ありえない。創り出したのが人間なら、われわれ人間はそこから抜け出すことだって出来るはずだ。

直接言及されてはいないが、佐々木が述べる「データベース」はある現代思想家が唱えるそれに対応するものである。しかし、図書館はこの言説をただ人ごとのように読み取るべきではないであろう。「データベース」は目録（OPAC）や機械的キュレーションを含む図書館のデータを指し、佐々木の主張は書物を取り扱う図書館への箴言でもあると受け取るべきであろう。

あるいは佐々木が述べるテクストの復権を文学の復権をめざすものとして読み取る人もあるようである。しかし、筆者にはそれだけで良いとは思われない。テクストが運ぶものは、文学のもたらす靈感に限られるものではないだろう。再度、スローターダイクが書物は「人間性」を涵養してきたと説いたことを想起してほしい。

あるいは佐々木の主張は楽観的に過ぎると考える向きもあるだろう。テクストが情報となったのは、特定の人物の恣意によるものではない。それは歴史の流れの上の必然であり、もうすでに起きてしまったことである。それを元に戻すことは容易にできないのではないか、と。その通りであると筆者も考える。しかしながら、以下を改めて述べたい。すなわち、ただ有用な情報を送りつけ続けることが図書館の役割なのか。そうでないのであれば、我々は考え続けなければならないのではないか。

参考文献

- Lorcan Dempsey. "Thirteen Ways of Looking at Libraries, Discovery, and the Catalog: Scale, Workflow, Attention". EDUCAUSE Review. 2012-12-10.
<http://www.educause.edu/ero/article/thirteen-ways-looking-libraries-discovery-and-catalog-scale-workflow-attention>, (参照 2013-03-07).
- ニコラス・G・カー. ネット・バカ：インターネットがわたしたちの脳にしていること. 青土社, 2010.
- 福井佑介. 「公的な場」とパブリック・フォーラム論との関係性について：図書館資料著作者の権利性の視点から. 京都大学生涯教育学・図書館情報学研究. 2011, 10, p.101-120.
- 宮下志朗. 書物史のために. 晶文社, 2002.
- 村岡和彦ら. 討議「図書館の自由に関する宣言」改訂から30年：その今日的展開. 図書館界. 2010, 62(2), p.112-126.
- 岡部晋典. "鎧びはじめてきた、図書館の伝家の宝刀を研ぐことは可能か". 笠間書院. 2012-12-09. http://kasmashoin.jp/2012/11/53_2.html, (参照 2013-03-07).
- マイケル・サンデル. これからのか「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学. 早川書房, 2010.
- 佐々木中. 切りとれ、あの祈る手を：「本」と「革命」をめぐる五つの夜話. 河出書房新社, 2010.
- ペーター・スローターダイク. 「人間園」の規則：ハイデッガーの『ヒューマニズム書簡』に対する返書. 御茶の水書房, 2000.
- 土屋直之. 電子書籍と図書館司書：「テクストと情報」をめぐる小旅行. 北の文庫. 2012, 57, p.21-44
- 山本順一. "最近の訴訟に見る公共図書館とそのサービスについての法的考察". 変革の時代の公共図書館. 日本国書館情報学会研究委員会編. 勉誠出版, 2008.

第 67 回東北地区大学図書館協議会総会日程

開催期日 平成 24 年 9 月 24 日（月）
会場 東北大学文科系総合研究棟 11 階大会議室
仙台市青葉区川内 27 番 1 号
TEL : 022-795-5910 (東北大学附属図書館)

日 程

1. 受付 12:30 ~ 13:00
2. 開会式 13:00 ~ 13:10
(1) 開会の挨拶
 常任幹事館 東北大学附属図書館
 館長 植木 俊哉
3. 議長の選出
4. 総会
(1) 報告事項 13:10 ~ 13:30
 ① 平成 23 年度会務報告について
 ② 平成 23 年度各部会報告について
 ③ 平成 23 年度研修部会等報告について
 ④ 平成 23 年度東北地区大学図書館協議会表彰審査
 結果報告について
 ⑤ その他
- (2) 協議事項 13:30 ~ 14:00
 ① 平成 23 年度決算報告(案)について
 ② 平成 23 年度記念事業基金決算報告(案)について
 ③ 平成 23 年度会計監査報告について
 ④ 平成 24 年度事業計画(案)について
 ⑤ 平成 24 年度予算(案)について
 ⑥ 平成 24 年度記念事業基金予算(案)について
 ⑦ 第 68 回総会の当番地区(館)について
 ⑧ その他
- (3) その他

5. 平成 23 年度表彰について 14:00 ~ 14:10

6. 講演会 14:10 ~ 15:10

演題 和歌山大学附属図書館の改革プロジェクト
(仮題)

講師 和歌山大学附属図書館長 渡部 幹雄

講演紹介

現在、和歌山大学附属図書館では、「和歌山大学 7 つの行動宣言」(2011. 2)に基づき図書館改革プロジェクトを推進しています。とりわけ「学生の学習、研究を支援する図書館」を目指し、館内のラーニング・

コモンズ空間の整備や特任助教による情報リテラシー教育の強化などにより、入館者数など図書館利用を活性化させる成果を着実にあげています。また全職員のフロア分担制や全職員ミーティングなど、図書館職員の意識改革にも成功しています。この改革プロジェクトを指揮している渡部館長のご講演は、各図書館の今後の運営の参考になることでしょう。

(休憩 15:10 ~ 15:30)

7. 部会 15:30 ~ 16:40
 国立大学部会 文科系総合研究棟 2 階 201 室
 公立大学部会 文科系総合研究棟 2 階 204 室
 私立大学部会 文科系総合研究棟 2 階 202 室
8. 全体会議 16:45 ~ 17:30
 ① 各部会からの報告
 ② 質疑応答
 ③ その他
9. 閉会式 17:30 ~ 17:40
 (1) 次期当番館あいさつ
 (2) 閉会のあいさつ 東北大学附属図書館長

第67回総会資料

平成23年度 会務報告(案)

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

山形大学を当番校として開催した第66回総会(平成23年9月)以降の会務について、以下の通り報告する。

1. フレッシュ・パーソンセミナーの開催

日 時： 平成23年11月17日（木）
場 所： 東北大学附属図書館本館(川内キャンパス)
参加者： 42名
内 容： 講義(大学図書館の役割と課題、カウンターに立つ前に心にとめておきたいポイント集、資料管理とその活用、雑誌業務について)、6班によるグループ討議

2. 国立大学図書館協会東北地区協会平成23年度職員研修会(後援)

日 時： 平成24年1月30日（月）
場 所： 東北大学附属図書館本館(川内キャンパス)
参加者： 50名
内 容： 「利用者ニーズを引き出せ！～図書館アンケート・インタビュー徹底分析～」
講 演： 「利用調査の基本」木村邦博
(東北大学・教授)
「図書館における利用者調査の事例」
上岡真紀子(慶應義塾高等学校・職員)

3. 目録システム講習会・ILLシステム講習会の開催(後援)

(1) 目録システム講習会(図書コース)
日 時： 平成24年6月11日（月）～13日（水）
場 所： 東北大学附属図書館本館(川内キャンパス)
参加者： 22名
(2) 目録システム講習会(雑誌コース)
日 時： 平成24年6月14日（木）～15日（金）
場 所： 東北大学附属図書館本館(川内キャンパス)
参加者： 23名
(3) ILLシステム講習会
日 時： 平成24年6月8日（金）
場 所： 東北大学附属図書館本館(川内キャンパス)
参加者： 24名

4. 協議会誌の刊行

協議会誌第63号は、「東日本大震災を振り返って」というテーマでの寄稿・特集記事を中心とした内容で刊行し、平成24年5月に加盟館及び国立国会図書館等に配布した。

5. 平成23年度合同研修会の実施

日 時： 平成24年7月12日（木）
場 所： 山形大学事務局(小白川キャンパス)
テマ： 「学生、教職員そして社会が求める大学図書館職員像」
参 加 者： 41名
基調講演： 「求められる大学図書館員像」、
講師： 吞海沙織(筑波大学・准教授)
グループワーク：
ファシリテーター： 杉原真晃(山形大学・准教授)

6. 平成23年度末(平成24年8月)の加盟館数

本協議会の加盟館数は、国立大学15館、公立大学12館、私立大学38館の、合計65館となっている。

以上

平成23年度 一般報告

—国公私立大学図書館等の動向—

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

○第71回国公私立大学図書館協力委員会

(平成23年12月8日 筑波大学東京キャンパス)

報告事項

- ・委員長館会務報告(委員長館が、慶應義塾大学から筑波大学に)
- ・「大学図書館協力ニュース」編集委員会報告
- ・「大学図書館研究」編集委員会報告
- ・大学図書館著作権検討委員会報告
- ・シンポジウム企画・運営委員会報告
- ・GIFプロジェクトチーム報告
- ・学位論文電子化の諸問題に関するWG報告
- ・国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC)
2011年秋季会合参加報告
- ・大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)
報告
- ・SCOAP3報告

協議事項

- ・平成22年度決算案および監査報告について
- ・平成23年度予算案について
- ・監事館の選出について
- ・国公私立大学図書館協力委員会におけるGIFの位置付けについて

- ・J U S T I C E の「安定的・持続的な活動体制の確立に向けて」について

○平成23年度国立国会図書館と大学図書館との懇談会
(平成23年12月8日 国立国会図書館)
議事

1. 国立国会図書館報告
 - ・基調報告
 - ・「国立国会図書館と大学図書館との連絡会」報告
 - ・国立国会図書館の組織改編と電子情報部の発足
2. 大学図書館報告
 - ・基調報告
3. 意見交換

○平成23年度大学図書館シンポジウム

日 時：平成23年11月11日（金）
場 所：パシフィコ横浜
テーマ：「大量デジタル化の先にあるもの」
参加者：180名
内 容：(1) 米国における現況と今後の展開
 (2) パネルディスカッション

○国立情報学研究所・共用リポジトリサービス（仮称）に係る説明会

日時・場所：広島大学（平成23年9月8日）、神戸松蔭女子大学（9月16日）、東北大学（9月22日）、国立情報学研究所（10月6日）、九州大学（10月19日）、相山女学園大学（10月21日）

参 加 者：143機関、203名

○学術情報流通の改革を目指して 5

日 時：平成24年2月7日（火）
場 所：東京大学生産技術研究所
テーマ：電子ジャーナル・コンソーシアムとバックファイ爾の基盤整備

○平成23年度C S I 委託事業（コンテンツ系）報告交流会

日 時：平成24年6月12日（火）
場 所：学術総合センター
参加者：174名
1. 口頭発表（14委託事業および国立情報学研究所）
・C S I 委託事業を振りかえる

- ・多様化するコンテンツ
- ・進展するシステム／データ連携
- ・成長するコミュニティ
- ・求められる基盤サービス

2. パネルディスカッション
テーマ「機関リポジトリの新たなステージに向けて」
3. ポスターセッション（43委託事業）

国 立 大 学 部 会 関 係

（幹事館：東北大学）

○第10回国立七大学附属図書館長会議

（平成23年11月1日 名古屋大学）

協議事項

- (1) 大学図書館の運営について
- (2) 電子ジャーナル等の整備について

○第44回国立七大学附属図書館事務部課長会議

（平成23年11月1日 名古屋大学）

協議事項

- (1) 大学図書館のサービス及び組織・運営について
- (2) 図書系職員の確保・育成について
- (3) 電子ジャーナル等の整備について

承合事項

- (1) 図書館における防犯カメラ設置等の安全対策について
- (2) 電子書籍の整備及び利用状況について
- (3) 海外ILLの実績について
- (4) 学外者への開放状況及び利用状況について

○第85次国立七大学附属図書館協議会

（平成23年11月1日 名古屋大学）

1. 文部科学省所管事項説明

2. 国立情報学研究所より報告

3. 協議事項

- (1) 大学図書館の学習支援及び連携について
- (2) 電子ジャーナル等の整備について
- (3) 電子的環境下における学術情報システムの在り方等について

4. 承合事項

- ・第4期科学技術基本計画への対応状況について

○平成23年度国立大学図書館協会秋季理事会

（平成23年12月1日 広島大学）

報告事項

- (1) 第58回総会について

- (2) 各委員会等報告
- (3) 地区助成事業申請状況報告
- (4) 各地区協会報告
- (5) 国公私立大学図書館協力委員会報告
- (6) 日本図書館協会関連報告
- (7) 大学図書館コンソーシアム連合報告

協議事項

- (1) 大学図書館の「教育学習支援」に関する委員会設置について
- (2) 平成24年度マネジメント・セミナーについて
- (3) 平成24年度の海外派遣事業の実施について
- (4) JUSTICEの安定的・持続的な活動について

○平成23年度国立大学図書館協会東北地区事務連絡会議 (平成23年12月9日 岩手大学)

報告事項

- (1) 平成23年度国立大学図書館協会秋季理事会について
- (2) 国立大学法人等採用試験（図書系）について
- (3) 職員の企画・運営による職員のためのワークショップ（第3期）について

協議事項

- (1) 東日本大震災に関する資料の収集について
- (2) 平成24年度目録システム地域講習会等の実施について
- (3) 東北地区における人事交流について
- (4) 大学図書館コンソーシアムの活動体制について

承認事項

- (1) 各図書館における防災対策について
- (2) 貴重図書に関する規程等について
- (3) 外部資金（科学研究費を含む）での図書購入手続き等について

○第43回国立大学図書館協会東北地区協会総会 (平成24年4月26日 山形大学)

報告事項

- (1) 国立大学図書館協会理事会について
- (2) 平成24年度海外派遣事業について
- (3) 平成24年度マネジメント・セミナーについて
- (4) 平成24年度目録システム地域講習会等について

協議事項

- (1) 国立大学図書館協会東北地区理事館・監事館・当番館について
- (2) 平成24年度東北地区協会の事業について
- (3) 第59回国立大学協会総会に向けての準備事項

- 等について
 - (4) 平成25年度以降の大学図書館コンソーシアム連合会費（案）及び要項（案）について
- 承認事項
- (1) 学習支援を担当する学生スタッフの募集・活用について

○平成24年度国立大学図書館協会新理事会

(平成24年5月18日 東京大学)

報告事項

- (1) 各委員会等報告
- (2) 各地区協会報告
- (3) 地区協会助成事業報告
- (4) 国公私立大学図書館協力委員会報告
- (5) 日本図書館協会関連報告

協議事項

- (1) 会長及び副会長選出
- (2) 理事館の担当について
- (3) 委員会等について
- (4) 平成23年度決算（案）について
- (5) 平成24年度事業計画（案）について
- (6) 平成24年度予算（案）について
- (7) 関係団体への派遣役員について
- (8) 第59回総会について
- (9) 第60回総会の当番館・日程等について
- (10) 海外派遣事業の平成25年度以降の実施について
- (11) JUSTICE会費（案）及び要項（案）について

○第59回国立大学図書館協会総会

(平成24年6月21日 ANAクラウンプラザホテル神戸)

1. 報告事項

- (1) 一般経過報告

2. 協議事項

- (1) 平成23年度決算報告・同監査報告について
- (2) 平成23年度記念基金決算報告・同監査報告について
- (3) 平成24年度事業計画（案）について
- (4) 平成24年度予算（案）について

3. 文部科学省所管事項説明

4. 国立情報学研究所事業説明

5. 国立大学図書館協会賞表彰式

6. ワークショップ

- (1) 大学図書館の教育・学習支援機能の強化について
- (2) 電子リソースの整備における大学図書館コン

ソーシアム連合（J U S T I C E）の役割と今後の在り方を考える

公立大学部会関係

(幹事館：福島県立医科大学)

○第22回(平成24年度)公立大学協会図書館協議会事務長会

期 日：平成24年6月7日（木）

会 場：秋田ビューホテル

開催館：国際教養大学図書館

承合事項

(1) 学術洋雑誌(冊子体)の契約および支払方法について

(2) 印刷(プリントアウト)の制限について

(3) 延滞対策について

(4) 電子資料のプリントアウトについて

講演「遙かなるいのちの旅一大震災と大学の復興支援活動一」

宮城大学 総合情報センター長 井上 正康 氏

○第44回（平成24年度）公立大学協会図書館協議会総会

期 日：平成24年6月8日（金）

会 場：秋田ビューホテル

開催館：国際教養大学図書館

文部科学省行政説明

文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室室長補佐

丸山 修一 氏

基調講演

「意欲を喚起する図書館をめざして」

環境デザイン研究所 会長 仙田 満 氏

議事

報告事項

(1) 平成23年度事業報告

(2) 公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)幹事館報告

(3) H P委員会報告

(4) 地区活動報告

(5) 事務長会報告

協議事項

(1) 役員の選出について

(2) 関係委員会委員等の推薦について

(3) 平成23年度決算報告及び監査報告

(4) 平成24年度事業計画（案）について

(5) 平成24年度予算（案）について

(6) 地区設定及び役員等ローテーションの見直しについて

(7) 全国研修会当番館ローテーションの変更につ

いて

(8) 平成24年度公立大学協会図書館協議会研修会について

(9) 平成24年度大学図書館職員長期研修（筑波大学主催）参加者の推薦について

(10) 公立大学協会図書館協議会表彰規程による表彰について

(11) 「内規申合せ事項」の改正について

○平成24年度公立短期大学図書館協議会総会

期 日：平成24年8月23日（木）

会 場：ミューザ川崎シンフォニーホール

開催館：川崎市立看護短期大学図書館

議 事

(1) 報告事項

① 平成24年度役員紹介

② 平成23年度事業報告及び関連事業報告

③ 平成23年度決算報告及び監査報告

④ 平成23年度地区協議会活動のまとめ報告

(2) 協議事項

① 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)について

② 本協議会の今後の在り方について

③ 地区研究会の持ち方について

④ 本協議会予算の有効活用策について

⑤ 平成25年度以降の「輪番表」について

(3) その他

① BBSの活用を含めた加盟館相互間の情報収集について

② 承合事項について

③ 平成25年度役員紹介

○平成24年度公立短期大学図書館協議会職員研修会

期 日：平成24年8月24日（金）

会 場：川崎市立看護短期大学

開催館：川崎市立看護短期大学

講 演

「図書館利用教育の展開～2ステップを中心に～」

私立短期大学図書館協議会会长

元亜細亜大学図書館課長 毛利 和弘 氏

○平成24年度公立大学協会図書館協議会東部地区館会議

期 日：平成24年8月24日（金）

会 場：前橋工科大学

開催館：前橋工科大学附属図書館

協議(確認)事項

(1) 平成25・26年度の「北海道東北地区」並びに「関

- 東甲信越地区」の幹事館の選出について
(2) 平成26年度の「関東甲信越地区」(会長館同一地区)並びに「北海道東北地区」(会長館隣接地区)の監査館の選出について
(3) 関係委員会への派遣委員について

東北文教大学短期大学部、東北薬科大学、日本大学工学部、日本赤十字秋田看護大学、ノースアジア大学、八戸工業大学、八戸大学・八戸短期大学、東日本国際大学、富士大学、宮城学院女子大学、盛岡大学

承認事項

- (1) 学術情報リポジトリの構築について
- (2) 個人研究費で購入する図書の取扱いについて
- (3) 資料の弁償手続きの方法について
- (4) 所蔵スペースの狭隘化等に対応する資料の除籍について
- (5) 学外利用者の図書館利用証発行における写真の提出について

○平成24年度公立大学協会図書館協議会研修会

期 日：平成24年9月7日（金）

会 場：御所西 京都平安ホテル

担当館：京都府立大学附属図書館

テーマ

「求められる大学図書館像－教育支援・学習支援－」
基調講演：「大学図書館のミッション・業務の再点検：教育支援・学習支援の観点から」

天理大学人間学部総合教育研究センター准教授
古賀 崇氏

事例報告：「教育工学から考える、大学図書館における学習支援：何を、どのように学習支援すべきか」

金沢大学 大学教育開発・支援センター准教授
山田 政寛氏

事例報告：「真正の学習支援につながる情報リテラシー教育－何を知り、どう実践すればよいのか－」

同志社大学企画部企画室企画課長
井上 真琴氏

私立大学部会関係

(幹事館：東北薬科大学、東北文教大学・同短期大学部)

○私立大学図書館協会・東地区部会

(平成23年9月1日～平成24年8月31日)

加盟校 533校(2012年8月30日現在) 東地区部会269校

※ 東北地区加盟校(50音順) 25校

秋田看護福祉大学、石巻専修大学、いわき明星大学、奥羽大学、郡山女子大学、尚絅学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北女子大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北文教大学・

○第72回(2011年度)私立大学図書館協会 総会・研究大会

日 時：2011年9月1日(木)～9月2日(金)

場 所：早稲田大学

メインテーマ：「学術情報基盤の要としての大学図書館の整備」

総 会

報告事項：

1. 協会賞 (2010年度審査決定：2011年度表彰)
2. 研究助成(2011年度助成対象:2010年度決定)
3. 会務報告 (2010年度)
4. 委員会報告
5. 協会関連事項報告
6. 2011年度私立大学図書館協会役員校、委員会および協会関連団体委員

協議事項：

1. 2010年度一般会計・特別会計決算報告 (案)
2. 「東日本大震災」被災地域加盟館への支援(案)
3. 2011年度事業計画(案)
4. 2011年度一般会計・特別会計予算(案)
5. 協会賞授与規程および「協会賞」の審査にあたっての申し合わせ事項の改定 (案)
6. 新規加盟校および脱退校 (案)

記念講演

「日本の漢字と早稲田大学図書館」

早稲田大学社会科学部 教授 笹原 宏之 氏
研究大会

1. 2010年度海外集合研修報告

2. 研究助成発表

1) 「ラーニングコモンズの要素分析－日本における導入を前提として－」

西南学院大学図書館 相田 美美子 氏
山下 大輔 氏 渡邊 浩之 氏

2) 「小規模大学図書館の特性を活かした学生との協働による学びのコミュニティ形成－読書ボランティア養成を通した学生の読書環境の充実：事例研究－」

長崎ウエスレヤン大学附属図書館
植松 久子 氏

3. 講演・パネルディスカッション

講演（1）

「変革する大学にあって求められる大学図書館像大学図書館の整備について」

文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室室長補佐
丸山 修一 氏

講演（2）

「学術情報基盤の要としての大学図書館の整備について—大学図書館と大学との協働体制—」
お茶の水女子大学学長、文部科学省科学技術・
学術審議会学術分科会 研究環境基盤部学術情
報基盤作業部会専門委員 羽入 佐和子 氏

○第73回(2012年度)私立大学図書館協会 総会・研究大会

日 時：2012年8月30日(木)～8月31日(金)

場 所：慶應義塾大学

メインテーマ：『個性化の戦略—創造する大学図書館—』

総 会

報告事項：

1. 協会賞（2011年度審査決定：2012年度表彰）
2. 研究助成（2012年度助成対象：2011年度決定）
3. 会務報告（2011年度）
4. 委員会報告
5. 協会関連事項報告
6. 2012年度私立大学図書館協会役員校、委員会
および協会関連団体委員

協議事項：

1. 2011年度一般会計・特別会計決算報告（案）
2. 協会ホームページの充実（案）
3. 国際図書館協力委員会プログラム運営の効率化（案）
4. 私立大学図書館協会資料の保存と「会報」の発送（案）
5. 2012年度事業計画（案）
6. 2012年度一般会計・特別会計予算（案）
7. 2013年度～2014年度役員校（案）
8. 新規加盟校および脱退校（案）

記念講演

演題「巨大量への片思い—図書館、アーカイブ、
百科事典との交友録—」

慶應義塾大学 名誉教授 鷺見 洋一 氏

研究大会

1. 2011年度海外集合研修報告
2. 2011年度海外派遣研修報告
3. 2010年度研究助成発表

「大学図書館における大学アーカイブズ（学内組織記録）の扱い：

大学図書館と文書館機能機関との補完関係についての調査研究報告」

東京基督教大学図書館 阿部 伊作 氏

4. 2011年度研究助成発表

「大学図書館員の意識調査」

鶴見大学図書館 長谷川 豊祐 氏

5. 講演

「国際教養大学の挑戦と図書館」

国際教養大学 学長 中嶋 嶺雄 氏

6. 事例報告（1）

「聖徳大学川並弘昭記念図書館と聖徳博物館のねらいについて」

聖徳大学川並記念図書館 事務室長 林 政彦 氏

7. 事例報告（2）

「市民開放事業10年の歩み—大学図書館の立場から—」

明海大学浦安キャンパスメディアセンター（図書館）
永田 美絵 氏

8. 事例報告（3）

「学生とともに創る大学図書館—ロゴ&キャラクター活用戦術を中心に—」

和光大学附属梅根記念図書・情報館
森永 瑞穂 氏

○2011年度私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会

日 時：2011年10月27日(木)～10月28日(金)

会 場：専修大学

テーマ：「読む」ということ

参加者：60大学 68名

第1日

基調講演：「江戸の村にも図書館があった」

専修大学史編集主幹 青木 美智男 氏

講演：「iPadで学術書が読めるか？～学術書の新しい読み書き体験」

慶應義塾大学理工学メディアセンター
島田 貴史 氏

講演：「大学生の読み書きについて考える」

東京家政大学 教授 平山 祐一郎 氏

第2日

講演：「読み書きのイメージ：『読むこと』への意識と書き方」

慶應義塾大学文学部 准教授 安形 麻理 氏

講演：「紙と電子メディア：作業効率と環境負荷の比較」

富士ゼロックス株式会社研究技術開発本部

柴田 博仁 氏

講演：「書物と読者をつなぐもの」

早稲田大学教育・総合科学学術院 教授

和田 敦彦 氏

○私立大学図書館協会2012年度東地区部会総会・館長会・研究講演会

日 時：2012年6月9日（金）

会 場：東海大学

1 部会総会 議事

(1) 報告事項

ア 2011年度 東地区部会会務報告

イ 2011年度 協会関係会務報告

ウ 2012年度 協会委員会及び協会関連団体等委員

(2) 協議事項

ア 2011年度 東地区部会決算報告及び監査結果

イ 2011年度 東地区部会研究部決算報告及び監査結果

ウ 2012年度 東地区部会事業計画（案）及び予算（案）

エ 2012年度 東地区部会研究部活動計画（案）及び予算（案）

2 館長会

懇談テーマ：「学生の意識や行動の変化と、図書館のあり方」

3 研究講演会

『デジタル情報時代の図書館の役割－知識インフラの構築に向けて－』

国立国会図書館長 前東京農業大学教授

大滝 則忠 氏

以 上

平成23年度研修部会等報告

（常任幹事館：東北大学附属図書館）

第6回総会以降の各部会の活動について、以下の通り報告する。

1. 第1回研修部会

日 時： 平成23年10月3日（月）

場 所： 東北大学附属図書館医学分館

参加者： 委員5名、陪席者1名

内 容： 以下について協議した。

(1) フレッシュ・パーソン・セミナーの内容について

(2) 合同研修会について

(3) 初任者マニュアルの改訂について

(4) 研修に関するアンケート調査の比較分析について

2. 第2回研修部会

日 時： 平成24年1月26日（木）

場 所： 東北大学附属図書館医学分館

参加者： 委員5名、陪席者1名

内 容： 以下について協議した。

(1) 初任者マニュアルの改訂について

(2) フレッシュ・パーソン・セミナーについて

(3) 合同研修会について

3. ウェブサイト運用部会については、特に活動はなかった。
平成23年度東北地区大学図書館協議会表彰審査結果報告

1. 応募区分：協議会の運営、発展のために功績顕著であった者

（東北地区大学図書館協議会表彰規程第2条第2号）

2. 対象者：秋田大学附属図書館主査 飯沼 邦恵

3. 件名：大学図書館職員初任者マニュアルの作成

4. 結果：採択

5. 理由： 本件は、平成23年3月に本協議会研修部会が発行した「大学図書館職員初任者マニュアル」の編集にあたり、発足当初から部会の中心となり活動を行った同人の功績を認め推薦があったものである。

本マニュアルは、全国の図書館職員のマニュアルとしても浸透し、平成23年11月に開催の東北地区「フレッシュ・パーソン・セミナー」においては、本マニュアルが教材としても使用されている。また、大学図書館に初めて配置された職員向けに作成されたものであるが、新人のみならずベテラン職員にとっても昨今の図書館業務の変容に対応するにあたって大変有意義な内容となっている。

審査委員会では、同人のその後の活動についても、本マニュアルの見直しを行い平成24年3月に第2版を完成させたこと、さらにセミナー及び講習会の講師を精力的に務めたことなどの点を評価した結果、同人を東北地区大学図書館協議会表彰規程第2条第2号に該当する者と認め、表彰することを決定した。

[平成23年度決算書(案)]

自 平成23年9月1日
至 平成24年8月31日

項目	23年度予算額	23年度決算額	増減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	411,301	411,301	0	
会費	975,000	975,000	0	15,000円×65館
雑収入	160,166	140,163	△ 20,003	協賛広告協議会誌第62号(7社)郵貯等利子(163円)
計	1,546,467	1,526,464	△ 20,003	
(支出)	円	円	円	
会誌印刷費	450,000	535,500	85,500	会誌第63号
総会補助費	200,000	200,000	0	第66回(山形大学)100,000円 第67回(東北大学、前渡し金)100,000円
事業費	285,000	330,598	45,598	合同研修会(山形大学)140,000円 フレッシュ・パーソンセミナー開催補助110,598円 地域講習会(図書コース等)補助30,000円 職員研修「ニーズを引き出せ」補助50,000円
部会活動費	150,000	130,800	△ 19,200	研修部会旅費(2回)
事務費	60,000	60,000	0	山形大学(当番館) 東北大学(事務局)
通信運搬費	20,000	8,220	△ 11,780	会誌等送付料
積立繰入金	97,500	97,500	0	記念事業基金に繰入
会議費	30,000	20,000	△ 10,000	山形大学
消耗品費	10,000	0	△ 10,000	
雑費	30,000	13,265	△ 16,735	(平成22年度)会計監査交通費補助等
予備費	213,967	0	△ 213,967	
次年度繰越	0	130,581	130,581	
計	1,546,467	1,526,464	△ 20,003	

[平成23年度記念事業基金決算書(案)]

自 平成23年9月1日
至 平成24年8月31日

項目	23年度予算額	23年度決算額	増減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	723,716	723,716	0	
積立金	97,500	97,500	0	
利息	199	166	△ 33	普通預金利子(166円)
計	821,415	821,382	△ 33	
(支出)	円	円	円	
事業費	0	0	0	
予備費	0	0	0	
次年度繰越	821,415	821,382	△ 33	
計	821,415	821,382	△ 33	

平成23年度監査報告

平成23年度東北地区大学図書館協議会監査報告

1. 日 時：平成24年9月4日（火）14：00～15：30
2. 場 所：東北大学附属図書館
3. 監査対象期間：平成23年9月1日～平成24年8月31日
4. 監査結果：

東北地区大学図書館協議会会則第7条に基づき、東北地区大学図書館協議会の監査対象期間に係る収支計算書等について監査を行いました。監査に当っては会計帳簿の調査及び計算書類の検討等通常必要と認められる手続きで実施しました。

監査の結果、上記計算書類は、前事業年度と同一の基準及び手続きに基づき、当該事業年度の収支の状況及び財産の状況を適正に示しているものと認めます。

平成24年 9月 4日

監査館

山形県立保健医療大学附属図書館

図書・調整主査

保 利 真 澄



岩手医科大学附属図書館矢巾キャンパス共通教育・総務課

図書係長

芳 賀 真理子



平成24年度事業計画（案）

（平成24年9月1日～平成25年8月31日）

- 1 会誌第64号の刊行
平成25年5月頃の予定
- 2 第67回総会の開催
平成24年9月24日(月) 東北大学を当番館に実施
- 3 合同研修会の開催
開催当番 福島地区の予定
- 4 職員の表彰
 - ① 図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等に優れた業績のあった者
 - ② 協議会の運営、発展のために功績のあった者
- 5 研修部会及びウェブサイト部会の休止、大学教育部会の新設
- 6 フレッシュ・パーソンセミナーの開催
- 7 記念事業基金の積立て
平成24年度通常会計から記念事業基金(97,500円)を繰り入れ予定

研修部会・ウェブサイト運用部会の休止及び大学教育部会の新設（案）

I. 研修部会・ウェブサイト運用部会の休止

現在、東北地区大学図書館協議会では研修部会とウェブサイト運用部会を設置し、それぞれ目的とする活動を行ってきた。各活動によりこれまで一定の成果を上げきたことから、この2部会の活動を一時休止して、協議会として新たな事業を展開することとしたい。

なお、研修部会・ウェブサイト運用部会のこれまでの活動成果と所要資源を、以下に示す。

1. 研修部会の成果
 - (1)『大学図書館初任者研修マニュアル』の刊行
 - (2)フレッシュパーソンセミナーの開催
 - (3)合同研修会への実施協力
 - (4)研修に関するアンケート調査の実施
2. ウェブサイト運用部会
 - (1)協議会ウェブサイトの開設と運用
 - (2)協議会の各種活動情報・出版物の発信
 - (3)加盟館情報の共有
3. 部会に係る人員（委員、事務局）
 - (1)研修部会：国立大学2名、公立大学1名、私立大学2名
 - (2)ウェブサイト運用部会：国立大学2名、公立大学1名、私立大学2名
 - (3)両部会に係る事務局：1名
4. 部会に係る経費（平成23年度決算）
 - ・研修部会旅費（2回）：130,800円

II. 大学教育部会の新設

新たな設置を提案する大学教育部会では、図書館単独ではない教職員協同型の大学教育のあり方について検討するとともに、その実現に貢献するための協議会としての事業化について取り組むものである。

1. 活動内容

- (1)まず、各大学における教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するために、各大学における知見を集約化し、共有する。
- (2)次に、大学教育そのものに関する図書館員の知見を深めるための方策を検討し、協議会としての事業化（例えば、教員と協働した研修）の提案を行う。
- (3)さらに、教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。

2. 組織・委員

- (1)部会は次の委員をもって構成する。
 - ・国立大学から2名程度
 - ・公立大学から1名程度
 - ・私立大学から3名程度
- (2)委員の互選により、部会に主査を置く。
3. 部会に係る経費（平成24年度予算）
 - ・部会旅費等（2回）：100,000円
4. 開催方法
 - (1)上記目的を達成するため、年度内に2回程度集合型の会議を開催する。
 - (2)集合型会議以外にも、適宜、メール会議を開催する。
5. 活動期間
 - 部会の終期は、特に設けない。
 - 委員の任期は2年とする（今回は25年8月末まで）。
6. 事務局
 - 部会の事務局は、常任幹事館に置く。

III. 休止中の部会に関わる活動

常任幹事館が引き継ぐ。

以上

[平成24年度予算書(案)]

自 平成24年9月1日
至 平成25年8月31日

項目	23年度予算額	24年度予算額	増減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	411,301	130,581	△ 280,720	
会費	975,000	975,000	0	
雑収入	160,166	140,120	△ 20,046	
計	1,546,467	1,245,701	△ 300,766	

(支出)	円	円	円	
会誌印刷費	450,000	450,000	0	会誌第64号
総会補助費	200,000	200,000	0	第67回(東北大学)100,000円 第68回(青森地区大学、前渡し金)100,000円
事業費	285,000	200,000	△ 85,000	合同研修会補助、表彰関係、地域講習会補助 (図書コース等)、フレッシュ・パーソン・セミナー
部会活動費	150,000	100,000	△ 50,000	大学教育部会
事務費	60,000	40,000	△ 20,000	東北大学(当番館・事務局)
通信運搬費	20,000	20,000	0	郵送料等
積立繰入金	97,500	97,500	0	記念事業基金に繰入
会議費	30,000	20,000	△ 10,000	幹事会等
消耗品費	10,000	10,000	0	会誌送付用封筒等
雑費	30,000	20,000	△ 10,000	会計監査交通費等
予備費	213,967	88,201	△ 125,766	
計	1,546,467	1,245,701	△ 300,766	

[平成24年度記念事業基金予算書(案)]

自 平成24年9月1日
至 平成25年8月31日

項目	23年度予算額	24年度予算額	増減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	723,716	821,382	97,666	
積立金	97,500	97,500	0	通常会計から繰入
利息	199	166	△ 33	普通預金利子(166円)
計	821,415	919,048	97,633	

(支出)	円	円	円	
事業費	0	0	0	
予備費	0	0	0	
次年度繰越	821,415	919,048	97,633	
計	821,415	919,048	97,633	

協議題(総会)

④平成24年度合同研修会について

(常任幹事館 東北大学)

(提案理由)

福島地区が予定になっているので、確認願いたい。

東北地区大学図書館協議会合同研修会開催地区

(平成12年9月20日承認)

年度	当番地区	会場大学 「テーマ」	備考
21	岩手	岩手県立大学 「学習支援の場としての大学図書館の役割」	
22	秋田	秋田大学 「図書館を守る」	
23	山形	山形大学 「学生、教職員そして社会が求める大学図書館職員像」	
24	福島		
25	宮城		
26	青森		
27	岩手		

注：会場大学の決定については、当該開催地区において協議するものとする。

⑦第68回総会の当番地区(館)について

(常任幹事館 東北大学)

(提案理由)

青森地区が当番となっているので、確認願いたい。

東北地区大学図書館協議会総会当番地区(館)予定

(平成21年9月17日承認)

回	年度	当番地区	会場大学	備考
64	21	宮城	仙台白百合女子大学	
65	22	秋田	国際教養大学	
66	23	山形	山形大学	
67	24	宮城	東北大学	
68	25	青森		
69	26	岩手		
70	27	宮城		
71	28	福島		
72	29	秋田		
73	30	宮城		
74	31	山形		

注1：会場大学については、当該地区において協議のうえ、開催予定の前年度総会に報告するものとする。

注2：開催地区的ローテーションの確認について

①宮城地区は、他地区より大学の数が多いので3年に1回割り振る。

②その他の地区は、次のローテーションによる。

青森地区、岩手地区、福島地区、秋田地区、山形地区

第67回東北地区図書館協議会総会提出議題

図書館名 東北大学附属図書館(本館)

承合事項(総会)

案 件	学生の主体的学びを育成するための取り組みについて
提 案 理 由	<p>文科省中教審の審議のまとめ『予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ』(平成24年3月)においては、学生の学修時間の増加・確保が答申されており、大学での学習支援の要求がさらに高まっている。本協議会でも、その取り組みを検討するものとして、「大学教育部会」の設置が提案されているところから、各大学における課題・対策等で報告いただける事項があれば、情報交換を行いたい(事項内容の記述は、簡潔で結構です)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習支援をするまでの課題 (例)<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を行う職員の不足、学生(TA)の効果的な活用 2. 学習支援のための対策(予定を含む) (例)<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニング・コモンズの設置(平成24年度)

協議題(国立・公立・私立大学部会)

第67回東北地区大学図書館協議会総会

国立大学部会 議事(案)

○議題

- (1)東北地区の大学図書館間の業務連携の可能性
- (2)本協議会新設の大学教育部会に関する意見交換
- (3)本日の講演内容に関連する情報交換・意見交換

公立大学部会 議事(案)

○議題

- (1)本協議会新設の大学教育部会に関する意見交換
- (2)本日の講演内容に関連する情報交換・意見交換

私立大学部会 議事(案)

○議題

- (1)本協議会新設の大学教育部会に関する意見交換
- (2)本日の講演内容に関連する情報交換・意見交換

講演会資料

『和歌山大学附属図書館の改革プロジェクト』

～学生に寄り添う図書館を目指して～

2012. 9. 24 於 東北大学

和歌山大学附属図書館

渡部幹雄

1. はじめに

- ・ 改革は進行中であり、現在（2012年9月24日）は改装工事中。
- ・ 現時点では利用の減少傾向から増加に転じている。2012年7月は 前年度対比
利用者42%増 貸出22%増。

2. 図書館改革プロジェクトの発足の背景

- ・ 人事の掃き溜め 挪揄・図書館の地位やイメージに影響
- ・ 図書館離れ 利用の減少
- ・ 学生の変化 授業態度等の変化・目的の喪失
- ・ 大学の姿勢 大学の目標→「大学で何を学んだか」。「図書館の学び」重視？

3. 図書館改革の第一歩として実態調査

- ・ 実態把握 図書館の客観的な姿 利用統計 貸出・入館者 数年間の推移
他図書館大学との比較 國内外を参考
先行事例の調査
- ・ 従来からの課題の把握 引継ぎ書 各種報告書の確認

4. 実態把握から明らかになった課題（館外からの指摘事項も含む）

- ・ この数年間での大幅な利用減 学生数約4500人で 2万冊程度の貸出の水準
- ・ 一部教員からの図書館不要論も 図書館よりはネットや電子情報等の声
- ・ 収容冊数の超過 約70万冊の蔵書が限界状態
- ・ レファレンス担当の育成 司書有資格者も少数
- ・ 人事の停滞 図書館の動きから孤立・ガラバゴス化
- ・ 全館が倉庫化 新旧分類の混在・配架場所の不連続

5. 改革の方向性

- ・ 大学図書館の活性化 欧米の先行事例も参考として
- ・ 大学作りへの貢献 基盤を支える役目
- ・ 抱える課題の克服 直ぐにできる課題の解決は改革の一步

6. 改革への取り組み（ミクロ的視野とマクロ的視野から）

第一段階 課題の共有化・補足調査 月毎の全員のミーティング

第二段階 改革プラン作成 学内合意形成・週毎定例幹部会

第三段階	改革プランの実現に向けて	短長期と軽重度の区分・分担制
第四段階	学内組織との連携と展開	教養科目対応・個別学習支援
第五段階	改革効果の確認と是正	企画立案事業展開 実施

7. 和歌山大学附属図書館の改革の歩み（2010年6月以降主なもの）

- 2010年6月 和歌山大学附属図書館改革プロジェクト・レファレンス重視
- 2010年10月 附属図書館付き 副館長配置（公共図書館長経験者）
- 2011年1月 和歌山大学行動宣言 2011-2013
- 2011年2月 全職員ミーティング・以降毎月開催
- 2011年3月 **和歌山大学附属図書館 2011-2013 行動計画の提案** 3層構造
- 2011年3月 I C 対応入館ゲート及び一階部分のラーニングコモンズ空間新設
- 2011年4月 理事・館長・副館長・課長定例会開始 毎週
- 2011年4月 利用状況調査開始（毎時のコーナー利用者動向統計）
- 2011年6月 全職員観察ポイント割り当て・フロア一分担制
- 2011年6月 特任助教公募
- 2011年10月 レファレンス室整備（担当の助教 2012年1月より配当）
- 2012年3月 **クロスカル図書館の提案**
- 2012年5月 レファレンスコーナー及び事務室の改裝工事終了
- 2012年8月 アクティブラーニングコーナー等の工事開始。教養改革と連携。

8. レファレンスの業務及び情報リテラシー教育の対応

○ 2012年4月以降

- ・入学直後の各学部新入学生への学部毎の利用案内説明
- ・定例のガイダンス及び不定時のガイダンス担当
- ・レファレンス業務
- ・教養科目「図書館活用法」の講義 約40名受講（アクティブラーニング）
- ・学内の各学部教員の要請に対応した授業支援等
- ・館内改革ワーキングメンバー・整理部門と情報部門

○成果と課題

- 成果 ガイダンスの高度化と図書館付き教員の講義機会拡大
 課題 任期付き特任助教の限界

9. おわりに

今後の課題

- ① 専門的能力を有する職員の継続的な確保（教員スタッフも含めて）
- ② 創造的な企画事業のタイムリーな実施と体制の確立（課題解決能力）

第67回東北地区大学図書館協議会総会議事メモ

1. 期日：平成24年9月24日（月）13:00～17:15
2. 会場：東北大学文科系総合研究棟11階大会議室（仙台市青葉区川内27-1）
3. 出席者：加盟43館から71名

○議事

1. 開会式

当番館の植木東北大学附属図書館長から、開会の挨拶があった。

2. 議長の選出

総会当番館の植木東北大学附属図書館長を、議長に選出した。

3. 総会

（1）報告事項

- ① 平成23年度会務報告について
常任幹事館から、総会資料5～6ページに基づき報告があった。
- ② 平成23年度一般報告について
常任幹事館及び各部会幹事館から、総会資料7～20ページに基づき報告があった。
- ③ 平成23年度研修部会等報告について
常任幹事館から、総会資料21ページに基づき報告があった。
- ④ 平成23年度東北地区大学図書館協議会表彰審査結果報告について
常任幹事館から、総会資料23ページに基づき報告があった。

（2）協議事項

- ① 平成23年度決算報告（案）について
常任幹事館から、総会資料25及び27ページに基づき一括して報告があり、原案通り承認された。
- ③ 平成23年度会計監査報告について
9月4日（火）に山形県立保健医療大学及び岩手医科大学による監査を実施した結果を総会資料29ページに基づき岩手医科大学から報告があり、原案通り承認された。
- ④ 平成24年度事業計画（案）について
常任幹事館から、総会資料31～34ページのとおり提案があり、審議の後、大学教育部会の新設等原案通り承認された。平成24年度合

同研修会については、総会資料35ページのとおり福島地区が当番地区であることを確認した。

- ⑤ 平成24年度予算（案）について
- ⑥ 平成24年度記念事業基金予算（案）について
常任幹事館から、総会資料37ページのとおり提案があり、一括して審議の後、原案通り承認された。
- ⑦ 第68回総会の当番地区（館）について
常任幹事館から、総会資料39ページにより提案理由について説明があり、次回当番地区が青森地区であることを確認した。当番館は、内諾をいただいた八戸工業大学にお願いすることで承認された。
- ⑧ その他
総会の承合事項について
議長から、承合事項「学生が主体的学びを育成するための取り組みについて」の説明があり、加盟館からの回答を資料にまとめてある旨の説明があった。

4. 講演会

和歌山大学附属図書館長・渡部幹雄先生による、「和歌山大学附属図書館の改革プロジェクト」と題する講演会が開催された。

5. 表彰式

平成23年度東北地区大学図書館協議会表彰式を行った。
被表彰者：秋田大学附属図書館総括主査 飯沼邦恵

6. 部会

7. 全体会議

- ① 各部会から、部会で行った意見交換等について報告があった。
(報告館)
国立大学部会・・・東北大学
公立大学部会・・・宮城大学
私立大学部会・・・東北学院大学
また、電子ジャーナルの契約等について意見交換を行った。

② その他

岩手医科大学からのアンケート調査について、
協力依頼の説明があった。また、東北大学工学分
館から配付したアタッチメントについての説明が
あった。

8. 閉会式

次期当番館の熊谷八戸工業大学図書館長から挨拶
があった。

最後に、当番館である植木東北大学附属図書館長
から閉会の挨拶があった。

以上

第66回東北地区大学図書館協議会総会出席者名簿

(国 立)

大学図書館名	職名	氏名
弘前大学附属図書館	館長	長谷川成一
弘前大学附属図書館	学術情報部長	奈良岡芳美
弘前大学附属図書館	学術情報課長	工藤弘文
弘前大学附属図書館	学術情報課企画管理グループ係長	宮川順子
岩手大学情報メディアセンター図書館	館長	宮崎滋
岩手大学情報メディアセンター図書館	情報メディア課長	三浦俊弘
東北大学附属図書館	館長	植木俊哉
東北大学附属図書館	事務部長	井上修
東北大学附属図書館	総務課長	米澤誠
東北大学附属図書館	総務課課長補佐	清野英之
東北大学附属図書館	情報管理課専門員	村上康子
東北大学附属図書館	情報サービス課長	豊田裕昭
東北大学附属図書館	情報サービス課専門員	佐藤初美
東北大学附属図書館	医学分館事務長	長井孝行
東北大学附属図書館	工学分館専門員	日出弘
宮城教育大学附属図書館	館長	渡邊徹
宮城教育大学附属図書館	学術情報課長	佐々木義則
秋田大学附属図書館	館長	立花希一
秋田大学附属図書館	図書館・情報推進課長	川村眞
秋田大学附属図書館	図書館・情報推進課 総括主査	飯沼邦恵
山形大学小白川図書館	涉外部長	水井義武
山形大学小白川図書館	涉外課長	矢口清
山形大学小白川図書館	図書課長	細谷美千枝
福島大学附属図書館	館長	高橋隆行
福島大学附属図書館	学術情報課長	武内由美
計		25

(公 立)

大学図書館名	職 名	氏 名
青森県立保健大学附属図書館	図書課長	小野 肇
岩手県立大学メディアセンター	副参考事兼 教育研究支援課長	藤田 芳男
宮城大学総合情報センター	センター長	井上正康
宮城大学総合情報センター	教務第一グループ主査	安藤美保
秋田県立大学図書・情報センター	司 書	石黒 こずえ
秋田公立美術工芸短期大学附属図書館	主席主査	川尻 真奈美
国際教養大学図書館	館 長	勝又 美智雄
山形県立保健医療大学附属図書館	図書・調整主査	保利 真澄
会津大学短期大学部附属図書館	館 長	田中政巳
福島県立医科大学附属学術情報センター	主任司書	秋葉 さおり
計		10

(私 立)

大学図書館名	職 名	氏 名
八戸大学・八戸短期大学図書館	室 長	磯邊寿子
八戸工業大学図書館	館 長	熊谷浩二
八戸工業大学図書館	次 長	鈴木 寛
八戸工業大学図書館	図書館情報事務室 事務長代行	得丸雅夫
青森中央学院大学・青森中央短期大学図書 館 情報センター	リーダー	葛西崇文
岩手医科大学附属図書館	分館長	松政正俊
岩手医科大学附属図書館	矢巾キャンパス共通教育・ 総務課図書係長	芳賀真理子
富士大学図書館	調査役	高橋直樹
盛岡大学図書館	事務室長	八木融子
盛岡大学図書館	書記	上條尚樹
岩手看護短期大学図書館	司書	三田弥生
仙台大学附属図書館	館長	鈴木省三
仙台白百合女子大学図書館	事務長	生出登
石巻専修大学図書館	館長	羽田紘一
石巻専修大学図書館	事務課	相澤浩美
東北学院大学図書館	館長	中川清和
東北学院大学図書館	図書情報課長	早坂孝司
東北学院大学図書館		佐藤惠
東北工业大学附属図書館	次長	佐藤夏子
東北工业大学附属図書館	事務長	早坂のり子
東北福祉大学図書館	館長	高橋美由紀
東北福祉大学図書館	次長	石田信孝
東北福祉大学図書館	課長補佐	重松積男
東北文化学園大学総合情報センター図書館		京極頼子
東北薬科大学附属図書館	課長	菅原健士

(私 立)

大学図書館名	職名	氏名
仙台青葉学院短期大学図書館	司書	酒井麻紀
東北生活文化大学附属図書館	館長	近江恵美子
東北生活文化大学附属図書館	司書	村山智美
羽陽学園短期大学附属図書館	館長	柏倉弘和
東北文教大学・東北文教大学短期大学部 附 属 図 書 館	館長	畠山孝男
東北公益文科大学メディアセンター	主任	剣持真弓
いわき明星大学図書館	学術情報支援室長	馬目高伸
奥羽大学図書館	司書	佐藤夏美
郡山女子大学図書館	司書係長	和知剛
東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館	係長	志賀義代
日本大学工学部図書館	館長	野田吉宏
計		36
合 計		71

大学教育部会平成24年度アンケート調査の集計結果報告

東北地区大学図書館協議会 大学教育部会

1. アンケート調査について

本部会の目的である「教職員協働型の大学教育のあり方について検討する」ための第一歩として、大学教育が「学生の主体的学び」を育成するためにどのような取組みを行っているかの実態を知るため、アンケート調査を行った。

アンケートの実施にあたっては、①大学のカリキュラム作成担当部署に向けた大学教育の実態に関する調査と、②大学図書館に向けた現在行われている学修支援の取組みに関する調査との2種類の調査を同時期に行った。

これらのアンケート結果により、教員・事務職員・図書館職員が学修支援の方策とその効果について共通認識を持つことができれば幸いである。またそれらを実現するためのカリキュラム作成上の指針や学修環境の整備等、部局横断的取組を行うための足掛かりとなることを期待する。

2. 東北地区大学図書館協議会 大学教育部会概要

設置目的：大学図書館に関わる教職員協働型の大学教育のあり方について検討するとともに、東北地区大学図書館協議会としての事業化の企画立案を行い、加盟大学における「学生の主体的学び」を育成するための取組みを強化すること。

部会員：6名

(任期：平成24年10月19日--平成25年8月31日)

・国立大学部会委員

寺崎 宏美（山形大学医学部図書館）

柳原 幸子（東北大附属図書館）

・公立大学部会委員

秋葉 さおり（福島県立医科大学附属学術情報センター図書館）

・私立大学部会委員

上條 尚樹（盛岡大学図書館）

佐藤 恵（東北学院大学中央図書館）

※主査

八巻 千穂（東北福祉大学図書館）

活動内容：1) 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するために、加盟大学における知見を集約化し、共有する。

2) 大学教育そのものに関する図書館員の知見を深めるための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。

3) 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。

(1) 東北地区における「学生の主体的な学修」の取組みに関する調査

1) アンケートの概要

東北地区大学図書館協議会の加盟校 64校（短期大学含む）に対して、ウェブ回答方式のアンケートを実施した。

アンケートは、東北地区大学図書館協議会加盟校の各図書館へ送付し、図書館から各大学・学部・学科のカリキュラム担当部署へ転送してもらう方式で配布した。

調査目的：中教審答申にも取り上げられている「学生の主体的な学び」について、その実現を目標として、大学図書館に限定しない大学全体での取組みを検討し、その成果を加盟校へ還元する。そのため「新たな学修支援」となるトピックについて、カリキュラムデザイン部局の取組みの現状や知見・ニーズの調査を行う。

調査対象：東北地区大学図書館協議会加盟校(64校)

のカリキュラム担当部署

<内訳> 国立大学： 7校

公立大学： 9校

私立大学： 30校

公立短期大学： 3校

私立短期大学： 15校

調査期間：平成25年2月6日(水)～平成25年2月28日(木)

調査方法：リアルタイム評価システム「REAS」（放送大学運用）を利用したウェブ回答方式アンケート

回答件数：54件37校（回収率：57.8%）

※東北地区における「学生の主体的な学修」の取組みに関する調査 1~15/15

平成24年8月2日)の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の実践的取組みに向けて」において、学生の「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力」が推奨され、学士課程教育でも学生の主体的な学習（以下「主体的な学習」とす）を奨励するよう教育あり方改められたことについて、貴学ご理解済みの方はいかがお対応なさる、下記欄を読んでお読みください。

（回答）
□ 『Q1』
*貴大学名についてご回答ください。
[回答] _____

（回答）
□ 『Q2』
*貴部署がカリキュラムデザインを担当している学部・学科名をご回答ください。
[回答] _____

（回答）
□ 『Q3』
*ご回答者の候補について、ご回答ください。
[回答]

- ①.学員
- ②.学部長
- ③.准教授
- ④.教務担当職員
- ⑤.学生担当職員
- ⑥.その他 _____

（回答）
□ 『Q4』
*貴部署がカリキュラムデザインを担当している学部・学科の学生数をご回答ください。
[回答] _____人

（回答）
□ 『Q5』
*学生の「生涯学び/受け、主体的に考える力」を育成するために対応している内容として、該当する項目があれば、選択してください。（複数回答可）
 個別会等で対応を検討している段階である
 カリキュラム改修等の具体的なプランがある（またはプランを実行した）
 学術環境の評価に対する対応を検討している（または検討した）
 教員に対し、学生の「主体的な学習」方を意識するよう勧めや推奨している
 特に実行・対応する予定はない
 その他の（100文字） _____

（回答）
□ 『Q6』
*学生の「主体的な学習」について、特に初年次教育で取り組まれている事例があれば選択してください。（複数回答可）

（回答）
□ 『Q7』
*学生への学修支援について、学内において採用している事例があれば、選択してください。（複数回答可）
 学修相談等教員と学生を結ぶクラス担任制・アドバイザー制度
 学生による学生のサポート・メンターライフ
 大学生院Aによる学修支援制度
 対面会のための講義研究室を設立されるオフィスアワー制度
 学生の自己評価のための学修ポートフォリオ
 教員へのPD研修
 学修行動指標アンケートの実施
 アセスメントテスト（学修活動度調査）の実施
 特になし
 その他の（100文字） _____

（回答）
□ 『Q8』
*学生の学修環境について、講義室外以外で利用できる自習スペースを設けていますか。設けている場合、どのような場所であるか、ご回答ください。（複数回答可）

（回答）
□ 『Q9』
*自習スペース専用の部屋がある
 図書館に自習スペースがある
 多目的用途の部屋として開放しているスペースがある
 特になし
 その他の（100文字） _____

（回答）
□ 『Q10』
*学生の自習スペースに関して、学修環境を整える際に重視した条件をご回答ください。
また、設置していない場合は、重要なと考えられるものをご回答ください。（複数回答可）

（回答）
□ 『Q11』
*学生の学修環境について、学修環境を整える際に重視した条件をご回答ください。
また、設置していない場合は、重要なと考えられるものをご回答ください。（複数回答可）

（回答）
□ 『Q12』
*学生の自習スペースに関して、学修環境を整える際に重視した条件をご回答ください。
また、設置していない場合は、重要なと考えられるものをご回答ください。（複数回答可）

（回答）
□ 『Q13』
*学生の「主体的な学習」を促す学士課程教育を目標にあたり、どのような能力の育成を重視されていますか。
カリキュラム改修の際に重視されている学修的な方針などがございましたら、ご回答ください。（上位5位まで）

- 1.学生自身の課題を設定し、解決・探求していく能力
- 2.ディベート・ディスカッションなど、自分の意見を伝え、相手の意見を聞く能力
- 3.フィードバック、収集などを通じて使う、実践的な能力
- 4.教員や他員など立派の真なる人とも積極的に適切なコミュニケーションをとれる能力
- 5.問題やシナリオなどの課題を含む授業時間外学修を自発的、持続的に行う態度
- 6.実践的な事実に基づく自己分析、評価能力
- 7.特になし

（回答）
□ 1位：_____ 2位：_____ 3位：_____

※学生の「主体的な学習」とは、平成24年8月2日の中央教育審議会答申にて
これらが重視され、身につけるべき「生涯学び続け、主体的に考える力」
のことを指します。

【参考】
新たな未来を築くための大学教育の実践的取組みに向けて～生涯学び受け、主体的に考える力～

（回答）

- 大学教育を受けるための基礎学力を補うリメディアル教育
- ディベート・ディスカッションなど他者との意見交換の仕方についての教育
- 少人数グループで問題解決を目標とする協働学習を利用した教育
- ノートの取り方・レポートの書き方・プレゼンの仕方などのスタディスキル教育
- 調査を実施しレポート・論文の書き方の教育
- PC・インターネット等、電子機器の使い方について学ぶコンピュータ・リテラシー教育
- 学術に必要な情報の取り扱い方を学ぶ、著作権等の情報倫理教育
- 学術に必要な情報の探索・利用の仕方について学ぶ情報リテラシー教育
- 研究機会・資料配置等、大学図書館の使い方に関する教育
- その他（該当しない場合はその旨お書きください） _____

（回答）
□ 『Q7』
Q6で取り組んでいる授業がある部署、学部・学科にお伺いします。
差し支えなければ、授業名をご記入ください。（複数回答可）
[回答] _____

（回答）
□ 『Q8』
*学生の「主体的な学習」について、初年次教育以外の授業で取り組まれている事例があれば選択してください。（複数回答可）

（回答）

- 大学教育を受けるための基礎学力を補うリメディアル教育
- ディベート・ディスカッションなど他者との意見交換の仕方についての教育
- 少人数グループで問題解決を目標とする協働学習を利用した教育
- ノートの取り方・レポートの書き方・プレゼンの仕方などのスタディスキル教育
- 調査を実施しレポート・論文の書き方の教育
- PC・インターネット等、電子機器の使い方について学ぶコンピュータ・リテラシー教育
- 学術に必要な情報の取り扱い方を学ぶ、著作権等の情報倫理教育
- 学術に必要な情報の探索・利用の仕方について学ぶ情報リテラシー教育
- 研究機会・資料配置等、大学図書館の使い方に関する教育
- その他（該当しない場合はその旨お書きください） _____

（回答）
□ 『Q9』
Q6で取り組んでいる授業がある部署、学部・学科にお伺いします。
差し支えなければ、授業名をご記入ください。（複数回答可）
[回答] _____

（回答）
□ 『Q10』

（回答）
□ 『Q14』
*「主体的な学習」において、図書館による学修支援活動に、以下の事例があります。
貴部署（学部・学科）として、貴学図書館に期待する活動をご回答ください。（3点まで選択可）

※平成22年文部科学省技術・学術審議会「学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤部会にて作成された
『大学図書館の基盤について（貴部署のまとめ）』を実施する大学にあって求められる大学図書館像』では、
図書館に対して、「学修支援や教育活動への影響の強さ」が求められています。

（参考資料）
（クリックすると各学部科学部のサイトにリンクします）
「大学圖書館の基盤について（貴部署のまとめ）」を実施する大学にあって求められる大学図書館像」

（回答）

- 学生によるランニングアドバイザリーの設置
- レポートライティング指導
- 学術や研究上必要な情報・機器の要望に応じて提供するレファレンスサービスの充実
- 特定のテーマに関する情報を探るために手引き・ガイド（パスファインダー）の作成
- カリキュラムにに基づいた資料収集
- 電子的機器（電子ジャーナル・電子ブック）の充実
- 学術情報検索ツール（データベースなど）の充実
- 球根のための図書館員の指導指導
- アクティブラーニングなど個々の座学授業・学術活動に対応するスペースの設置、設備
- 学術・研究情報（研究会等）の学術的交流の場の提供
- 24時間開館（深夜）
- 学術研究結果や教材の収集と発信
- 学術出版の公報
- 特に期待しない
- その他（200文字） _____

（回答）
□ 『Q15』
学修環境にかかるわざ、図書館に期待する活動やとりくみがございましたらご記入ください。
[回答] _____

（回答）
□ 『Q16』
24時間開館に係る
□ 24時間開館（深夜）
□ 24時間開館（深夜）

2) アンケートの結果

複数回答の場合は全回答件数54を分母としており、この場合の合計は100%にならない。割合(%)は、小数点第二位四捨五入としている。

Q1. 貴大学名についてご回答ください。

設置形態	回答件数	依頼校数	回答校数	回答率
国立	22 (40.7%)	7	7	100.0%
公立	5 (9.3%)	9	5	55.6%
私立	20 (37.0%)	30	18	60.0%
公立短期	2 (3.7%)	3	2	66.7%
私立短期	5 (9.3%)	15	5	33.3%
合計	54 (100.0%)	64	37	57.8%

54件のうち、同一大学の別学部・別学科が回答しているケースが21件4校だったので、重複する17件を差し引いた37校が回答大学となる（短期大学7校含む）。

回答率は、依頼校数に対して回答のあった校数である。国立大学は100%となっているが、大学の中では回答のなかった学部・学科も存在する。

Q2. 貴部署がカリキュラムデザインを担当している学部・学科名をご回答ください。

	全学部	部局毎
国立	4	18
公立	4	1
私立	17	3
公立短期	2	0
私立短期	4	1
合計	31 (57.4%)	23 (42.6%)

回答のうち、大学の全学部を担当しているとした回答を「全学部」、学部・学科等の部局単位で担当しているとした回答を「部局毎」としてカウントした。

Q3. ご回答者の役職について、ご回答ください。

学長	0 (0.0%)
学部長	1 (1.9%)
教員	10 (18.5%)
教務担当職員	33 (61.1%)
学生担当職員	1 (1.9%)
その他	9 (16.7%)
合計	54 (100.0%)

Q4. 貴部署がカリキュラムデザインを担当している学部・学科の学生数をご回答ください。

500人未満	13 (24.1%)
500人以上1,000人未満	16 (29.6%)
1,000人以上10,000人未満	24 (44.4%)
10,000人以上	1 (1.9%)
合計	54 (100.0%)

Q5. 学生の「生涯学び続け、主体的に考える力」を育成するために対応されている内容として、該当する項目があれば、選択してください。（複数回答可）

カリキュラム改善等の具体的なプランがある（またはプランを実行した）	21 (38.9%)
委員会等で対応を検討している段階である	20 (37.0%)
教員に対し、学生の「主体的な学び」方を意識するよう周知や推奨をしている	16 (29.6%)
学修成果の評価方針の策定を検討している（または検討した）	15 (27.8%)
特に検討・対応する予定はない	7 (13.0%)
その他	1 (1.9%)

Q6. 学生の「主体的な学び」について、特に初年次教育で取り組まれている事例があれば選択してください。

ノートの取り方・レポートの書き方・プレゼンの仕方などのスタディスキル教育	35 (64.8%)
PC・インターネット等、電子機器の使い方にについて学ぶコンピュータ・リテラシー教育	35 (64.8%)
大学教育を受けるための基礎学力を補うリメディアル教育	29 (53.7%)
少人数グループで問題解決を目指す協働学習を利用した教育	29 (53.7%)
蔵書検索・資料配置等、大学図書館の使い方に関する教育	28 (51.9%)
学修に必要な情報の検査・利用の仕方について学ぶ情報リテラシー教育	24 (44.4%)
ディベート、ディスカッションなど他者との意見交換の仕方についての教育	20 (37.0%)
学修に必要な情報の取り扱い方を学ぶ、著作権等の情報倫理教育	10 (18.5%)
英語を使用したレポート・論文の書き方の教育	1 (1.9%)
その他	8 (14.8%)

Q7. Q6で取り組んでいる授業がある部署、学部・学科にお伺いします。差し支えなければ、授業名をご記入ください。（複数回答可）

※この設問の回答内容については、末尾の個別回答リストを参照。

Q8. 学生の「主体的な学び」について、初年次教育以外の授業で取り組まれている事例があれば選択してください。(複数回答可)

少人数グループで問題解決を目指す協働学習を利用した教育	27 (50.0%)
PC・インターネット等、電子機器の使い方にについて学ぶコンピュータ・リテラシー教育	20 (37.0%)
ディベート、ディスカッションなど他者との意見交換の仕方についての教育	18 (33.3%)
ノートの取り方・レポートの書き方・プレゼンの仕方などのスタディスキル教育	13 (24.1%)
学修に必要な情報の検査・利用の仕方について学ぶ情報リテラシー教育	13 (24.1%)
学修に必要な情報の取り扱い方を学ぶ、著作権等の情報倫理教育	12 (22.2%)
蔵書検索・資料配置等、大学図書館の使い方に関する教育	9 (16.7%)
英語を使用したレポート・論文の書き方の教育	6 (11.1%)
大学教育を受けるための基礎学力を補うリメディアル教育	5 (9.3%)
その他	13 (24.1%)

Q9. Q8で取り組んでいる授業がある部署、学部・学科にお伺いします。差し支えなければ、授業名をご記入ください。(複数回答可)

※この設問の回答内容については、末尾の個別回答リストを参照。

Q10. 学生への学修支援について、学内において採用している事例があれば、選択してください。(複数回答可)

教員へのFD研修	48 (88.9%)
学修相談等教員と学生を結ぶクラス担任制・アドバイザー制度	46 (85.2%)
質問等のために教員研究室を訪ねられるオフィスアワー制度	46 (85.2%)
大学院生TAによる学修支援制度	33 (61.1%)
学生の自己評価のための学修ポートフォリオ	22 (40.7%)
学生による学生のサポート・メンター制度	8 (14.8%)
学修行動調査アンケートの実施	8 (14.8%)
アセスメントテスト(学修到達度調査)の実施	5 (9.3%)
特になし	0 (0.0%)
その他	2 (3.7%)

Q11. 学生の学修環境支援について、講義室以外で利用できる自習スペースを設けていますか。設けている場合、どのような場所であるか、ご回答ください。(複数回答可)

図書館に自習スペースがある	45 (83.3%)
多目的用途の部屋として開放しているスペースがある	31 (57.4%)
自習スペース専用の部屋がある	24 (44.4%)
特になし	1 (1.9%)
その他	5 (9.3%)

Q12. 学生の自習スペースに関して、学修環境を整える際に重視した条件をご回答ください。また、設置していない場合は、重要と考えられるものをご回答ください。(複数回答可)

情報コンセント・無線LAN等を整備し、学生自身のPCが持ち込み利用できること	37 (68.5%)
備え付けのPC等が利用できること	25 (46.3%)
自由にディベート・会話ができるここと	24 (44.4%)
夜遅くまで利用できること	21 (38.9%)
机・椅子等が可動式で、学修しやすい形態へと自由に動かせること	20 (37.0%)
私語禁止で静かであること	18 (33.3%)
学修やキャリアについて相談できる人員がいること	13 (24.1%)
飲食ができるここと	12 (22.2%)
プロジェクタ等があり、プレゼンテーションの練習ができるここと	10 (18.5%)
e-learningが利用できること	10 (18.5%)
学生を監視する教員や職員等がないこと	9 (16.7%)
24時間利用できること	2 (3.7%)
特になし	2 (3.7%)
その他	0 (0.0%)

Q13. 学生の「主体的な学び」を促す学士課程教育を目指すにあたり、どのような能力の育成を重視されていますか。カリキュラム作成の際に重視されている学内的な方針などがございましたら、ご回答ください。(上位3位まで)

項目	合計	1位	2位	3位
学生自ら課題を設定し、解決・探求していく能力	48 (88.9%)	31 (57.4%)	11 (20.4%)	6 (11.1%)
フィールドワーク、実習などを通して培う、実践的な能力	37 (68.5%)	12 (22.2%)	11 (20.4%)	14 (25.9%)
ディベート、ディスカッションなど、自分の意見を伝え、相手の意見を聞く能力	33 (61.1%)	6 (11.1%)	17 (31.5%)	10 (18.5%)
教員や職員など立場の異なる人とも積極的に適切なコミュニケーションをとれる能力	14 (25.9%)	1 (1.9%)	5 (9.3%)	8 (14.8%)
宿題やレポートなどの課題を含む授業時間外学修を自発的、持続的に行う態度	13 (24.1%)	1 (1.9%)	5 (9.3%)	7 (13.0%)
客観的な事実に基づく自己分析、評価能力	7 (13.0%)	0 (0.0%)	2 (3.7%)	5 (9.3%)
特になし	4 (7.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (7.4%)

Q14. 「主体的な学び」において、図書館による学修支援活動に、以下の事例があります。貴部署（学部・学科）として、貴学図書館に期待する活動をご回答ください。（3つまで選択可）

学修や研究上必要な情報を、個別の要望に応じて提供するレファレンスサービスの充実	27 (50.0%)
カリキュラムと直結した資料整備	26 (48.1%)
学術情報検索ツール（辞書・データベースなど）の充実	19 (35.2%)
電子的資料（電子ジャーナル・電子ブック）の充実	14 (25.9%)
アクティブラーニングなど様々な授業形態・学修形態に対応するスペースの設置、整備	14 (25.9%)
特定のテーマに関する情報を探すための手引き・ガイド（パスファインダー）の作成	8 (14.8%)
情報リテラシー教育への図書館職員の直接的関与	8 (14.8%)
24時間開館（開室）	7 (13.0%)
学生によるラーニングアドバイザーの設置	5 (9.3%)
レポートのライティング指導	5 (9.3%)
学生・教員間（研究者間）の学問的交流の場や機会の提供	5 (9.3%)
学内研究成果や学修教材の集積と発信	4 (7.4%)
学位論文の公開	1 (1.9%)
特に期待しない	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)

Q15. 学修支援にかかわらず、図書館に期待する活動や取組みがございましたらご記入ください。

積極的な情報発信力の向上。どのようなサービスが整備されているのかを学生に「直接的に」届くような発信の工夫力を期待する。
地域住民への開放
デジタル全盛の時代に、アナログの良さを感じることのできる場所であってほしい。
ラーニングコモンズの導入（学生の利用スペース増に努力中）
図書館の学修支援のための取組みは、かなり充実したものになっていると思いますが、学生側が十分に使いこなせないのが現実かと思います。

3) 個別回答の結果

Q7. Q6(初年次教育)で取り組んでいる授業がある部署、学部・学科にお伺いします。差し支えなければ、授業名をご記入ください。（複数回答可）

IT情報倫理、PBL（問題基盤型学習）情報科学、キャリアデザイン1～4、クラムスクール化学、コミュニケーション、コンピュータリテラシー、コンピュータ入門、スタートアップセミナー、スタディスキル

ズ、セミナー建築学入門、フレッシャーズセミナー、ライフデザイン、リエゾンゼミ1、医学セミナー、医学総論（初年次ゼミ）、科学リテラシー、各学科セミナー系科目、学の世界入門、学習基礎教養演習、基礎ゼミ、基礎ゼミナール情報系基礎、基礎英語、基礎英語演習、基礎演習、基礎化学演習、基礎教養入門、基礎数学、基礎数学演習、基礎物理、基礎物理学演習、教養ゼミナールコンピュータ基礎演習、教養演習（ゼミ）コンピュータリテラシー、資料組織概説、資料組織演習、歯科医学概論、初年次ゼミ、情報の基礎、情報メディア入門、情報リテラシー、情報演習、情報基礎、情報機器の操作（1）～（2）、情報処理、情報処理演習、情報処理応用、情報処理基礎、情報処理入門、食情報の収集と活用演習、食物基礎講座、新大学生のためのレポート教室、新入生支援講座、図書館資料論、生物資源科学への招待、生命薬科学科リメディアル教育、専門課程への生物学、全学共通教育科目、全学類、卒業研究、知能エレクトロニクス、導入演習、福島学、文章表現法、文章理解、問題基盤型学習、薬学科、薬学部、論作文技（1）～（2）

Q9. Q8で取り組んでいる授業がある部署、学部・学科にお伺いします。差し支えなければ、授業名をご記入ください。（複数回答可）

ICTの基礎（1）～（2）、ICT活用法（1）～（2）、Speech & Debate2、Thesis Writing and Presentation、コンピュータリテラシー1～2、システム科学技術学部の各学科演習科目、セキュリティオリエンテーション（毎年、ゼミナール、ゼミナール（土木工学科/建築学科/機械工学科/電気電子工学科）、ソフトウェアスタジオ、チーム医療実習、テュートリアル、ネットワークとデータベース、フィールドプロジェクト、プレゼン、プログラミング演習、ベンチャーエクスperiment、ボランティア活動実践、リエゾンゼミ2演習、異文化の理解、医学医療原論、英語演習各コース、英語論文作成法、演習専門科目、各学科セミナー系科目、学術英語、看護研究、看護研究、基礎演習、基礎化学、基礎研究実習、基礎数学、基礎物理学、教材開発、教職入門総合演習、教養演習、研究演習、国語表現法、歯科臨床ゼミ、実務実習（病院/薬局）、社会学演習1～4、修了論文、処方解析、処方実務演習（授業形態はPBLにより実施）、情報と知識/技術、情報リテラシー、情報基礎学、情報社

会学（情報工学科）、情報処理演習IT各コース、情報倫理、心理学1～3、心理学特殊演習1～4、人文情報処理、図書館への招待、数理科学英語演習、生物資源科学部の各学科演習科目、専門英語コンピュータ演習、専門演習、全学年）、全学類・卒業研究、知的財産権II、知的財産論、知能機械工学英語演習、地域の自然と文化、地球環境学英語演習、電子情報工学英語演習、特別研究、日本語基礎、表現文化演習1A～2B、福島学（共通教育のため全学科、全コース、全学年対象）、物質創成化学英語演習、物理科学英語演習、法情報学、法情報学演習、薬学部薬学科症例解析、臨床実習（ケースプレゼンテーション）、輪講技術系文書作成法

(2) 各加盟館における学修支援の取組みに関する調査(第一次調査)

1) アンケートの概要

東北地区大学図書館協議会の加盟館65館に対して、ウェブ回答方式のアンケートを実施した。

調査目的：中教審答申にも取り上げられている「学生の主体的な学び」について、その実現のための方策を検討し、成果を加盟館へ還元するため、各館における学修支援の取組みに関する調査を行う。

各加盟館における学修支援の取組みに関する調査(第一次調査) 1~10/10											
<p>平成24年8月28日の中教審答申の中「新たに求められる大学教育の実現方略」において、学生が「自己に 맞는 학습(自分自身のための学習)」が実現され、学習扶助でも生徒の主体的学習(以下「主体的学習」とす)するような教育のあり方が求められることに照らして、実施している学修支援の状況を下記問に沿ってお答えください。ただし、複数選択可。</p>											
[Q1]	貴館の名前をお答えください。(本館・分館・附属図書館・室単位)(必須)										
[Q2]	貴館において、実施している学修支援を選んでください。(複数回答可)(必須)										
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 入学オリエンテーション <input type="checkbox"/> リーディング <input type="checkbox"/> 授業としての在学教育 <input type="checkbox"/> 図書館主催による白板の利用方法講座 <input type="checkbox"/> データベース等を利用した情報探査講座 <input type="checkbox"/> 学生会主催によるセミナー等による情報技術支援 <input type="checkbox"/> 学生会アシスタント(ラーニングアシスタント等)によるライティング(レポート作成)支援 <input type="checkbox"/> ライティング(レポート作成)講座 <input type="checkbox"/> 特にない <input type="checkbox"/> その他(100文字) 											
[Q2]	貴館の名前をお答えください。(本館・分館・附属図書館・室単位)(必須)										
<p>【Q3】 貴館において、実施している学修支援を選んでください。(複数回答可)(必須)</p> <p>□ 入学オリエンテーション <input type="checkbox"/> リーディング <input type="checkbox"/> 授業としての在学教育 <input type="checkbox"/> 図書館主催による白板の利用方法講座 <input type="checkbox"/> データベース等を利用した情報探査講座 <input type="checkbox"/> 学生会主催によるセミナー等による情報技術支援 <input type="checkbox"/> 学生会アシスタント(ラーニングアシスタント等)によるライティング(レポート作成)支援 <input type="checkbox"/> ライティング(レポート作成)講座 <input type="checkbox"/> 特にない <input type="checkbox"/> その他(100文字)</p>											
[Q4]	貴館における学生や院生の利用状況について、該当する項目をお答えください。貴館からの働きかけ、あるいは委員や他館からも委員会からされていることについて、どんな活動などでもOKです。(500文字)										
<p>貴館における学生や院生の利用状況について、該当する項目をお答えください。カウンターでの貸出業務、学修支援等、作業内容は問いません。</p> <p>【Q5】 アルバイトとして雇用。(複数回答可)</p> <p>□ 学部生 <input type="checkbox"/> 院生 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>【Q6】 ティーチング・アシスタンストを扶助。(複数回答可)</p> <p>□ 学部生 <input type="checkbox"/> 院生 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>【Q7】 ボランティアとして参加して実行している。(複数回答可)</p> <p>□ 学部生 <input type="checkbox"/> 院生 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>【Q8】 アクティブラーニングとその周辺支援について何をします。</p>											
<p>なお、第一次調査の内容を基に第二次調査を実施する予定である。</p> <p>調査対象：東北地区大学図書館協議会加盟館（65館）</p> <p><内訳> 国立：15館 公立：12館 私立：38館</p> <p>調査期間：平成25年2月12日(火)～平成25年2月28日(木)</p> <p>調査方法：リアルタイム評価システム「REAS」(放送大学運用)を利用してウェブ回答方式アンケート</p> <p>回答件数：42件 (回収率：64.6%)</p>											
<h3>2) アンケートの結果</h3> <p>複数回答の場合は全回答件数42を分母としており、この場合の合計は100%にならない。割合(%)は、小数点第二位四捨五入としている。</p>											
<p>Q1. 貴館の名称をお答えください。</p> <p>(本館・分館・部局図書館・室単位)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置形態</th> <th>回答数(割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国立</td> <td>12 (28.6%)</td> </tr> <tr> <td>公立</td> <td>8 (19.0%)</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>22 (52.4%)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>42 (100.0%)</td> </tr> </tbody> </table>		設置形態	回答数(割合)	国立	12 (28.6%)	公立	8 (19.0%)	私立	22 (52.4%)	合計	42 (100.0%)
設置形態	回答数(割合)										
国立	12 (28.6%)										
公立	8 (19.0%)										
私立	22 (52.4%)										
合計	42 (100.0%)										

Q2. 貴館において、実施している学修支援を選んでください。(複数回答可)

入学時オリエンテーション	33 (78.6%)
データベース等を利用した情報探索講座	27 (64.3%)
図書館主催による自館の利用方法講座	24 (57.1%)
授業としての初年次教育	15 (35.7%)
年次ガイダンス	11 (26.2%)
学生・院生アシスタント(ラーニングアドバイザー等)による情報探索支援	5 (11.9%)
学生・院生アシスタント(ラーニングアドバイザー等)によるライティング(レポート作成)支援	5 (11.9%)
その他	5 (11.9%)
ライティング(レポート作成)講座	3 (7.1%)
特になし	1 (2.4%)

Q3. [Q2]の選択肢のうち、図書館員(専任職員・委託職員・派遣職員・非常勤職員を含む)が講師を務めているものがありますか。(複数回答可)

入学時オリエンテーション	29 (69.0%)
データベース等を利用した情報探索講座	27 (64.3%)
図書館主催による自館の利用方法講座	25 (59.5%)
授業としての初年次教育	13 (31.0%)
年次ガイダンス	8 (19.0%)
その他	5 (11.9%)
ライティング(レポート作成)講座	4 (9.5%)
該当なし	3 (7.1%)

Q4. 貴館と学内他部署との学修支援に関する連携の状況について、ご記入ください。貴館からの働きかけ、あるいは教員や他部署から連携を働きかけられていることについて、どんな些細なことでもけっこうです。
※この設問の回答内容については、末尾の個別回答リストを参照。

【Q5-Q7】貴館における学生や院生の活用状況について、該当する項目をお答えください。カウンターでの貸出業務、学修支援等、作業内容は問いません。

Q5. アルバイトとして雇用。(複数回答可)

学部生	23 (54.8%)
院生	14 (33.3%)
その他	0 (0.0%)
無回答=活用なし(「その他」に回答されたものを含む)	16 (38.1%)

Q6. ティーチング・アシスタントを依頼。(複数回答可)

院生	1 (2.4%)
学部生	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)
無回答=活用なし(「その他」に回答されたものを含む)	41 (97.6%)

Q7. ボランティアとして参加して貰っている。(複数回答可)

学部生	5 (11.9%)
院生	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)
無回答=活用なし(「その他」に回答されたものを含む)	37 (88.1%)

Q8. アクティブラーニングを取り入れた授業について、該当する項目を選んでください。

図書館で支援している	8 (19.0%)
支援していない	34 (81.0%)
合計	42 (100.0%)

※この設問の「している」場合の回答内容については、末尾の個別回答リストを参照。

Q9. アクティブラーニングスペース(ラーニング・コモンズ)について、貴館における設置の有無をお答えください。

設置している	16 (38.1%)
設置する方向で検討している	15 (35.7%)
設置予定なし	11 (26.2%)
合計	42 (100.0%)

Q10. 学生の「主体的な学び」を促す学士課程教育を目指すにあたり、図書館としてどのような能力の育成を重視されていますか。重要と思われる項目を順に3つまで選んでください。

項目	合計	1位	2位	3位
学生自ら課題を設定し、解決・探求していく能力	40 (95.2%)	27 (64.3%)	10 (23.8%)	3 (7.1%)
宿題やレポートなどの課題を含む授業時間外学修を自発的、持続的に行う態度	33 (78.6%)	10 (23.8%)	12 (28.6%)	11 (26.2%)
ディベート、ディスカッションなど、自分の意見を伝え、相手の意見を聞く能力	30 (71.4%)	3 (7.1%)	17 (40.5%)	10 (23.8%)
フィールドワーク、実習などを通じて培う、実践的な能力	12 (28.6%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	10 (23.8%)
客観的な事実に基づく自己分析、評価能力	6 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	5 (11.9%)
教員や職員など立場の異なる人とも積極的に適切なコミュニケーションをとれる能力	5 (11.9%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	3 (7.1%)

3) 個別回答の結果（回答館を特定できる固有名詞を除いたほかは、回答記述のままに掲載）

Q4. 貴館と学内他部署との学修支援に関する連携の状況について、ご記入ください。貴館からの働きかけ、あるいは教員や他部署から連携を働きかけられていることについて、どんな些細なことでもけっこうです。

- ・推薦入学試験で合格した受験生に対してのブリッジ教育のなかで、各学科から与えられた課題資料を入試課より入手し、課題図書を用意して合格者へ供している。
- ・学事課よりシラバスに掲載の参考書等データを受取り、その内容を参照し、年度当初からの学生の利用に供することができるよう極力所蔵に努めている。
- ・教員からの希望で、図書館視聴覚室を利用して、Cinema La Fontaine と銘打ち、学生の授業の一環として上映会を開催しているが、図書館としては情宣活動に参加している。
- ・4月の学部オリエンテーションの際に、図書館ガイダンスのチラシを配布してもらっている。
- ・学科からの要望に応じ、オリエンテーションの後に図書館利用説明を実施。
- ・研究室からの要望に応じ、利用説明・文献探索のガイダンスを実施。（授業の一コマを利用）
- ・国際交流担当の事務方からの要望で、留学生向けのガイダンスを実施（授業の一コマを利用）
- ・各種ガイダンスの開催について、教職員宛のメールで通知し、学生への周知を依頼。
- ・医学部4年生時の基礎上級カリキュラムの最初に、文献検索利用指導を図書館から働きかけて開催している。
- ・看護学部2年生時の看護研究方法論カリキュラムの中で、担当教員から依頼を受け文献検索利用指導を行っている。
- ・教員から依頼を受け、授業の1コマを使って論文の検索方法を図書館職員が講師となり指導する。図書館職員は他のコマの講義に出向く。
- ・院生や教員、病院の医員などが所属する組織と協力し、若手研究者向けの講習会、セミナーを企画・実施している。
- ・授業対応の利用者講習会について、教員からの依頼により開催していることに加え、図書館から全教員宛てに案内を通知している。
- ・学内他部署との連携については、本年度（平成24年度）、若手職員の有志からの依頼により、職員向けの講習会を実施した。
- ・総合教育研究センター教員「学びのナビ」（学習ガイドブック）作成分担関連図書の選定購入
- ・1) 図書館内において学習サポートを行う院生の雇用に係る経費を基盤教育担当部署が負担している。
・2) 基盤教育（1年次教養教育）の授業「スタートアップセミナー」における図書館利用（図書館案内・情報検索実習等）については、基盤教育関係教員を通して、各授業担当教員に周知している。
- ・1. 資料組織演習の授業の手伝いをしている。
・2. 学生の文献検索に力をかし、できるかぎり必要としている図書や文献の提供に努めている。
・3. インターンシップの授業の依頼により、希望する学生には、インターンシップを行っている。
・4. ボランティアの授業の依頼により、図書館ボランティアを希望する学生を受入れる。

- ・1. 数学・物理の教員および学内の工学基礎教育センターと連携して、館内に入門書コーナーを新設した。その際、コーナーに配架する図書選書にあたって、教員に働きかけて共同選書をお願いした。
- ・2. 館内展示コーナーに配架する図書について、授業や卒業研究等に関連するテーマも取り入れることによって学修支援に結び付くと考えている。そこで配架図書の選書にあたっては教員に連絡を取りその適否や教員からのお薦めの図書等を伺っている。
- ・3. 学務部に依頼してシラバスに掲載の参考書等データを参照し、年度当初からの学生の利用に供することができるよう極力所蔵に努めている。
- ・1年生のリエゾンゼミは学部統一のテーマのほかに各担任独自のテーマの時間に「図書館利用について」の依頼がある。
- ・Q2、Q3と内容がダブりますが、1年生必須の英語の時間を1時間使わせてもらって「Library and literacy workshop」を行っています。また、英語の多読の授業にあわせて、多読用図書コーナーを設け、他の本と別に指定図書として利用者も学内の方に限定して貸出をしています。
- ・インターーンシップの一環として図書館で実習生（本学学部生）を受け入れている。
- ・カリキュラム・トランジション・センター（高大接続教育）との連携による、図書館コモンズでの授業等を計画している。
- ・シラバス掲載図書の書誌事項や改版の確認を、各学部教務課に働きかけ実施している。講義での文献検索実習などについては、教員から直接要望がある。
- ・各教員より授業の1～2コマを使用して図書館の利用講座（館内利用方法、文献探索方法、データベース利用方法）を行ってほしいとの依頼がある場合には、その要望に合わせた内容で図書館員が利用講座を行っています。
- ・学科や研究室等からの要望に応じて、情報検索等の出張講習会（オーダーメイド講習会）を随時実施している。当館からの働きかけで、シラバスシステム内の各教科書・参考書データから、図書館の蔵書検索システムにリンクさせている。
- ・教員、図書館相互の呼びかけによる図書館利用方法講座（ツアーやセミナー）の実施。キャリア開発センター（就職支援部署）と連携し、就職関連図書の配架、貸出を行っている。
- ・教員からの依頼を受けて、授業の中で図書館ガイダンスを実施。図書館のグループ学習スペースをゼミ等で利用。
- ・教員に連携を働きかけて授業とタイアップしたデータベース説明会を行っている。
- ・教員要請（年6～10件、授業内におけるEJ・二次DB等の利用指導）
- ・教養教育科（1年次担当教員）との連携で、「初年次ワークブック」の作成、教養演習（前期2コマ）にて図書館利用をはじめとする情報検索等の支援を行っている。また本学で新たに教育方法開発室が設置され、現在、アクティブ・ラーニングに関する研究会、T.A.について、図書館として協力体制を整える予定である。
- ・狭義（正課）の学修支援では、授業やレポート作成に必要な資料を指定図書・準指定図書として利用に供しているほか、館内にセミナー室を整備して活用を呼びかけている（毎回利用するゼミもある）。また、キャリア教育に関するセミナーを設け、各学部の専門性を考慮した資料を配架しているほか、大学図書館独自に就活応援セミナーを企画・実施している。

<ul style="list-style-type: none"> 授業の一環として行われる情報検索について、教員からの協力依頼を受けて、積極的に対応している。
<ul style="list-style-type: none"> 授業や課題で使用予定の図書や図書館利用などについて、教員と連絡を取り合っている。
<ul style="list-style-type: none"> 就職課や教職教室と連携し、就職支援、資格取得支援、教員・公務員試験対策にかかる図書資料の充実を図っている。
<ul style="list-style-type: none"> 初年次教育「スタディスキルズ」では、基礎的な教育を行っている。その1つの教科の何時間分かを図書館が受け持ち、その中で図書館利用方法や情報検索など実践し、主体的学びに結びつくよう、学修支援の一役を担っている。
<ul style="list-style-type: none"> 情報メディアセンター（図書館）、大学教育総合センター、国際交流センターの3センターが連携して、アクティブ・ラーニングスペース設置に向けて検討している。
<ul style="list-style-type: none"> 図書館ガイダンス・当館より「教授者便覧」に掲載し教員へ、および本学図書館運営委員会において運営委員より各学科教員へ周知している。
<ul style="list-style-type: none"> 初年次教育として1年生の授業に図書館利用等が含まれており、教員と打ち合わせの上、所蔵検索、本の探し方等の図書館ガイダンスを実施している。
<ul style="list-style-type: none"> 2-4年生には、教員の依頼により、授業において情報検索等、またゼミ単位の卒論対策の文献検索等の図書館ガイダンスを実施している。
<ul style="list-style-type: none"> 図書館では、年度初めにシラバス掲載の図書を指定図書コーナーに整備し学生の便宜を図っているが、教員から各学部教務課に講義指定の図書が提出され次第、教務課から原稿データをまわしてもらうよう依頼している。シラバスの指定図書の記載部分を図書館側がチェックし、原稿の修正を行うことで、教務課の業務負担も減り、また図書館では原稿の段階から即指定図書コーナーの整備に取りかかることができ、相互協力で作業の効率化を図ることにもなっている。また、教員から直接図書館に講義の依頼がある場合は、教員と日程や内容等を検討して対応している。
<ul style="list-style-type: none"> 図書館より学務委員会へ学習アドバイザーの設置を提案し、H25年度より図書館に配置することを決定した。
<ul style="list-style-type: none"> 年次ガイダンスは、図書館から各部局・専攻の教務担当を経由して図書委員の教員に提案して内容を検討してもらい（利用案内のほか、情報検索の基礎講義まで含めるか、など）、各部局・専攻の都合に合わせて実施している。
<ul style="list-style-type: none"> 毎年のように図書館運営委員会の委員を通じて各学科に働きかけているが、思わない成果が得られていない。個々の教員の依頼により、その教員が担当する講義内で図書館に関する解説をすることがある。

Q8. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業－具体的な支援内容

<ul style="list-style-type: none"> 基礎ゼミ、特別研究ゼミの授業での文献検索や文献入手支援と学習室の利用提供
<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料を整備して、館内での調べものに対応している。
<ul style="list-style-type: none"> 初年次教育（スタートアップセミナー）における図書館の場所としての提供
<ul style="list-style-type: none"> 教員からの依頼で、図書館の資料を利用しながらのグループ学習を行う際、その課題に関する資料を事前にリザーブ（レポート提出期限日まで館内の利用とする）する。
<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングが可能となる場の整備
<ul style="list-style-type: none"> 臨床疫学の文献検索（講義・実習）を担当し、実習補助員も含め4名で指導にあたっている。
<ul style="list-style-type: none"> 情報検索、実習に関する事前調査、レファレンスサービスなど

図書館統計年報

(1) 建物・職員数・蔵書状況及び図書費

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

図書館名	建物面積	職員数		蔵書冊数					平成 23 年度増加冊数			平成 23 年度図書購入費
		図書館職員	内臨時職員	和書	洋書	計	内開架図書	内指定図書	和書	洋書	計	
弘前大学	6,102	19	10	493,326	161,078	654,404	143,472	冊	7,757	1,329	9,086	11,295
(〃医学部分館)	1,569	5	3	98,554	74,236	172,790	39,693	冊	1,254	814	2,068	4,752
岩手大学	9,089	25	12	667,802	194,262	862,064	2,654,567	冊	6,790	848	7,638	21,946
東北大学	18,215	60	32	1,513,182	1,141,385	2,654,567	181,541	冊	33,369	9,050	42,419	160,958
〃医学分館	4,476	19	12	168,803	256,443	425,246	425,246	冊	-4,555	-1,914	-6,469	13,500
〃北青葉山分館	3,356	10	6	81,216	302,424	383,640		冊	2,613	2,130	4,743	19,806
〃工学分館	5,355	19	9	173,211	181,395	354,606	354,606	冊	4,815	2,453	7,268	24,743
〃農学分館	1,279	6	2	78,215	60,776	138,991		冊	1,155	-1,130	25	12,832
宮城教育大学	2,934	11	5	297,424	48,581	346,005	325,361	冊	6,558	372	6,930	14,516
秋田大学	4,604	18	9	299,320	111,181	410,501	305,098	冊	5,200	534	5,734	14,134
〃医学部分館	1,717	7	5	49,325	56,697	106,022		冊	1,234	405	1,639	6,119
山形大学小山図書館	7,626	15	8	531,909	185,937	717,846	166,826	冊	5,258	1,961	7,219	23,534
〃医学部図書室	1,195	7	4	38,681	65,530	104,211	104,211	冊	718	101	819	4,393
〃工学部図書室	3,259	5	3	112,869	56,804	169,673	70,835	冊	1,069	232	1,301	12,363
〃農学部図書室	969	3	1	78,446	16,953	95,399	14,446	冊	1,192	50	1,242	3,992
福島大学	7,218	20	9	636,625	229,711	866,336	121,195	冊	9,863	1,341	11,204	36,915
青森公立大学	3,337	4	2	125,892	44,351	170,243	170,243	冊	3,754	94	3,848	11,757
青森県保健大	1,850	8	5	80,606	23,661	104,267	104,267	冊	3,469	242	3,711	11,350
岩手県立大学	6,245	12	3	228,381	60,088	288,469	174,636	冊	4,028	71	4,099	9,500
宮城大学和キャンパス	2,193	6	4	88,859	14,544	103,403	67,443	冊	7,520	235	7,755	15,151
〃太白キャンパス	943	5	4	53,671	4,386	58,057	43,948	冊	2,274	67	2,341	6,236
秋田県立大学	4,879	9	7	181,239	41,755	222,994	163,918	冊	6,904	1,719	8,623	19,711
秋田公美工短	1,194	12	1	33,854	7,631	41,485		冊	707	127	834	4,000
国際教養大学	1,816	2		22,788	45,424	68,212		冊	1,801	2,404	4,205	21,404
山形保健医大	890	6	5	54,523	6,610	61,133		冊	1,716	70	1,786	4,937
米沢女子短大	1,144	4	3	98,521	7,503	106,024	100,256	冊	1,133	8	1,141	2,859
会津大学短大	2,446	9	5	57,111	70,308	127,419	73,150	冊	1,699	628	2,327	6,857
福島県立医大	443	2	1	67,854	7,241	75,095		冊	1,384	1,384	2,803	
福島県立医大	3,400	11	3	125,203	93,557	218,760	203,783	冊	2,779	467	3,246	70,880
青森大学	2,729	4	1	136,722	22,219	158,941		冊	775	14	789	2,241
東北女子大学	559	2		33,797	4,469	38,266	38,266	冊	848	33	881	2,959
〃学院大学八戸学院大学	1,636	4	1	147,536	13,979	161,515	84,000	冊	2,734	153	2,887	5,600
八戸工業大学	2,512	6	2	103,834	26,252	130,086	26,462	冊	1,124	250	1,374	3,022
弘前学院大学	1,280	2		82,859	18,694	101,553	101,553	冊	1,323	61	1,384	5,360
青森中央学院大学	1,585	8	2	73,340	4,834	78,174	73,608	冊	2,262	283	2,545	3,475
岩手医科大学	5,054	15	7	142,976	134,963	277,939	256,526	冊	3,176	197	3,373	13,539
富士大学	1,225	5	1	157,957	30,319	188,276	47,861	冊	3,724	96	3,820	6,067
盛岡大学	2,081	7	1	146,001	22,398	168,399	66,295	冊	2,760	121	2,881	9,934
修紅短期大学	206	2	0	13,176	234	13,410	10,315	冊	3,095	349	0	635
岩手看護短大	183	4		18,811	2,355	21,166	17,995	冊	310	6	316	348
仙台大学	1,120	2		95,497	16,749	112,246		冊	3,638	431	4,069	3,848
仙台白百合女子大	1,446	8	4	80,926	9,881	90,807		冊	947	11	958	3,132
石巻専修大学	3,496	3		103,608	59,118	162,726		冊	2,035	663	2,698	7,995
東北学院大学中央	7,602	31	23	455,781	300,084	755,865	33,094	冊	7,906	2,048	9,954	51,962
東北学院大学多賀城	2,766	8	6	95,887	58,828	154,715	153,373	冊	1,627	170	1,797	8,849
東北学院大学大泉	6,100	14	11	216,439	99,785	316,224	130,866	冊	5,799	1,059	6,858	32,705
東北工業大学	2,977	8	1	181,858	54,465	236,323	65,748	冊	5,255	701	5,956	14,959
東北福祉大学	4,205	14	2	282,938	67,355	350,293	155,059	冊	9,221	804	10,025	43,925
東北文化学園	1,982	5	4	97,637	15,816	113,453	72,987	冊	2,749	20	2,769	8,822
東北薬科大学	2,036	6	3	61,417	42,067	103,484	103,484	冊	1,872	464	2,336	81,171
宮城学院女大	3,215		10	292,766	104,121	396,887	52,916	冊	3,572	1,044	4,616	24,069
尚絅学院大学	2,338			113,154	24,737	137,891	78,854	冊	5,745	4,180	9,925	15,400
聖和学園短大	428	2	1	52,572	1,281	53,853	32,319	冊	340	340	1,208	
仙台青葉学院短大	214	1		10,414	907	11,321	9,893	冊	2,177	739	2,916	5,000
東北生活文化大学	660	2	1	62,944	5,372	68,316	68,316	冊	1,562	13	1,575	3,291
ノースアジア大学	1,689	3	1	148,130	28,394	176,524	91,709	冊	1,287	10	1,297	5,125
東北芸工大学	2,155	2		128,074	15,131	143,205	143,205	冊	3,563	376	3,939	14,255
羽陽学園短大	705	2		55,293	2,359	57,652	57,652	冊	1,183	13	1,196	3,475
東北文教大学同短大	1,533	6	2	108,799	8,392	117,191	69,920	冊	1,556	12	1,568	5,013
東北公益分科大学	1,517	6	4	87,951	10,112	98,063	87,139	冊	1,892	62	1,954	5,142
いわき明星大学	4,943	2		191,779	55,114	246,893	68,716	冊	5,736	742	6,478	30,035
奥羽大学	2,635	7		146,843	93,114	239,957	239,957	冊	1,320	533	1,853	4,145
郡山女子大学	1,651	4		99,076	14,329	113,405	90,000	冊	1,477	21	1,498	3,254
東日本国際大	1,221	3		69,414	10,158	79,572	79,572	冊	1,037	21	1,058	2,797
日本大工学部	5,006	13	7	213,843	120,721	334,564	334,564	冊	1,973	648	2,621	8,729
桜の聖母短大	642	2	1	47,845	9,322	57,167	57,167	冊	1,097	132	1,229	2,939
福島学院大学	2,190	4	2	72,109	5,600	77,709	77,709	冊	1,234	6	1,240	3,068

(2) 利用状況及び文献複写件数

(平成 23 年度分)

図書館名	図書館利用状況										文献複写						
	対象学生数	学生				対象職員数	教職員				学内分	学外分	計				
		館内閲覧		館外貸出			館内閲覧		館外貸出								
		人員	冊数	人員	冊数		人員	冊数	人員	冊数							
弘前大学 (" 医学部分館)	人 6,988	人 人	冊 冊	人 21,654	冊 40,581	9,721	人 人	冊 冊	人 1,268	冊 2,583	256	2,246	2,502				
岩手大学	5,921			7,711	13,031				977	1,866	279	2,865	3,144				
東北大学	18,451			30,550		1,014				2,899	1,879	1,874	3,753				
" 医学分館	2,711			74,339	146,761	9,619			6,044	15,763	4,953	3,030	7,983				
" 北青葉山分館	3,076			8,438	13,362	3,494			1,131	2,064	11,780	20,284	32,064				
" 工学分館	6,743			9,475	15,316	1,035			947	1,501	1,163	1,135	2,298				
" 農学分館	1,079			23,017	41,077	733			1,544	2,845	145	1,378	1,523				
宮城教育大学	1,674			8,432	190					705	733	910	1,643				
秋田大学	5,261			14,163	30,165	553			1,035	3,457	86	353	439				
" 医学部分館	1,356			14,128	27,215	2,660			750	1,585	1,595	770	2,365				
山形大学小白川図書館	3,510			6,567	10,883	1,448			789	2,472	2,172	2,984	5,156				
" 医学部図書室	1,175			19,633	41,088	3,349			1,436	3,015	198	1,516	1,714				
" 工学部図書室	3,684			4,898	8,583	1,637			1,223	2,507	265	3,095	3,360				
" 農学部図書室	641			8,885	1,774	432			392	932	87	547	634				
福島大学	4,563			2,130	3,726	124			138	240	28	188	216				
福島大和キャンパス	576			15,400	35,919	667			1,254	5,351	9,947	728	10,675				
青森公立大学	1,343			5,985	12,048	102			236	772	35	44	79				
青森県保健大	971			10,469	28,878	439			1,004	3,684	5,999	2,332	8,331				
岩手県立大学	2,577			8,507	16,842	480			1,299	2,903	1,895	675	2,570				
宮城大学大和キャンパス	1,358			7,882	18,823	291			663	2,701	3,240	1,089	4,329				
" 太白キャンパス	576			3,084	6,040	102			378	1,235	914	229	1,143				
秋田県立大学	1,846			26,518	455					4,859	848	784	1,632				
秋田公美工短	350			5,866	62					1,194	90	17	107				
国際教養大学	1,010			9,352	212					1,063	577	577					
山形保健医大	432			3,475	6,741	78			654	1,190	1,593	833	2,426				
米沢女子短大	647	27,760		4,536	8,891	108	1,093		459	975	534	128	662				
会津大学	1,261			4,684	8,743	115			469	891	348	642	990				
会津大学短大	339			2,410	5,131	174			394	2,381	91	91					
福島県立医大	1,161			8,016	15,182	2,467			1,424	3,331		2,517	2,517				
青森大学	1,178			420	95					209	196	11	207				
東北女子大学	371	1,163		888	96	1,850				840	1,918	1	1,919				
八戸学院大学	896	22,180		3,511	8,031	114	989		408	1,227	1,089	95	1,184				
八戸工業大学	1,361			699	1,173	238			89	189	94	94					
弘前学院大学	725			3,293	178					1,462	415	3	418				
青森中央学院大学	1,557			438	5,783	139			78	1,028		448	448				
岩手医科大学	2,200			3,495	6,156	3,634			2,394	6,053		0					
富士大学	844			1,029	2,175	144			257	619		301	301				
盛岡大学	2,132	41,391		5,155	11,836	305	1,007		450	1,488	1,487	183	1,670				
修紅短期大学	180	0	0	180	1,072	57	0	0	9	100	0	11	11				
岩手看護短大	251			561	907	97			136	254	39	3	42				
仙台大学	2,430			2,577	4,503	174			100	300		0					
仙台白百合女子大	1,145			2,500	4,985	103			193	592	425	13	438				
石巻専修大学	1,853			1,851	3,192	159			384	1,057		118	118				
東北学院大学中央	12,143			7,520	14,688	1,099			1,344	2,814	3,687	418	4,105				
東北学院大学多賀城	12,143			3,124	6,114	1,099			579	1,674	772	150	922				
東北学院大学大泉	12,143			10,213	18,622	1,099			948	1,860	3,822	84	3,906				
東北工業大学	3,210			4,521	8,579	264			709	1,571	195	11	206				
東北福祉大学	5,471			14,850	27,752	1,414			757	17,313	484	675	1,159				
東北文化学園	2,132			4,883	6,720	297			620	1,296	3,633	53	3,686				
東北薬科大学	2,095			2,302	4,037	197			395	1,019	3,162	98	3,260				
宮城学院女大	3,278			12,287	24,359	516			940	2,817	1,402	856	2,258				
尚絅学院大学	1,829			4,759	9,957	130			720	2,096	209	209					
聖和学園短大	558	6,788		939	1,526	144	1,294		172	365	1,285	2	1,287				
仙台青葉学院短大	416			2,357	4,157	51			146	362	625	24	649				
東北生活文化大学	569			843	1,852	122			399	1,005	210	2	212				
ノースアジア大学	833			853	1,526	117			379	1,438	143	11	154				
東北芸工大学	2,238			12,247	28,315	206			1,032	2,304	9,496	332	9,828				
羽陽学園短大	291			1,892	4,452	66			96	332		14	14				
東北文教大学同短大	795	34,526		3,820	7,584	226			289	1,053	144	6	150				
東北公益分科大学	654				6,855	86				1,671	365	277	642				
いわき明星大学	1,730			6,802	13,054	358			690	1,576	1,241	192	1,433				
奥羽大学	1,128	24,249		1,648	2,731	475	10,393		1,038	1,947	5,352	272	5,624				
郡山女子大学	903	5,681			1,509	230	1,258			1,141	260	220	480				
東日本国際大	917	8,703		1,064	1,787	179	1,189		314	665	22	27	49				
日本大工学部	5,104	54,720		3,549	8,118	432	1,864		698	7,114	323	469	792				
桜の聖母短大	375	19,287		2,314	4,760	73	1,926		531	1,189		3	3				
福島学院大学	1,187			2,404	4,209	130			219	375	106	7	113				

(3) 雑誌・新聞所蔵及び受付種類・製本冊数

(平成 23 年度分)

図書館名	雑誌・新聞所蔵			受付種類数						雑誌・新聞 購入費	製本費	
				受付数			内購入分					
	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	冊数	金額	
弘前大学	種	種	種	種	種	種	種	種	種	千円	冊数	千円
(〃医学部分館)	14,571	3,919	18,490	2,352	270	2,622	500	230	730	23,238	147	263
岩手大学	4,106	2,501	6,607	659	260	919	103	189	292	30,804	978	1,815
東北大学	8,834	2,141	10,975	6,219	332	6,551	360	137	497	10,147	858	1,599
〃医学分館	25,664	16,957	42,621	4,938	2,630	7,568	1,170	1,691	2,861	681,211	5,620	10,555
〃北青葉山分館	4,808	8,701	13,509	1,217	1,457	2,674	372	1,259	1,631	13,133	6,476	13,566
〃工学分館	2,213	7,111	9,324	790	1,327	2,117	91	361	452	1,634	1,410	2,682
〃農学分館	3,804	4,235	8,039	840	650	1,490	199	384	583	4,857	1,796	3,004
宮城教育大学	3,818	1,878	5,696	961	297	1,258	121	99	220	2,134	707	1,494
秋田大学	3,107	722	3,829	687	94	781	419	92	511	9,526	178	395
〃医学部分館	6,619	2,626	9,245	1,071	170	1,241	268	146	414	11,602	605	1,103
山形大学小白川図書館	1,617	1,662	3,279	584	129	713	142	104	246	10,586	520	961
〃医学部図書室	9,876	3,145	13,021	1,814	228	2,042	224	161	385	10,209	52	87
〃工学部図書室	3,239	2,234	5,473	682	420	1,102	229	326	555	42,479		
〃農学部図書室	1,940	1,346	3,286	393	40	433	69	22	91	2,727	248	434
福島大学	10,923	3,065	13,988	3,690	325	4,015	629	190	819	25,074	1,707	3,116
青森公立大学	210	132	342	210	132	342	185	132	317	18,740	400	787
青森県保健大	928	263	1,191	546	111	657	240	104	344	16,743	100	200
岩手県立大学	519	367	886	479	367	846	451	366	817	23,045	806	1,574
宮城大学太白キャンパス	2,310	650	2,960	780	81	861	258	67	325	10,354		
〃太白キャンパス	1,278	176	1,454	585	75	660	127	55	182	6,860		
秋田県立大学	2,933	1,025	3,958	793	329	1,122	430	282	712	20,482	1,114	2,170
秋田公立美術大学	96	66	162	65	30	95	63	30	93	1,678		
国際教養大学	88	95	183	88	95	183	73	87	160	3,709	198	384
山形保健医大	1,018	212	1,230	581	151	732	71	81	152	6,557		
米沢女子短大	190	21	211	108	16	124	91	16	107	2,523	41	84
会津大学	528	831	1,359	269	128	397	84	128	212	32,115		
会津大学短大	96	88	184	92	18	110	92	18	110	2,018		
福島県立医大	4,459	2,965	7,424	858	210	1,068	253	142	395	58,403	1,182	2,224
青森大学	139	7	146	139	7	146	118	7	125	4,517		
東北女子大学	314	21	335	69	19	88	69	19	88	2,953	58	163
八戸学院大学	853	113	996	835	76	911	195	65	260	6,530		
八戸工業大学	857	611	1,468	157	23	180	157	23	180	5,086	250	472
弘前学院大学	744	47	791	99	44	143	99	44	143	3,433	6	11
青森中央学院大学	219	74	293	219	74	293	212	74	286	6,755		
岩手医科大学	5,447	2,770	8,217	1,457	194	1,651	368	98	466	9,950	1,183	2,335
富士大学	2,808	229	3,037	1,201	48	1,249	132	48	180	7,341	0	0
盛岡大学	2,887	243	3,130	986	56	1,042	165	56	221	5,849	10	19
修紅短期大学	53	0	53	53	0	53	37	0	37	436	0	0
岩手看護短大	190	52	242	54	6	60	51	6	57	1,199	81	170
仙台大学	1,303	160	1,463	136	59	195	136	59	195	6,028	150	300
仙台百合女子大	314	99	413	195	84	279	183	84	267	8,264		
石巻専修大学	1,237	777	2,014	262	117	379	230	115	345	58,528	834	1,607
東北学院大学中央	7,579	2,074	9,653	1,739	340	2,079	350	318	668	24,977		
東北学院大学多賀城	1,782	1,328	3,110	699	207	906	276	177	453	28,615		
東北学院大学大泉	2,753	936	3,689	754	295	1,049	349	283	632	32,774		
東北工业大学	1,208	679	1,887	703	297	1,000	235	277	512	23,721	533	13,452
東北福祉大学	4,279	781	5,060	2,130	418	2,548	499	372	871	40,550		
東北文化学園	1,095	137	1,232	511	34	545	146	28	174	4,854		992
東北薬科大学	529	453	982	200	86	286	47	73	120	1,757	377	792
宮城学院女大	8,077	870	8,947	1,189	201	1,390	373	200	573	8,258		315
尚絅学院大学	375	82	457	368	78	446	251	77	328	6,237	75	150
聖和学園短大	853	113	966	834	76	910	194	194	772	15	32	
仙台青葉学院短大	81	15	96	75	9	84	55	9	64	2,038	39	81
東北生活文化大学	180	46	226	85	11	96	80	11	91	2,159		
ノースアジア大学	2,236	301	2,537	1,058	67	1,125	124	67	191	6,106	146	292
東北芸工大学	301	129	430	144	52	196	133	52	185	3,840		
羽陽学園短大	111	12	123	74	5	79	71	5	76	982	88	189
東北文教大学・同短大	138	11	149	77	9	86	77	9	86	1,514		
東北公益分科大学	134	30	164	107	12	119	69	10	79	1,409		
いわき明星大学	814	488	1,302	300	138	438	288	138	426	11,394	273	467
奥羽大学	1,156	1,254	2,410	537	195	732	198	153	351	49,888	813	1,463
郡山女子大学	988	91	1,079	155	13	168	145	12	157	3,235	234	466
東日本国際大	230	93	323	276	26	302	107	25	132	2,486	246	498
日本大工学部	1,605	1,350	2,955	270	132	402	246	132	378	24,185	821	1,626
桜の聖母短大	124	34	158	74	14	88	70	13	83	1,571	58	117
福島学院大学	80	14	94	80	14	94	78	14	92	3,605	15	35

協議会総会当番地区・当番大学

回	年	当番地区	当 番 大 学	回	年	当番地区	当 番 大 学
	昭和			41	61	福 島	島 県立 医科 大学
1	22	宮 城	東 北 大 学	42	62	秋 田	秋 田 大 学
2	23	"	仙 台 工業 専門 学校	43	63	東 北	東 北 学 院 大 学
3	24	"	東 北 学 院 大 学		平成		
4	24	"	東 北 大 学	44	元	山 形	大 学
5	25	岩 山	岩 手 大 学	45	2	青 森	大 学
6	26	山 青	福 岩 大 学	46	3	宮 岩	修 大 学
7	27	福 福	福 岩 大 学	47	4	富 石	前 卷 大 学
8	28	秋 秋	秋 宫 大 学	48	5	郡 山	士 女 大 学
9	29	宮 田	宮 田 大 学	49	6	東 秋	藥 濟 大 学
10	30	城 城	城 城 女子 大 学	50	7	秋 田	經 法 大 学
11	31	手 岩	手 岩 医 科 大 学	51	8	山 东	形 業 大 学
12	32	山 山	山 山 形 大 学	52	9	青 森	北 公 大 学
13	33	秋 秋	秋 秋 田 大 学	53	10	盛 岩	森 盛岡 大 学
14	34	青 青	青 青 岩 大 学	54	11	岡 岩	岡 大 学
15	35	福 福	福 福 岩 大 学	55	12	宮 岩	宮 城 大 学
16	36	宮 岩	宮 岩 北 手 大 学	56	13	福 福	福 羽 大 学
17	37	岩 岩	岩 岩 手 大 学	57	14	秋 宫	秋 県 大 学
18	38	福 福	福 福 岩 大 学	58	15	宮 山	福 福 大 学
19	39	宮 田	宮 田 大 学	59	16	山 青	青 森 大 学
20	40	秋 田	秋 田 大 学	60	17	宮 岩	森 大 学
21	41	山 山	山 山 形 大 学	61	18	岩 岩	城 明 大 学
22	42	東 東	東 東 北 薬 科 大 学	62	19	福 福	福 大 学
23	43	弘 弘	弘 弘 前 州 大 学	63	20	宮 宮	宮 百 大 学
24	44	奥 奥	奥 奥 工 業 大 学	64	21	青 青	青 百 大 学
25	45	東 東	東 東 北 工 業 大 学	65	22	宮 宮	宮 教 大 学
26	46	福 福	福 福 岩 県立 医 科 大 学	66	23	福 福	福 形 大 学
27	47	秋 秋	秋 秋 田 経 済 大 学	67	24	宮 宮	宮 北 大 学
28	48	宮 田	宮 田 城 教 育 大 学	68	25	山 青	山 戸 大 学
29	49	山 山	山 山 形 前 北 大 学	69	26	岩 岩	岩 星 大 学
30	50	青 青	青 青 岩 手 大 学	70	27	宮 宮	宮 養 大 学
31	51	宮 田	宮 田 北 手 大 学	71	28	福 福	福 大 学
32	52	岩 岩	岩 岩 手 大 学	72	29	秋 秋	秋 大 学
33	53	福 福	福 福 手 岩 大 学	73	30	宮 宮	宮 大 学
34	54	宮 田	宮 田 北 福 祉 大 学	74	31	山 山	
35	55	秋 秋	秋 秋 田 大 学				
36	56	山 山	山 山 形 大 学				
37	57	宮 田	宮 田 城 学 院 女子 大 学				
38	58	青 青	青 青 森 手 医 科 大 学				
39	59	岩 岩	岩 岩 手 医 科 大 学				
40	60	宮 宮	宮 宮 北 大 学				

※ 第 64 回総会において第 65 回から 74 回までの当番地区が確認された。

東北地区大学図書館協議会役員館一覧【第46回（平成3）～第66回（平成23）】

	常任幹事館	幹事館 (国立)	幹事館 (公立)	幹事館 (私立)	会計監査館 (公立)	会計監査館 (私立)	審査委員館 (国立)	審査委員館 (公立)	第62回総会から 論文審査館(平成19年8月まで)
第46回総会 (H3.9～H5.8)	東北大学 東北大学 岩手大学	東北大学 福島県立社会津短期大学 宮城学院女子大学 石巻専修大学	宮城学院女子大学 宮城県農業短期大学	東北福祉大学 宮城県農業短期大学	東北大学 岩手大学	東北大学 岩手大学	福島県立医科大学 山形県立米沢女子短期大学	日本大学工学部	東北工業大学 日本大学工学部
第48回総会 (H5.9～H7.8)	東北大学 東北大学 宮城教育大学	東北大学 会津大学短期大学部 会津大学	東北福祉大学 いわき明星大学	東北学院大学 宮城県農業短期大学	東北大学 秋田大学	東北大学 秋田大学	福島県立医科大学 秋田県立農業短期大学	八戸工業大学 秋田経営法科大学	八戸工業大学 秋田経営法科大学
第50回総会 (H7.9～H9.8)	東北大学 東北大学 秋田大学	東北大学 会津大学	東北薬科大学 富士大学	宮城県農業短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 秋田大学	福島県立医科大学 岩手県立宮古短期大学	仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 郡山女子大学
第52回総会 (H9.9～H11.8)	東北大学 東北大学 福島大学	東北大学 会津大学	八戸工業大学 東北工業大学	宮城県農業短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 福島大学	福島県立医科大学 岩手県立宮古短期大学	仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 郡山女子大学
第54回総会 (H11.9～H13.8)	東北大学 東北大学 山形大学	東北大学 福島県立医科大学	秋田経済法科大学 東北文化園大学	山形県立米沢女子短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 山形大学	秋田県立大学 秋田公立美術工芸短期大学	仙台大学 盛岡大学	仙台大学 盛岡大学
第56回総会 (H13.9～H15.8)	東北大学 東北大学 弘前大学	東北大学 弘前大学	山形県立保健医療大学 仙台百合女子大学	秋田県立大学 秋田経済法科大学	東北福祉大学	東北大学 弘前大学	宮城県農業短期大学 秋田公立美術工芸短期大学	八戸大学 東北工業大学	八戸大学 東北工業大学
第58回総会 (H15.9～H17.8)	東北大学 東北大学 岩手大学	東北大学 岩手大学	秋田県立大学 いわき明星大学	宮城学院女子大学 仙台百合女子大学	宮城大学 仙台百合女子大学	東北大学 岩手大学	青森県立保健大学 岩手県立大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学
第60回総会 (H17.9～H19.8)	東北大学 東北大学 宮城教育大学	東北大学 岩手医科大学	官城大学 岩手医科大学	岩手県立大学	東北福祉大学	東北大学 秋田大学	青森県立保健大学 青森公立大学	仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 郡山女子大学
第62回総会 (H19.9～H21.8)	東北大学 東北大学 秋田大学	東北大学 岩手県立大学	青森県立保健大学 仙台大学	青森県立保健大学 仙台大学	東北学院大学 東北大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学 青森公立大学	東北福祉大学 郡山女子大学	東北福祉大学 郡山女子大学
第64回総会 (H21.9～H23.8)	東北大学 東北大学 山形大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学 盛岡大学	福島県立医科大学 仙台大学	石巻専修大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学 青森公立大学	仙台大学 盛岡大学	仙台大学 盛岡大学
第66回総会 (H23.9～H25.8)	東北大学 東北大学 山形大学	東北大学 福島県立医科大学・東北文教大学短期大学部	東北薬科大学 東北文教大学・東北文教大学短期大学部	山形県立保健医療大学 岩手医科大学	東北大学 山形大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学 福島県立医科大学	東北薬科大学 東北文教大学・東北文教大学短期大学部	東北薬科大学 東北文教大学・東北文教大学短期大学部

東北地区大学図書館協議会大学教育部会委員名簿

(任期 24. 10. 19 ~ 25. 8. 31)

部会名	氏 名	所属大学等	備考
国立部会	柳 原 幸 子	東北大学附属図書館	
	寺 崎 宏 美	山形大学医学部図書館	
公立部会	秋 葉 さおり	福島県立医科大学附属学術情報センター図書館	
私立部会	上 條 尚 樹	盛岡大学図書館	
	佐 藤 恵	東北学院大学中央図書館	
	八 卷 千 穂	東北福祉大学図書館	

東北地区大学図書館協議会会則

昭和22年5月30日制定

昭和24年12月2日制定（全改）

改正：昭和28年11月13日（第1条（名称）改正）、昭和29年6月11日（第7条（会費）、第8条（票決権）改正）、昭和31年10月5日（第6条（監査館）追加）、昭和33年10月7日（第5条（顧問）追加）、昭和34年8月4日（第9条（会費）改正）、昭和39年7月9日（第9条（会費）改正・同第2項（会計年度）制定）、昭和43年5月10日（第9条（会費）改正）、昭和46年5月13日（第9条（会費）改正）、昭和50年5月16日（第2条（加盟組織の追加）改正）、昭和53年10月19日（第9条（会費・会計年度）改正）、昭和56年10月22日（第6条（幹事館を追加）改正）、昭和61年9月25日（第9条（会費）改正）、平成3年9月26日（第9条（会費）改正）、平成6年9月21日（第9条（会費）改正）

第1条 本会は東北地区大学図書館協議会と称する。

第2条 本会は東北地区における大学および国立工業高等専門学校に附属する図書館をもって組織し、図書館の施設、運営、管理などの進歩改善について、相互に連携協力することを目的とする。

第3条 本会は毎年1回、加盟館輪番により総会を開催する。但し必要に応じ、加盟館過半数の賛成を得て、臨時総会を開くことができる。

第4条 本会の目的を達成するため、隨時図書館に関する講習会の開催、その他必要と認める事業を行うものとする。

第5条 本会に顧問を置くことができる。

顧問はかつて加盟館に在籍し、本会において特に顕著なる功績のあった者の中から、総会においてこれを推薦する。

顧問は総会に出席し、また隨時意見を述べることができる。

第6条 本会に常任幹事館、及び幹事館若干を置く。

1. 常任幹事館、幹事館は幹事会を組織し、協議会の運営にあたる。
2. 幹事会は毎年少なくとも1回招集するものとする。
3. 常任幹事館は協議会の会務を処理し、幹事会を招集する。
4. 常任幹事館、幹事館は総会において互選によってこれを定め、その任期を2ヶ年とする。但し、重任することができる。

第7条 本会の会計事務を監査するため若干の監査館を置く。監査館は総会において互選によってこれを定め、その任期を2ヶ年とする。但し、重任することができる。

第8条 本会の事務所は、常任幹事館内に置く。

第9条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。会費は年額15,000円とする。

2 本会の会計年度は毎年9月1日にはじまり、翌年8月31日に終わる。

第10条 総会の票決権は1館につき1票とし、議決は出席館過半数の賛成を要する。

第11条 本会則は総会の議決によらなければこれを変更することができない。

附 則

本会則は昭和24年12月2日から施行する。

（略）

附 則（昭和53年10月19日第33回総会）

この改正による会則は、昭和53年10月19日から施行し、昭和54年9月1日から適用する。

附 則（昭和56年10月22日第36回総会）

この改正による会則は、昭和56年10月24日から施行し、昭和56年10月24日から適用する。

附 則（昭和61年9月25日第41回総会）

この改正による会則は昭和61年9月27日から施行する。

附 則（平成3年9月26日第46回総会）

この改正による会則は平成3年9月26日から施行する。

附則（平成6年9月21日第49回総会）
この会則は、平成6年9月21日から施行する。

○第38回東北地区大学図書館協議会総会議事録（抄）

昭和58年9月29日～30日（会場：弘前大学）

全体会議（第1日）

6. 役員の改選について

常任幹事館から、役員の任期（2年）が今年度で満了となるため、次期役員館選出について提案がなされた。これは、幹事館が国立2館、公立1館、私立2館の計5館で、うち1館が常任幹事館となる。会計監査館は公立1館、私立1館で、学術奨励論文審査委員館は、国・公・私立各2館の計6館となる。以上について各部会で検討し、選任の上全体会議で取りまとめることにした。又、会計監査館については、常任幹事館を決め、それに近い大学を推薦願いたいとの提案があり承認された。

東北地区大学図書館協議会表彰規程

平成19年9月20日制定

（趣旨）

第1条 この規程は、東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）会則第4条に基づく事業として加盟館の職員を表彰するため、必要な事項を定めるものとする。

（表彰の区分）

第2条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

- (1) 図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者
- (2) 協議会の運営、発展のために功績顕著であった者

（応募の方法）

第3条 表彰を受けようとする者は、所属する加盟館の長に応募の申請を行う。加盟館の長は、応募の申請に基づき常任幹事館へ推薦を行う。

（審査委員会）

第4条 前条の推薦があった時は、審査委員会が審査を行う。

- 2 審査委員会は、常任幹事館及び加盟館の互選による審査委員館若干をもって組織する。
- 3 審査委員会に主査館を置き、常任幹事館をもって充てる。
- 4 審査委員会は、必要に応じ学識経験者の意見を参考とすることができます。

（表彰者の決定）

第5条 幹事会は、審査委員会の審査に基づき、表彰者を決定する。

（表彰状の授与等）

第6条 表彰に際しては、別紙様式による表彰状に併せて記念品を贈呈することができる。

- 2 表彰は、協議会の総会において行う。

（取扱要項への委任）

第7条 この規程に定めるものほか、表彰について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年9月20日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程（昭和40年6月2日制定）は、廃止する。
- 3 東北地区大学図書館協議会表彰規程（昭和38年6月30日制定）は、廃止する。

東北地区大学図書館協議会表彰規程取扱要項

平成19年9月20日制定

第1 この取扱要項は、東北地区大学図書館協議会表彰規程（以下「規程」という。）第7条の規定に基づき表彰について必要な事項を定めるものである。

第2 規程第2条第1号の「図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者」とは次に掲げる者をいう。

- (1) 図書館活動における業績 業務処理の改善や業務遂行上の成果等で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動において先導的な意義を有するもの。
- (2) 図書館情報学の研究、調査等の業績 図書館情報学に関する著作で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動に対して啓発性を有するもの。
- (3) 前2号の業績は、個人以外にグループも対象とする。

第3 規程第2条第2号の「協議会の運営、発展のために功績顕著であった者」とは、加盟館に5年以上勤務した者のうち、規定文言の主旨に合致するものを対象とする。

第4 規程第3条の推薦の期日は、毎年5月末日までとする。

2 推薦は、別紙文書により行う。

3 応募については、自薦、他薦を問わないものとする。

第5 主査館は、推薦調書（各写）を審査委員館に送付し、審査を依頼するものとする。

第6 審査は、会議又はその他の方法による。

第7 推荐調書を提出した審査委員館は、審査には加わらない。

第8 常任幹事館から推薦調書の提出があった場合は、常任幹事館を除く審査委員館の互選によって主査館を決定する。

第9 審査委員館は、当分の間、会則第6条に規定する幹事館をもって充てる。

第10 審査委員館は、審査結果を文書にて、その年の7月末日までに常任幹事館に報告する。

第11 常任幹事館は、審査委員会の結果を総会に報告するものとする。

第12 受賞者等については、その受賞事由、業績等の概要等を協議会誌に公表するものとする。

附 則

1 この取扱要項は、平成19年9月20日から施行する。

2 学術奨励賞候補論文等審査取扱要項（平成2年9月20日制定）は、廃止する。

表彰状様式1（第2条第1号該当者）

表 彰 状 殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります
よってここにそのすぐれた功績を讃え記念品を贈り表彰いたします

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会

表彰状様式2（第2条第2号該当者）

表 彰 状 殿

あなたは本協議会の運営に尽力されるとともに大学図書館の発展に多大な貢献をされました
よってここにそのすぐれた功績を讃え記念品を贈り表彰いたします

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会

(別紙)

文書番号

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会常任幹事館

○ ○ 大学附属図書館長 殿

○ ○ 大学(附属)図書館長

○ ○ ○ ○ 公印

表彰者の推薦について

下記の者を、東北地区大学図書館協議会表彰規程第2条〇号に基づく表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。

なお、別紙のとおり推薦調書を提出します。

記

○ ○ ○ ○

別紙(第2条第1号該当者)

表彰者推薦調書

○ ○ 大学(附属)図書館

職名	氏名	生年月日	昭和 平成	年 月 日
推薦理由				
業績等	研究のテーマ 又は調査事項			
	発表集会等名			
	発表年月日			
	掲載誌名及び巻号			
	発行年月日			
	発行機関			
	発表者又は著者名			
当該業績等に係る他組織等からの表彰の有無 (有の場合当該組織名)				
図書館業務歴				

備考

- 1) グループの業績等で推薦する場合は、氏名の欄は代表者名を記入し、推薦理由に当該グループ名を記載すること。
- 2) 業績等の記入欄については、該当する個所について記載すること。
- 3) その他参考となる資料を添付すること。

別紙（第2条第2号該当者）

表彰者推薦調書

○○大学（附属）図書館

職名		氏名		生年月日	昭和 平成	年月日
推薦理由						
履歴事項						
年月日	勤務内容等（大学等名及び業務）					
～						
～						
～						
～						
～						
～						
～						
～						
加盟館勤務年数計○○年						

備考

- 1) 勤務期間の計算は、暦日数によるものとし、日を月に換算する時は30日をもって1月とする。
- 2) 休職の期間（業務上の傷病の期間は除く）及び懲戒処分により停職された期間は、勤務期間から除算する。
- 3) その他参考となる資料があれば、添付すること。

東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項

平成 20 年 9 月 18 日制定

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に研修部会（以下「部会」という。）を設置し、具体的な研修実施のための企画立案を行い、協議会加盟館員の人材育成と交流の機会を図る。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 協議会が実施する研修の企画
- (2) 研修会会場館（地区）との協力による集合型研修の実施
- (3) 研修結果・成果の協議会ウェブサイト等を利用した公開

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 国立大学部会から推薦された者 | 2名 |
| (2) 公立大学部会から推薦された者 | 1名 |
| (3) 私立大学部会から推薦された者 | 2名 |

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とする。ただし、再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成 20 年 9 月 18 日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会研修検討WGは、廃止する。

東北地区大学図書館協議会ウェブサイト運用部会設置要項

平成20年9月18日制定

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）にウェブサイト運用部会（以下「部会」という。）を設置し、協議会の活動を広く公開するとともに加盟館及び図書館関連機関に有用な情報を提供する。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 協議会ウェブサイトの運用、管理、更新
- (2) 新規掲載コンテンツの企画

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 国立大学部会から推薦された者 | 2名 |
| (2) 公立大学部会から推薦された者 | 1名 |
| (3) 私立大学部会から推薦された者 | 2名 |

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とする。ただし再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は、常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成20年9月18日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会ウェブサイト開設WGは、廃止する。

記念事業基金積立要綱

昭和57年10月14日制定

当協議会が記念事業を将来行うに必要な基金のために、年度予算に一定積立として計上し、積立てる。

1. 年度の積立金額は、その年度会費総額の10%を限度とする。
2. 期間は昭和57年度からとし、総会の議決により記念事業を行う予定の年度までとする。
3. 積立方法は、金融機関に口座を設け積立てる。
4. その支出については、総会の議決を経なければならない。
5. その会計事務は監査をうけ、総会に報告する。

東北地区大学図書館間相互利用手続き申し合わせ

平成14年9月20日 第57回東北
地区大学図書館協議会総会決定

第56回総会の協議結果を尊重し、東北地区大学図書館協議会に加盟する各大学図書館は、「国公私立大学図書館間相互貸借に関する協定」の目的にある「図書館間の相互貸借の円滑化を図り、もってわが国の学術研究・教育の進展に寄与すること。」の精神を生かし、以下を目標として努力する。

記

1. 来館利用の際の持参書類については、従来必要とした、「利用依頼書・閲覧許可願」等に代り、所属大学発行の「身分証明書」、「学生証」等の本人確認が可能なものの提示により利用を可能とすること。
2. 各大学それぞれの事情があり（例：女子大学の場合における男子学生の入構等）、また、確実に資料を入手するためにも事前連絡は必要と思われるが、急な来館についても、受入館はできるだけのサービスを行うこと。
3. 相互利用を円滑に行うため、各館は所属する研究者、学生に対して相互利用手続きに関する十分な利用者教育を行うこと。
4. 相互利用を円滑に行うため、各館は「図書館間相互協力便覧」に利用上の留意事項を明記するとともに、各館のホームページ上の利用案内においても明記すること。

東北地区国立大学図書館防災連絡網設置要項

平成12年4月20日 第31回国立
大学図書館東北地区協議会決定
平成16年4月22日 第35回東北
地区国立大学図書館協会改正

(目的)

第1条 国立大学図書館協会東北地区協会会則（以下「会則」という。）第2条に定める会員（以下「会員」という。）において地震等による激甚な災害が発生した際、会員における図書館業務の維持に関し、会員間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

(地区防災連絡網)

第2条 地区防災連絡網は会員により構成し、会員間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、国立大学図書館協会の東北地区理事館を充て、地区連絡館が被災した場合は、東北地区国立大学図書館協会総会の当番館がこれに代わるものとする。

(地区防災連絡館)

第3条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱等をさけるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。但し、会員における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等会員間に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び会員の防災意識を高めるため、原則として年1回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、必要がある場合は、国立大学図書館協会の他地区防災連絡館等との連絡にあたるものとする。

5 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会の公立大学及び私立大学の代表との連絡窓口になるものとする。

(会員の連絡窓口の設置)

第4条 会員に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、会則第5条に定める会議において定める。

附 則

この要項は、平成12年4月20日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、平成16年4月22日から施行する。
- 2 第2条2項の規定において、東北地区理事館と東北地区国立大学図書館協会総会の当番館が重複した場合、地区防災連絡館は会則第5条に定める総会において決定する。

東北地区大学図書館協議会公立部会防災連絡網設置要項

平成 12 年 9 月 20 日

東北地区大学図書館協議会（公立部会）

（目的）

第1条 東北地区大学図書館協議会公立部会加盟館（以下「公立部会加盟館」という。）において地震等による激甚な災害により被災した際、公立部会加盟館における図書館業務の維持に関し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

（地区防災連絡網）

第2条 地区防災連絡網は、公立部会加盟館により構成し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会公立部会幹事館（以下「公立部会幹事館」という。）を充て、公立部会幹事館が被災した場合は、公立部会会計監査館がこれに代わるものとする。

（被災館）

第3条 地震等による激甚な災害に被災した公立部会加盟館（以下「被災館」という。）は、被災状況を地区防災連絡館へ連絡するものとする。

（地区防災連絡館）

第4条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱を避けるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。ただし、個々の公立部会加盟館における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等公立部会加盟館に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び公立部会加盟館の防災意識を高めるため、原則として年1回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会加盟の国立部会及び私立部会の代表との連絡窓口になるものとする。

（会員の連絡窓口の設置）

第5条 公立部会加盟館に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

（雑則）

第6条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、東北地区大学図書館協議会公立部会総会において定めるものとする。

附 則

この要項は、平成 12 年 9 月 20 日から施行する。

東北地区大学図書館協議会大学教育部会設置要項

平成 24 年 10 月 19 日制定

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に大学教育部会（以下「部会」という。）を設置し、大学図書館に関わる教職員協働型の大学教育のあり方について検討するとともに、協議会としての事業化の企画立案を行い、加盟大学における「学生の主体的学び」を育成するための取り組みを強化する。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項について活動する。

- 一 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するために、加盟大学における知見を集約化し、共有する。
- 二 大学教育そのものに関する図書館員の知見を深めるための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。
- 三 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。

(組織)

第3条 部会は、原則として次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 国立大学部会の委員 2人
- 二 公立大学部会の委員 1人
- 三 私立大学部会の委員 3人

2 部会に主査を置き、前項に掲げる委員の互選によって定める。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は、常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成24年10月19日から施行する。
- 2 この要項の施行後最初に委嘱される委員の任期は、第5条本文の規定にかかわらず、平成25年8月31日までとする。

加盟館職員名簿

(平成25年4月1日現在)

【弘前大学附属図書館】

電話番号 (0172) - 39 - 3155

FAX番号 (0172) - 39 - 3171

E-mail jm3155@cc.hirosaki-u.ac.jp

館長 (併)教授 長谷川 成一
事務責任者 研究推進部長 山崎 淳一郎
学術情報課長 工藤 弘文

【岩手大学情報メディアセンター図書館】

電話番号 (019) - 621 - 6082

FAX番号 (019) - 621 - 6088

E-mail lsomu@iwate-u.ac.jp

情報メディアセンター長
(併)副学長 (評価・情報統括管理担当)
西崎 滋

事務責任者 情報メディア課長 三浦 俊弘

【東北大学附属図書館】

電話番号 (022) - 795 - 5911

FAX番号 (022) - 795 - 5909

E-mail lib-syom@bureau.tohoku.ac.jp

館長 理事 植木 俊哉
副館長 (併)教授 柳澤 輝行
事務責任者 事務部長 井上 修

【東北大学附属図書館医学分館】

電話番号 (022) - 717 - 7973

FAX番号 (022) - 717 - 7982

E-mail lib-med@bureau.tohoku.ac.jp

分館長 (併)教授 柴原 茂樹
事務責任者 医学分館事務長 小澤 浩

【東北大学附属図書館北青葉山分館】

電話番号 (022) - 795 - 6372

FAX番号 (022) - 795 - 3753

E-mail klib-k@library.tohoku.ac.jp

分館長 (併)教授 河野 裕彦
事務責任者 管理係長 田中 朱美

【東北大学附属図書館工学分館】

電話番号 (022) - 795 - 5892

FAX番号 (022) - 795 - 7120

E-mail elib-k@library.tohoku.ac.jp

分館長 (併)教授 進藤 裕英
事務責任者 図書館専門員 日出 弘

【東北大学附属図書館農学分館】

電話番号 (022) - 717 - 8882

FAX番号 (022) - 274 - 2127

E-mail alib@library.tohoku.ac.jp

分館長 (併)教授 西尾 剛
事務責任者 図書係長 松元 義正

【宮城教育大学附属図書館】

電話番号 (022) - 214 - 3348

FAX番号 (022) - 214 - 3351

E-mail toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

館長 (併)教授 遠藤 仁
事務責任者 学術情報課長 佐藤 初美

【秋田大学附属図書館】

電話番号 (018) - 889 - 2273

FAX番号 (018) - 832 - 4917

E-mail soumu@lib.akita-u.ac.jp

館長 (併)教授 清水 徹男
事務責任者 図書・情報推進課長 大沼 忠弘

【秋田大学附属図書館医学部分館】

電話番号 (018) - 884 - 6052

FAX番号 (018) - 884 - 6252

E-mail ibun@lib.akita-u.ac.jp

分館長 (併)教授 田中 正光
事務責任者 主査 菅野 久美子

【山形大学附属図書館】

電話番号 (023) - 628 - 4840

FAX番号 (023) - 628 - 4849

E-mail k-tojyoki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図書担当副学長 理事・副学長 安田 弘法

事務責任者 渉外部渉外課長 矢口 清

【山形大学小白川図書館】

電話番号 (023) - 628 - 4904

FAX番号 (023) - 628 - 4915

E-mail jkasomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

館長 (併)教授 新宮 学

事務責任者 図書課長 荒木 隆幸

【山形大学医学部図書館】

電話番号 (023) - 628 - 5054

FAX番号 (023) - 628 - 5059

E-mail itosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

館長 (併)教授 早坂 清

事務責任者 係長 小野 明子

【山形大学工学部図書館】

電話番号 (0238) - 26 - 3019

FAX番号 (0238) - 26 - 3408

E-mail koutosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図書館長 (併)教授 米竹 孝一郎

事務責任者 総務課長 奥山 利弘

【山形大学農学部図書館】

電話番号 (0235) - 28 - 2810

FAX番号 (0235) - 28 - 2815

E-mail notosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

館長(センター長) (併)教授 菊間 満

事務責任者 係長 青木 幸子

【福島大学附属図書館】

電話番号 (024) - 548 - 8082

FAX番号 (024) - 548 - 2377

E-mail k-soumu@lib.fukushima-u.ac.jp

館長(副学長) (併)教授 高橋 隆行

事務責任者 学術情報課長(参考) 武内由美

【青森公立大学図書館】

電話番号 (017) - 764 - 1551

FAX番号 (017) - 764 - 1591

E-mail lib@bb.nebuta.ac.jp

館長 (併)教授 藤井 一弘

事務責任者 主査 大久保 寛樹

事務責任者 図書館専門員 小田 真邦子

【青森県立保健大学附属図書館】

電話番号 (017) - 765 - 2011

FAX番号 (017) - 765 - 2012

E-mail library@auhw.ac.jp

館長 (併)教授 入江 良平

事務責任者 総務課総括担当 (図書課兼務)

濫谷 文彦

【岩手県立大学メディアセンター】

電話番号 (019) - 694 - 2070

FAX番号 (019) - 694 - 2071

E-mail ipu-library@ml.iwate-pu.ac.jp

メディアセンター長 (併)副学長 斎藤 俊明

宮古短期大学部図書館長 (併)教 授 菊池 幸吉

事務責任者 教育研究支援室長 鈴木 清也

【宮城大学総合情報センター】

電話番号 (022) - 377 - 8313

FAX番号 (022) - 377 - 8383

E-mail tosho@myu.ac.jp

(大和キャンパス図書館)

総合情報センター長 (併)教 授 山田 嘉明

事務責任者 事務部学務課

教務第1グループリーダー 狩野 靖士

(太白キャンパス図書館)

電話番号 (022) 245 - 1046

FAX番号 (022) 245 - 2214

E-mail f-tosh@myu.ac.jp

総合情報センター長 (併)教 授 山田 嘉明

事務責任者 事務部学務課

教務第2グループリーダー 首藤 良幸

【秋田県立大学図書・情報センター】

電話番号 (018) - 872 - 1561

FAX番号 (018) - 872 - 1674

E-mail a_library@akita-pu.ac.jp

図書・情報センター長 理 事 小林淳一
事務責任者 事務局次長 長谷部功**【秋田公立美術大学附属図書館】**

電話番号 (018) - 888 - 8106

FAX番号 (018) - 888 - 8107

E-mail library01@akibi.ac.jp

館 長 (併)教授 島屋純晴
事務責任者(兼)事務局総務課長補佐 石井宏幸**【国際教養大学図書館】**

電話番号 (018) - 886 - 5907

FAX番号 (018) - 886 - 5912

E-mail lib1@aiu.ac.jp

館 長 (併)教授 勝又美智雄
事務責任者 教務課課長 須田幸子**【山形県立保健医療大学附属図書館】**

電話番号 (023) - 686 - 6671

FAX番号 (023) - 686 - 6679

E-mail m.hori@yachts.ac.jp

図書館長 理 事 伊橋光二
事務責任者 図書・調整主査 保利真澄**【山形県立米沢女子短期大学附属図書館】**

電話番号 (0238) - 22 - 7334

FAX番号 (0238) - 24 - 7998

E-mail tosho@yone.ac.jp

図書館長 教授 馬場重行
事務責任者 図書館管理専門員 須貝貴美子**【会津大学情報センター附属図書館】**

電話番号 (0242) - 37 - 2544

FAX番号 (0242) - 37 - 2554

E-mail library@u-aizu.ac.jp

情報センター長 教授 マイケルコーエン
事務責任者 事務長 半澤勝造**【会津大学短期大学部附属図書館】**

電話番号 (0242) - 37 - 2458

FAX番号 (0242) - 37 - 2412

E-mail tosho@jc.u-aizu.ac.jp

附属図書館長 (併)教授 井波純

【福島県立医科大学附属学術情報センター】

電話番号 (024) - 547 - 1687

FAX番号 (024) - 547 - 1996

E-mail lib@fmu.ac.jp

センター長 (併)教授 大平弘正
学術情報室長 (併)学生課長 高木正弘**【青森大学附属図書館】**

電話番号 (017) - 738 - 2001

FAX番号 (017) - 738 - 2034

E-mail lib@aomori-u.ac.jp

館 長 (併)教授 堀端孝俊
事務責任者 図書館課長 竹内圭子**【東北女子大学附属図書館】**

電話番号 (0172) - 33 - 2289 (内)117

FAX番号 (0172) - 33 - 2486

E-mail tosyo@tojo.ac.jp

館 長 (併)教授 佐々木 隆

【八戸学院大学・八戸学院短期大学附属図書館】

電話番号 (0178) - 30 - 1695

FAX番号 (0178) - 30 - 1737

E-mail tosyokan@hachinohe-u.ac.jp

館 長 (併)教授 矢野峰生
事務責任者 情報メディア課長 浜章夫**【八戸工業大学図書館・情報事務室】**

電話番号 (0178) - 25 - 8032

FAX番号 (0178) - 25 - 8887

E-mail tosyo@hi-tech.ac.jp

館 長 教授 鈴木寛
事務責任者 事務長 得丸雅夫

【弘前学院大学附属図書館】

電話番号 (0172) - 34 - 5211

FAX番号 (0172) - 32 - 8768

E-mail sisyo2@hirogaku-u.ac.jp

図書館長 (併)教授 佐藤和博

【青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター】

電話番号 (017) - 728 - 0131

FAX番号 (017) - 738 - 8333

E-mail lib@aomoricgu.ac.jp

図書館情報センター長 (併)青森中央学院大学教授

加藤 澄

事務責任者 (併)教育開発推進課長

櫻庭 肇

【岩手医科大学附属図書館】

電話番号 (019) - 651 - 5111

FAX番号 (019) - 625 - 8030

E-mail tosho@j.iwate-med.ac.jp

館長 (併)教授 武田泰典

分館長 (併)教授 松政正俊

事務責任者 事務室長 菅原良子

【富士大学図書館】

電話番号 (0198) - 22 - 4986

FAX番号 (0198) - 23 - 6381

E-mail tosyokan@fuji-u.ac.jp

館長 (併)教授 牧野博

事務責任者 調査役 高橋直樹

【盛岡大学図書館】

電話番号 (019) - 688 - 5561

FAX番号 (019) - 694 - 1048

E-mail tsannohe@morioka-u.ac.jp

館長 (併)教授 林稔

事務責任者 三戸孝子

【修紅短期大学図書館】

電話番号 (0191) - 24 - 2211

FAX番号 (0191) - 24 - 2213

E-mail library@shuko.ac.jp

館長 (併)教授 小室彰

事務職員 小林薰子

【岩手看護短期大学図書館】

電話番号 (019) - 687 - 3864

FAX番号 (019) - 687 - 3894

E-mail library@iwate-nurse.ac.jp

館長 (併)教授 三田光男

事務責任者 (併)講師 情報センター長

三田弥生

【仙台大学附属図書館】

電話番号 (0224) - 55 - 1399

FAX番号 (0224) - 57 - 2062

E-mail library@sendai-u.ac.jp

館長 教授 鈴木省三

事務責任者 課長 川村隆

【仙台白百合女子大学図書館】

電話番号 (022) - 374 - 5090

FAX番号 (022) - 374 - 4577

E-mail library@sendai-shirayuri.ac.jp

館長 (併)教授 芳野総子

事務責任者 図書館事務長 生出登

【石巻専修大学図書館】

電話番号 (0225) - 22 - 7718

FAX番号 (0225) - 22 - 7875

E-mail tsunehiro.nitta.hp@acc.senshu-u.ac.jp

館長 (併)教授 羽田紘一

事務責任者 事務課長 尾崎由明

【東北学院大学中央図書館】

電話番号 (022) - 264 - 6491

FAX番号 (022) - 264 - 6490

E-mail lib-office@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

館長 (併)教授 中川清和

事務責任者 図書情報課長 早坂孝司

【東北学院大学多賀城キャンパス図書館】

電話番号 (022) - 368 - 1206

FAX番号 (022) - 368 - 0777

E-mail lib-office@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

分館長 (併)教授 小池和雄

事務責任者 課長補佐 小野寺芳典

【東北学院大学泉キャンパス図書館】

電話番号 (022) - 375 - 1174

FAX番号 (022) - 375 - 2121

E-mail lib-office@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

分 館 長 (併)教 授 松 本 秀 明
事 務 責 任 者 課 長 補 佐 石 山 仁**【東北工業大学附属図書館】**

電話番号 (022) - 305 - 3178

FAX番号 (022) - 305 - 3180

E-mail nhayasak@tohtech.ac.jp

館 長 (併)教 授 高 橋 恒 夫
事 務 責 任 者 事 務 長 早 坂 のり子**【東北福祉大学図書館】**

電話番号 (022) - 717 - 3319

FAX番号 (022) - 717 - 3339

E-mail lib@tfu-mail.tfu.ac.jp

館 長 (併)教 授 高 橋 美由紀
事 務 責 任 者 本 間 雅 人**【東北文化学園大学図書館】**

電話番号 (022) - 233 - 3878

FAX番号 (022) - 233 - 9453

E-mail lib@office.tbgu.ac.jp

館長センター長 (併)教 授 森 田 慎二郎
事 務 責 任 者 副 部 長 長 澤 良 信**【東北薬科大学附属図書館】**

電話番号 (022) - 727 - 0061

FAX番号 (022) - 273 - 5255

E-mail library@tohoku-pharm.ac.jp

館 長 (併)教 授 松 山 雄 三
事 務 責 任 者 事 務 課 長 菅 原 健 士**【宮城学院女子大学図書館】**

電話番号 (022) - 279 - 5658

FAX番号 (022) - 279 - 6077

E-mail library@mgu.ac.jp

館 長 (併)教 授 豊 澤 弘 伸
事 務 責 任 者 大 学 事 務 部 長 補 佐 赤 井 史 之**【尚絅学院大学図書館】**

電話番号 (022) - 381 - 3440

FAX番号 (022) - 381 - 3441

E-mail library@shokei.ac.jp

館 長 (併)教 授 高 橋 真

【聖和学園短期大学図書館】

電話番号 (022) - 376 - 8257

FAX番号 (022) - 376 - 3155

E-mail seiwatandai.toshokan@seiwa.ac.jp

館 長 (併)教 授 金 野 吉 光
事 務 責 任 者 司 書 安 田 明 華**【仙台青葉学院短期大学図書館】**

電話番号 (022) - 369 - 8003

FAX番号 (022) - 215 - 0950

E-mail lib@seiyogakuin.ac.jp

館 長 (併)教 授 成 澤 広 幸

【東北生活文化大学附属図書館】

電話番号 (022) - 272 - 7518

FAX番号 (022) - 301 - 5601

E-mail library@mishima.ac.jp

館 長 (併)教 授 土 井 豊

【ノースアジア大学附属図書館】

電話番号 (018) - 836 - 2406

FAX番号 (018) - 836 - 4402

E-mail nauilib@nau.ac.jp

館 長 (併)理事長総室長 佐々木 香
事 務 責 任 者 教務学生課長 山 田 浩 之**【東北芸術工科大学図書館】**

電話番号 (023) - 627 - 2044

FAX番号 (023) - 627 - 2085

E-mail library @ aga.tuad.ac.jp

館 長
事 務 責 任 者 図書館事務長 芳 賀 幹 代

【羽陽学園短期大学附属図書館】

電話番号 (023) - 655 - 2385

FAX 番号 (023) - 655 - 2844

E-mail tosho@uyo.ac.jp

館長 (併)教授 柏倉 弘和
事務責任者 図書係長 高橋 明子

【東北文教大学・東北文教大学短期大学部付属図書館】

電話番号 (023) - 688 - 7544

FAX 番号 (023) - 688 - 6438

E-mail library@t-bunkyo.ac.jp

館長 教授 畠山 孝男
副館長 教授 松田 浩平
事務責任者 課長補佐 半澤 幸子

【東北公益文科大学メディアセンター】

電話番号 (0234) - 41 - 1177

FAX 番号 (0234) - 41 - 1173

E-mail media@koeki-u.ac.jp

メディアセンター長 (併)教授 三原 容子

【いわき明星大学図書館】

電話番号 (0246) - 29 - 7121

FAX 番号 (0246) - 29 - 5001

E-mail library@iwakimu.ac.jp

館長 (併)教授 東之弘
事務責任者 学術情報支援室長 馬目高伸

【奥羽大学図書館】

電話番号 (024) - 932 - 8931

FAX 番号 (024) - 932 - 8944

E-mail ohu-lib@jim.ohu-u.ac.jp

館長 安藤 勝
事務責任者 図書課長 黒田 よし子

【郡山女子大学図書館】

電話番号 (024) - 932 - 4848

FAX 番号 (024) - 924 - 1394

E-mail library@koriyama-kgc.ac.jp

館長 (併)教授 影山 彌
副館長 (併)教授 二宮 和比古
事務責任者 (併)非常勤講師 和知 剛

【東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館】

電話番号 (0246) - 35 - 0416

FAX 番号 (0246) - 25 - 9188

E-mail lib@tonichi-kokusai-u.ac.jp

館長 (併)教授 北見 正伸

【日本大学工学部図書館】

電話番号 (024) - 956 - 8642

FAX 番号 (024) - 956 - 8869

E-mail tosyokan@ao.ce.nihon-u.ac.jp

館長 (併)教授 竹中 豊文
事務責任者 図書館事務課長 野口 真一

【桜の聖母短期大学図書館情報センター】

電話番号 (024) - 533 - 3840

FAX 番号 (024) - 533 - 3840

E-mail lib-c@ssjc.ac.jp

館長(センター長) (併)教授 小泉 泰宏
事務責任者 司書 津田 文子

【福島学院大学図書館情報センター】

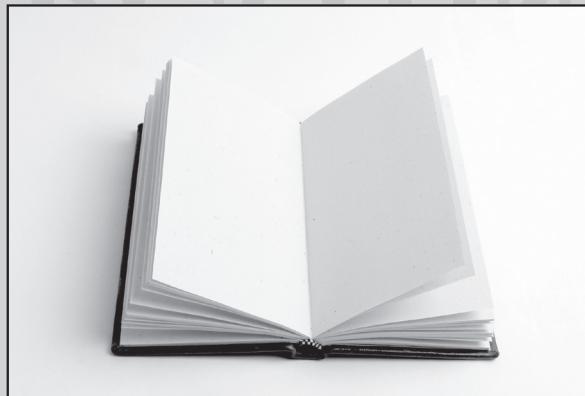
電話番号 (024) - 553 - 2087

FAX 番号 (024) - 553 - 8253

E-mail tosho@fukushima-college.ac.jp

館長 (併)准教授 呂学加
事務責任者 業務課長 佐藤 幸

Smart PLATON



弊社の法人向けインターネット書店である BookWeb Pro/BookWeb Pro SuperVisor の上位版として、*Smart PLATON* が誕生いたしました。

従来の BWP/BWP-SV の制限を解消し、お客様による予算コードの登録 / 更新や発注の集中管理など、お客様の業務フローに寄り添った運用が可能となります。

弊社への注文分のみを管理される場合は、無料でご提供致します。

弊社以外への注文管理を含めたオプション機能の詳細については、営業所までお問い合わせ下さい。

図書館の発注管理の集中化・迅速化に *Smart PLATON* を！

【購入依頼のオンライン化と発注の集中管理】

- ・教官や学生からの購入依頼を、オンラインで受け付けます。

【多彩な選書機能】

- ・紀伊國屋書店提供の出版流通情報データベースから選書が可能です。
- ・コンテンツサーバとリンクし、画像付きの詳細な書誌情報をご確認頂けます。

【あいまい検索を活用した便利な重複調査】

- ・あいまい検索を活用した Smart PLATON の発注履歴との重複調査と、OPAC 公開データとの一括重複調査※ が可能です。

【高度な継続管理機能】

- ・目録装備を踏まえた高度な継続図書管理機能をご提供致します※。

(※印は、追加オプションになります)



ライブラリーサービス営業本部 PLATONセンター
〒153-8504 東京都目黒区下目黒3丁目7番10号
☎ (03) 6910-0535 Fax (03) 6420-1370
E-mail:platon@kinokuniya.co.jp

お問い合わせ先:

東北営業部 仙台営業所

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-6-10仙台北辰ビル

☎ (022) 227-0301 Fax (022) 266-5312

東北営業部 弘前営業所

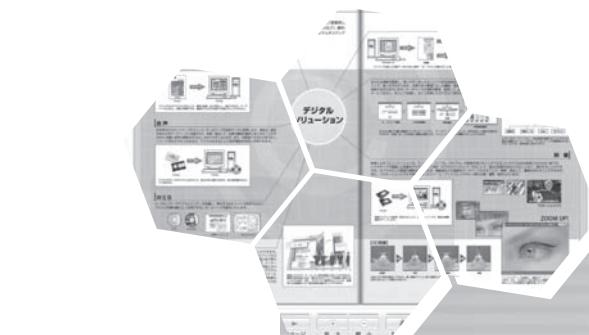
〒036-8182 青森県弘前市土手町126-1

☎ (0172) 36-3755 Fax (0172) 36-5649

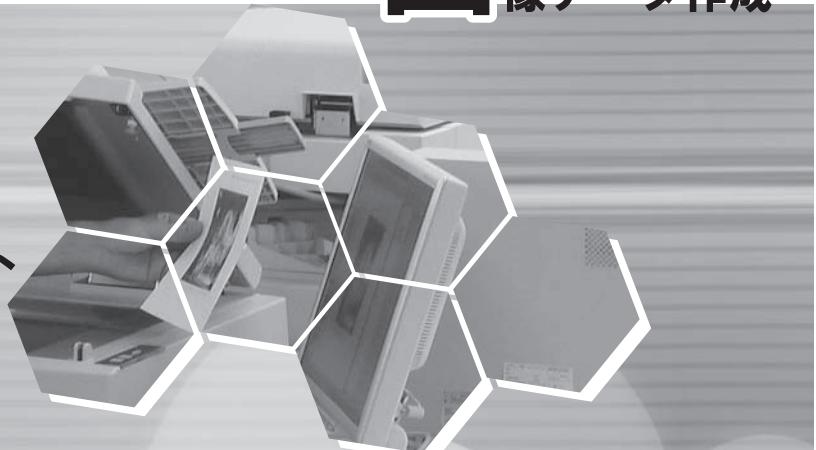
For the wisdom into the Next.

コレクション
ドキュメント
の活用のための

DIGITAL SOLUTIONS



画像データ作成



機関リポジトリサポート



検索用メタデータの作成

研究・公開・利用のための、貴重資料や研究成果物などの電子化。

再利用・バックアップ・保管コスト削減のための、書類・図面などのデータ化。

共有・活用、長期保存など、大切な情報資産の有効に欠かせないデジタル化に対し、効率のよいデータ化・コンテンツづくりから、システム構築・Web公開・運用、長期保存対策まで、ワンストップでサポートします。

ナカバヤシ株式会社 図書館ソリューション営業部

仙台営業所 〒984-0002 仙台市若林区卸町東1丁目6-27 TEL:022-284-3045 FAX:022-239-7550

東京本社	〒174-8602	東京都板橋区東坂下2丁目5-1	TEL:03-3558-1251	FAX:03-3558-1260
大阪支社	〒536-0005	大阪市城東区中央2丁目1-23	TEL:06-6930-6668	FAX:06-6935-2667
名古屋支店	〒456-0053	名古屋市熱田区一番2丁目2-6	TEL:052-661-3771	FAX:052-661-3775
福岡支店	〒812-0051	福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11	TEL:092-641-3661	FAX:092-641-3699

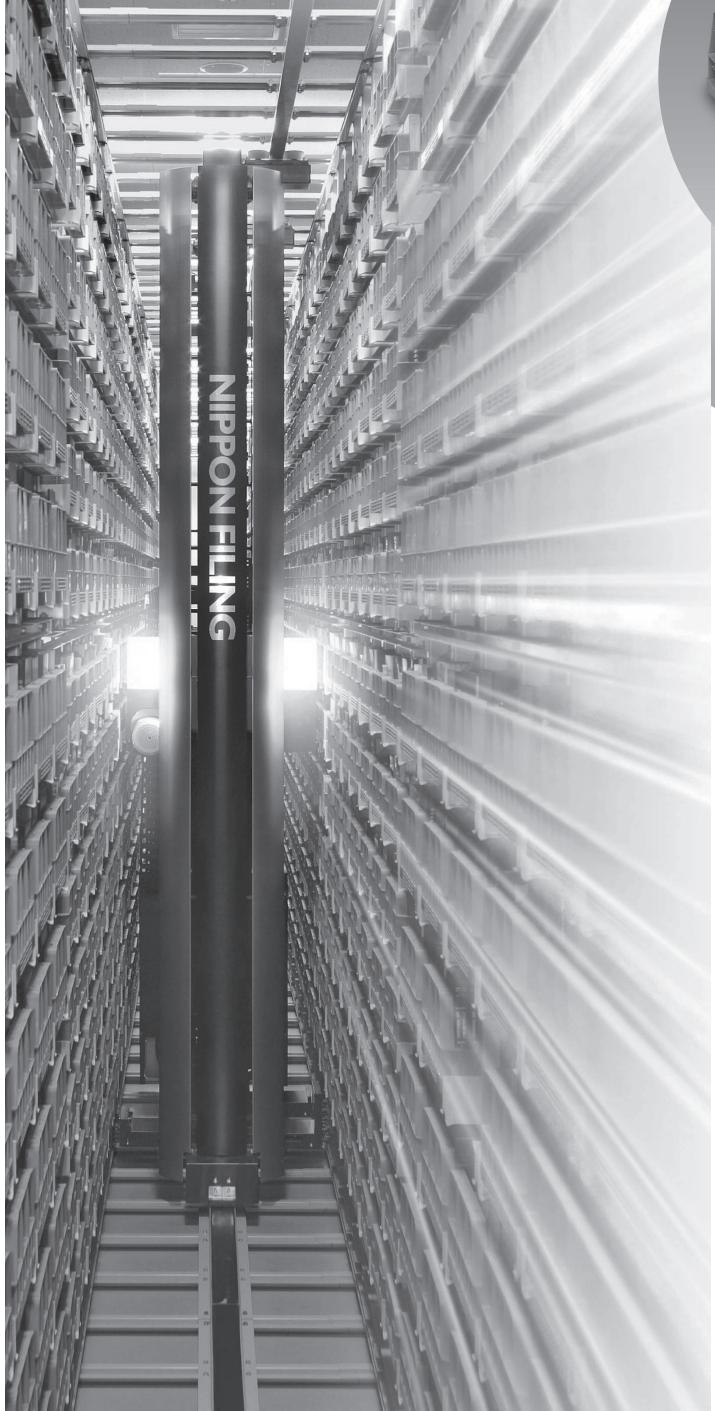
PDFデータ入稿で、原稿を持ち込むことなく製本づくり。
FUERU FINEBOOK: <http://www.fueru.jp/finebook/>

E-mail: toshokan@nakabayashi.co.jp



Auto Lib.

[自動化書庫]



書庫の中の「見える化」を実現。映像システムにより、図書返却直後のコンテナ内図書と書庫データとの照合で、確実な蔵書点検を可能にしました。更にICタグでは、コンテナ内の図書を一括読み取りして、自動確認を極めて高い精度で実現。オートライブならではの短時間で行える蔵書点検システムは、より確実な運用をサポートします。

自動化書庫オートライブの特徴

- 独自の運用システム・管理データにより、従来型書庫では出来なかった新しい利用者サービスの提供
- 出納作業及びカウンター業務の軽減による大幅な省力効果
- 利用者を待たせない高速出納
- 図書・資料の限られた空間への大量保管を実現

よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

日本ファイリング株式会社

本社／〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2（新御茶ノ水アーバンビル）
支店／大阪・名古屋 営業所／札幌・仙台・広島・福岡

ISO14001

ISO9001

認証取得企業

資料請求・お問い合わせは ▶ <http://www.nipponfiling.co.jp> ☎ 0120-808-977 電話受付／月～金(土・日・祝日を除く) 9:00～17:00



読む eBook から調べる eBook・共有する eBook へ
– eBook から新しく広がる電子リソース

ebrary Knowledge Unbound

人類学 / ビジネス・経済 / コンピュータ・IT / 教育 / 芸術 / 歴史 / 言語・文学 / 法律 / 生命科学 / 医学 / 物理化学 / 心理学 / 宗教 / 社会科学 / テクノロジー ほか
60万タイトル以上を収録

ebrary は世界有数の出版社約 500 社から出版された e-book を収集し、ひとつのプラットフォームから検索・閲覧できるようにした e-book コレクションです。世界的に信頼が高い出版社から収録された書籍は様々な分野を包括的にカバーし、今後も継続的に追加されていきます。分野別パッケージの年間購読から単独タイトルの買い切りまで、各機関のニーズに合わせたご契約モデルをご用意しました。ebrary は、これまで一般的だった読む e-book の概念を超えて、クリエイティブな電子図書館環境をご提供します。

- 契約モデル：年間購読、またはタイトル別買切
- 電子書籍なので遠隔地のユーザーにも 24 時間体制のサービス提供が可能です。
- 同時利用者数に縛られず、同時に複数人が同じ書籍を利用することができます。
- 書架の確保、貸出作業、保存などの手間がかかりません。
- 世界の著名な出版社から出版された様々な分野の最新の書籍をご提供します。
- 収録コンテンツは今後も継続的に追加されます。

The screenshot shows the ebrary search interface with the following details:
 - Top navigation bar: インフォメーション, 検索, QuickView, ブックシェルフ.
 - Search bar: 簡易検索: Global warming, 検索ボタン, フルパンスト検索を非表示, 全分野.
 - Filter buttons: タイトル表示, チャプター表示, 検索履歴.
 - Search instructions: 検索を記述し終えたら、"ebraryを検索"ボタンをクリックしてください.
 - Advanced search fields: 検索項目 [テキストとキー項目] が以下を [含む], ... and [テキストとキー項目] が以下を [含む].
 - Bottom button: ebraryを検索.

【検索画面】

シンプルかつ見やすいインターフェイスで、基本検索・詳細検索ともに同一画面から始めることができます。

The screenshot shows the ebrary search results page for 'Global warming'. The results are listed in a grid format with the following columns:
 - Title (書名)
 - Author (著者)
 - Description (説明)
 - Type (種別)
 - Date (発行年)
 - Language (言語)
 - Source (元情報源)
 - Preview (プレビュー)
 - Details (詳細)

【リスト表示画面】

検索したコンテンツの中でも、最も関連性のあるチャプターを含む書籍がランク順に表示されます。

The screenshot shows a book preview for 'In Reduce Greenhouse Gas Industry'. The left sidebar shows the table of contents and search function. The main content area displays the first few pages of the book, which discusses greenhouse gas reduction strategies in the industry.

【書籍表示画面】

本文中の選択した語彙や文章を他のオンラインリソースにリンクして調べるなど、さまざまな編集機能があります。

価格・詳細については下記までお問い合わせください。



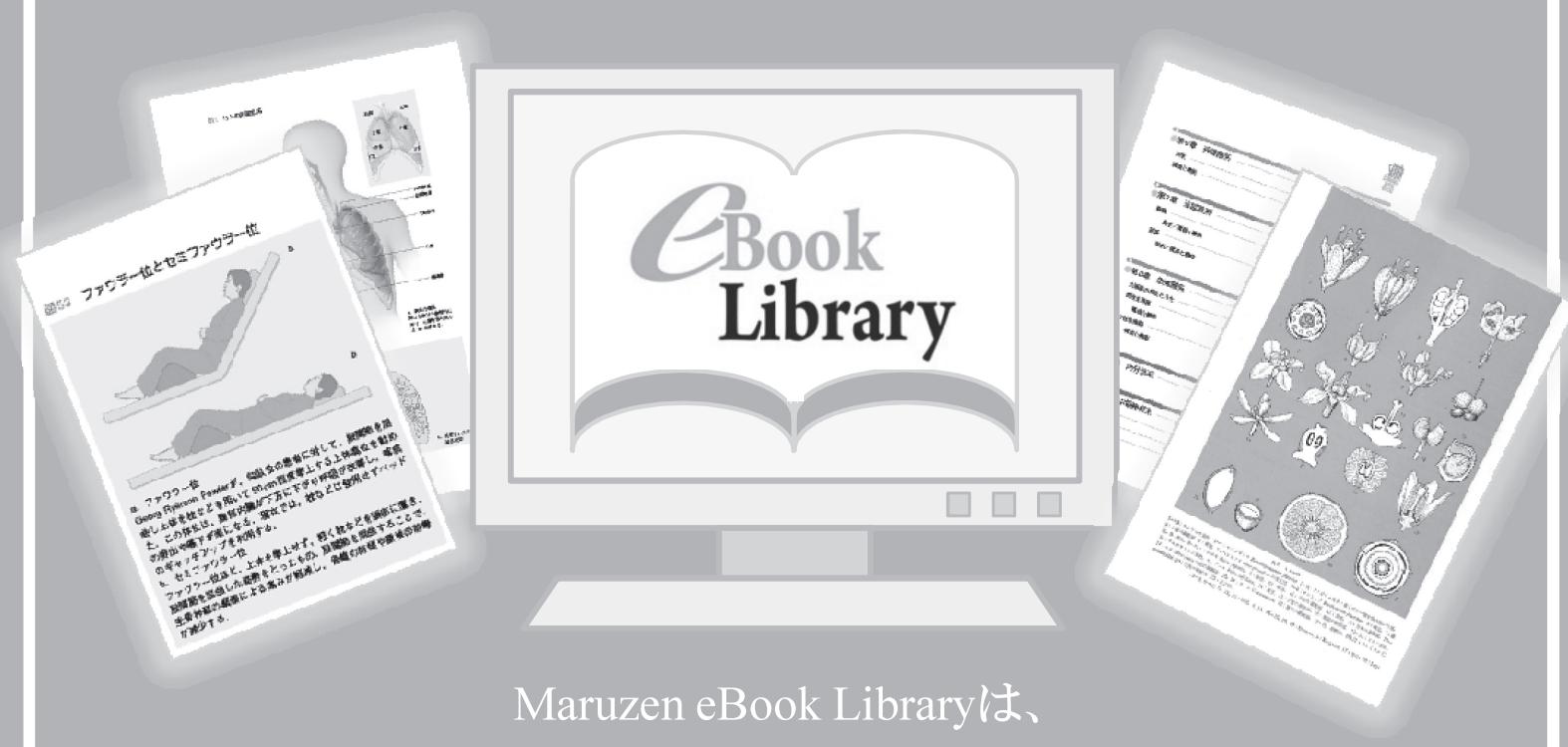
株式会社 雄松堂書店

本社：〒160-0002 東京都新宿区坂町27 Tel: 03-3357-1411 Fax: 03-3356-8730 E-mail: sales@yushodo.co.jp
京都：〒604-8101 京都市中京区御池通柳馬場角 京都朝日ビルディング5F Tel: 075-222-0165 Fax: 075-256-2032 E-mail: kb@yushodo.co.jp

無料トライアル随时受付中

Home Page: www.yushodo.co.jp

パソコンから閲覧できる 図書があります



Maruzen eBook Libraryは、
学術分野の図書が読める電子書籍サイトです。
レポート、論文作成にぜひお役立てください。

ダウンロード
・印刷

本文
キーワード
検索

シリーズ本
横断検索

書誌情報の
ダウンロード

簡単アクセス

<https://elib.maruzen.co.jp>



URLからアクセス

上記URLにアクセスして「購読契約タイトル一覧」をクリック
>書籍一覧ページ>「閲覧」ボタンで本文が開きます。

(購読契約タイトル一覧)

検索



図書館HPからアクセス

図書館のトップページにアクセス>電子書籍へのリンク「※ここにリンク名を入力
ください」をクリック>書籍一覧ページが開きます。

クリック★

お問合せは丸善へ

仕事には、仕事のタブレット。



①薄さ7.99mm、軽さ約540g！

②最長13時間駆動^{*}バッテリ！

③充実のセキュリティ！



LifeTouch ライフタッチ L ビジネス

LifeTouch L ビジネス向けモデル ○OMAP 4460(デュアルコア1.5GHz) ○10.1型ワイドLED液晶 ○静電式タッチパネル ○無線LAN IEEE802.11a/b/g/n ○HDMI出力対応 ○企業ネットワークへの安全接続などの各種セキュリティ機能 ○Microsoft® Office文書の閲覧、編集アプリQuickoffice® 搭載他

 NECのスマートデバイス

NEC東北支社 T980-6025 仙台市青葉区中央4-6-1(住友生命仙台中央ビル) TEL:022-267-8760

*ホームページ閲覧でLCD輝度を[画面の明るさ]で最も低い設定、無線LANはオン状態にした場合の駆動時間。実際の駆動時間は使用環境により異なります。●Android™は、Google Inc.の商標です。●Microsoftは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。QuickofficeはQuickoffice Inc.の登録商標です。●HDMIは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。●LifeTouchは、日本国内におけるNECの登録商標です。●本広告に記載されている会社名、商品名は一般に各社の商標または登録商標です。



人と地球にやさしい情報社会へ

<http://jpn.nec.com/>

東北地区大学図書館協議会誌 第 64 号

平成 25 年 4 月

発 行 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学附属図書館内

東北地区大学図書館協議会

☎ (022) 795-5910

編 集 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学附属図書館
